

平成 29 年度学修行動や満足度等に関する間接評価調査（学生 IR 調査）

【全体概要】

Ⅱ. 大学に入学してからの学習状況について

設問 7 大学の授業内容や特徴に関する項目

設問 7B「仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ」では、保健福祉学科 1・2 年次と歯科衛生学科 1 年次の全学生が「学んだ」と回答したが、歯科衛生学科 2・3 年次学生の少数ではあるが「学ぶことはなかった」と回答していた。設問 7E「学生自身が文献や資料を調べる」では、「調べる機会があった」と歯科衛生学科 3 年次では 7 割、保健福祉学科 1 年次では 6 割の学生が回答したが、保健福祉学科 2 年次では 8 割の学生が「なかった」と回答した。設問 7F「定期的に小テストやレポートが課される」では、歯科衛生学科全学年と保健福祉学科 1 年次で 9 割の学生が「課された」と回答したが、保健福祉学科 2 年次では 4 割の学生が「課されなかった」と回答した。設問 7H「学生が自分の考えや研究を発表する」では、「発表する機会はなかった」と 4 割から 6 割の歯科衛生学科全学年と保健福祉学科 2 年次が回答したが、保健福祉学科 1 年次では 7 割の学生が「発表する機会があった」と回答した。設問 7I「授業中に学生同士が論議する」では、両学科ともに 5 割以上の学生が「論議する機会があった」と回答した。設問 7K「授業の進め方に学生の意見が取り入れられる」では、両学科ともに 5 割以上の学生が「意見を取り入れられることはなかった」と回答した。設問 7N「TA・SA（上級生）から補助・指導を受ける」では、歯科衛生学科全学年と保健福祉学科 2 年次では 6 割以上の学生が「補助・指導を受けた」と回答し、「受けることはなかった」と保健福祉学科 1 年次の 5 割の学生が回答した。

設問 10 入学時点と比べた能力や知識の変化

設問 10B「分析力や問題解決能力」、設問 10D「批判的に考える能力」、設問 10H「他の人と協力して物事を遂行する能力」、設問 10L「文章表現の能力」、設問 10O「プレゼンテーション能力」では、学年が上級になるに従って「以前より能力は増えた」と回答する学生が両学科において増加していた。また、設問 10F「リーダーシップ能力」については、「以前より能力は増えた」と回答した学生は両学科とも 4 割程度かそれ以下で、特に、保健福祉学科 2 年次では 1 割にも満たない回答であった。設問 10G「人間関係を構築する能力」では、「以前より能力は増えた」と回答した学生は、歯科衛生学科と保健福祉学科の 2 年次以外で 5 割から 6 割であった。設問 10N「コミュニケーションの能力」については、歯科衛生学科 2 年次以外の学生は、5 割から 6 割「以前より能力は増えた」と回答した。

V. 大学生活に対する考えや満足度について

設問 21 教育内容の満足度

設問 21C「授業の全体的な質」では、歯科衛生学科 2 年次以外の学生は 5 割から 7 割が「満足している」と回答した。設問 21D「日常生活と授業内容の関連」では、歯科衛生学科 2 年次以外の学生は 5 割から 8 割が「満足している」と回答した。設問 21E「将来の仕事と授業の結びつき」、設問 21H「他の学生と話をする機会」では、両学科の学生の 5 割から 8 割が「満足している」と回答した。

設問 22 設備や学生支援制度の満足度

設問 22A～I「図書館」「実習室」「コンピュータ」「インターネット」「奨学金」「健康・保健サービス」「レクリエーション施設」「キャリアカウンセリング」に関しては、両学科とも 1 年次に比べ上級学年の「満足度」は低値を示していた。

VI. 卒業後の進路について

設問 23「卒業後の進路の予定」、設問 24「将来の見通しと現在の状態」では、両学科ともに 7 割以上の学生が卒業後「就職や進学」を予定し、将来の見通しでは「現在、何をすべきか」を把握していた。設問 25A「専門分野の知識・技術を身に付け、国家試験に合格できる教育を受ける」、設問 25B「専門分野だけでなく、幅広い知識を身に付け視野を広げる」では、9 割以上の両学科学生が「国家試験合格」や「幅広い知識を身に付け視野を広げたい」と回答した。また、設問 25C「職業意識の形成につながる教育を受ける」、設問 25F「自分で課題を見つけ、自分で解決していくような訓練を受ける」では、8 割から 9 割の両学科学生が「受けている」と回答していた。設問 25G「ディベート（討論）やプレゼンテーションの訓練を受ける」、設問 25I「レポートや論文指導により、文書作成能力を高める」については、7 割から 8 割の両学科学生が「受けている」「高めている」と回答していた。

【課題】

- 1) 入学時点と比べた能力や知識は様々なことを体験することにより培われることから、上級学年になるに従って増えているが、その割合を今以上に増加させる必要がある。特に「リーダーシップ能力」については、両学科とも 4 割程度かそれ以下に留まっているため、リーダー的役割を全ての学生が体験できるグループ編成や授業形態を組み立てる。また、歯科衛生学科 2 年次は、学年の狭間にあるため中弛みが生じている可能性が高く、1 年次でのモチベーションを持続させるための実践を中心とした学外実習を早期から段階的に体験させるような授業内容を考案する必要がある。

- 2) 授業中に学生同士が論議する機会はあるが、自分の考えや研究をまとめて発表する機会は少なかったと回答している学生が多いことから、「分析力や問題解決」、「批判的に思考する」、「他者と協力して物事を遂行する」ための発表の場を初年次より設定することで、コミュニケーションやプレゼンテーション、文章表現等の能力の積み上げが期待できる。そのためには、科目間での連携が必要となるのでカリキュラムの見直しを図り、学修支援プログラムの促進を検討していきたい。
- 3) 設備の満足度を上げることは難しいが、人的資源を効率よく活用し学生の支援体制づくりを進めていきたい。

実 施 日	歯科衛生学科	1年次	平成29年10月2日(月)
	歯科衛生学科	2年次	平成29年10月5日(木)
	歯科衛生学科	3年次	平成29年9月29日(金)
	保健福祉学科	1年次	平成29年9月27日(水)
	保健福祉学科	2年次	平成29年10月4日(水)
講 義 名	学生 IR 調査		
所 属	歯科衛生学科	1年次	60/61名 (女性60/61名)
	歯科衛生学科	2年次	61/69名 (女性61/69名)
	歯科衛生学科	3年次	80/81名 (女性80/81名)
	保健福祉学科	1年次	19/19名 (男性7/7名、女性12/12名)
	保健福祉学科	2年次	12/13名 (男性3/3名、女性9/10名)

1. 取組の趣旨

現在、学習支援や教育支援及び教学的評価などの教学支援組織を通じ、高等教育の質を保証・向上させる方策の具体化が求められている。本学では、学生の学修成果を多面的に評価し、高等教育の質保証システムの創出と教学支援組織のさらなる育成を目指すことを目的に、「学生 IR 調査」を平成26年度から継続実施している。

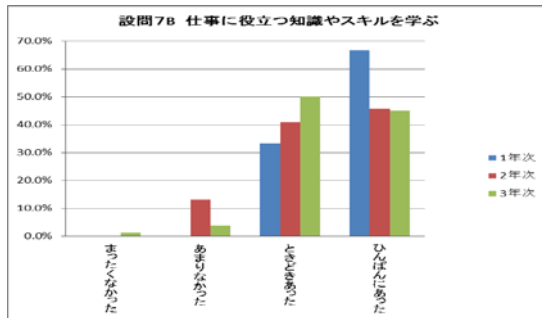
今回、平成29年度の両学科学生（歯科衛生学科と保健福祉学科）の調査結果について、A) 全般的な学修状況と課外学修、B) 学生満足度を含めた教育の質保証の観点に基づき、それぞれの結果と今後の課題について取り纏めた。

II. 大学に入学してからの学習状況について

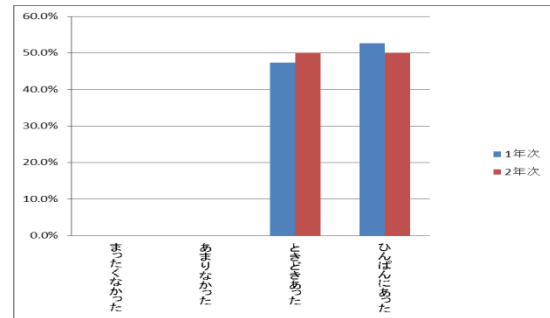
設問7 大学の授業内容や特徴に関する項目

B. 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ

【歯科衛生学科】

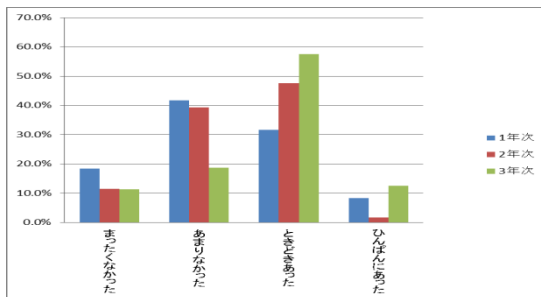


【保健福祉学科】

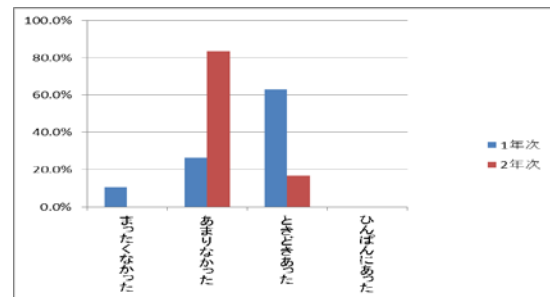


E. 学生自身が文献や資料を調べる

【歯科衛生学科】

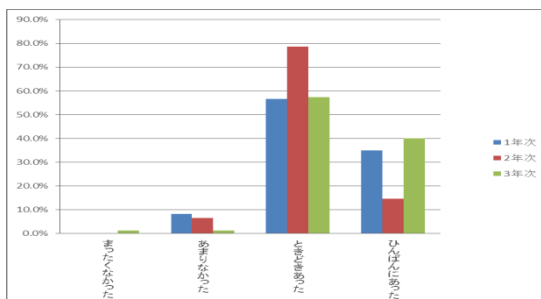


【保健福祉学科】

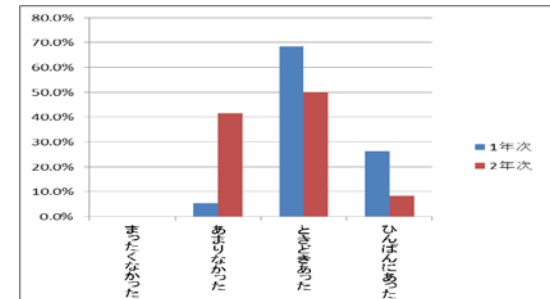


F. 定期的に小テストやレポートが課される

【歯科衛生学科】

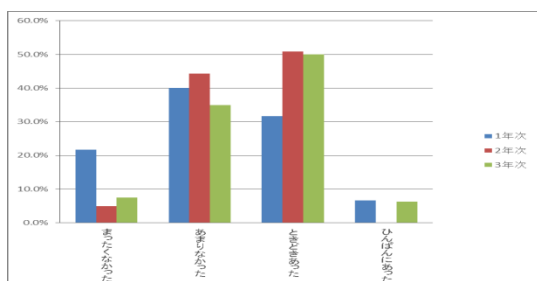


【保健福祉学科】

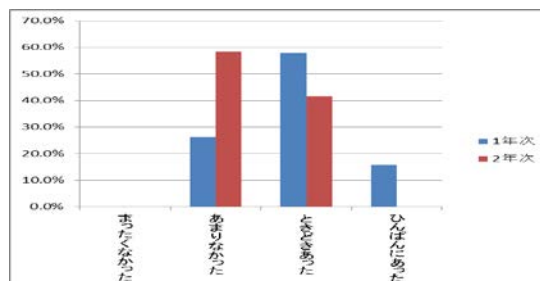


H. 学生が自分の考えや研究を発表する

【歯科衛生学科】

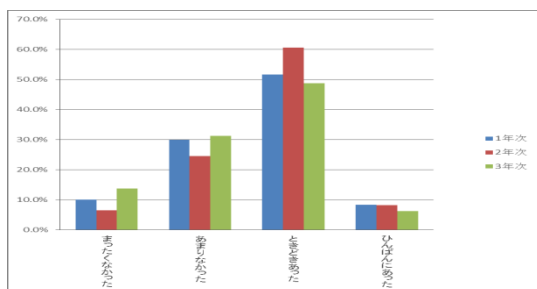


【保健福祉学科】

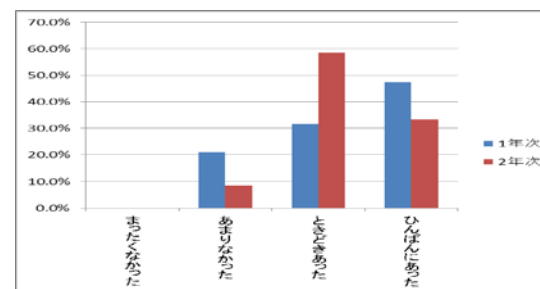


I. 授業中に学生同士が論議をする

【歯科衛生学科】

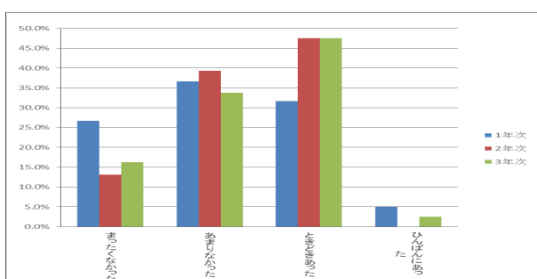


【保健福祉学科】

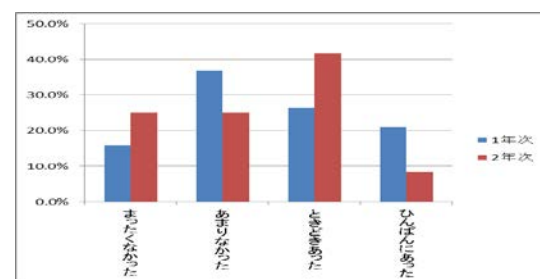


K. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる

【歯科衛生学科】

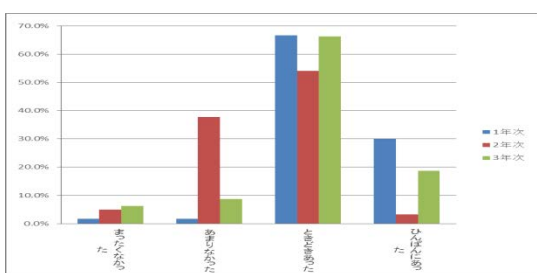


【保健福祉学科】

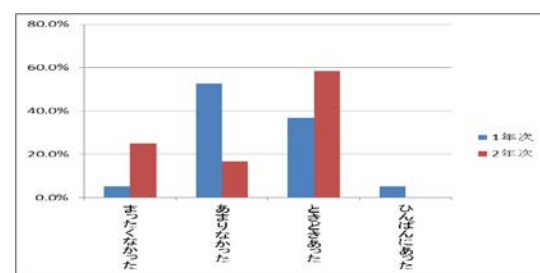


N. TA・SA（上級生や専攻科生）から補助・指導を受ける

【歯科衛生学科】



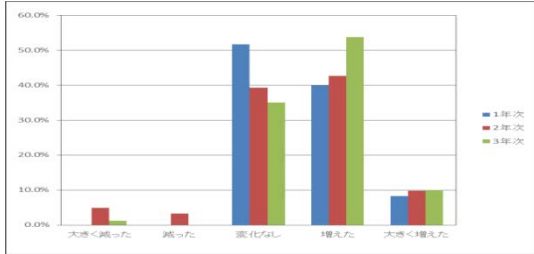
【保健福祉学科】



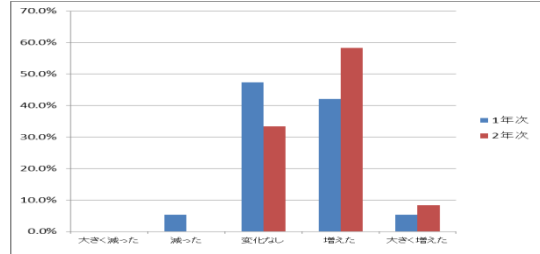
設問 10 入学時点と比べた能力や知識の変化

B. 分析力や問題解決能力

【歯科衛生学科】

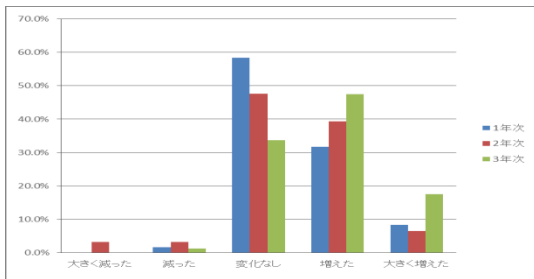


【保健福祉学科】

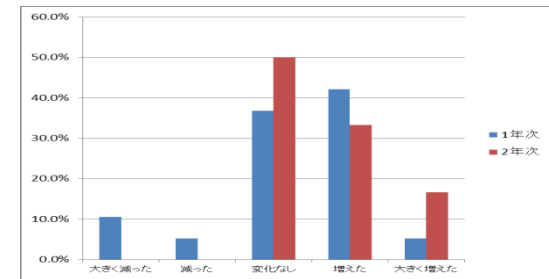


D. 批判的に考える能力

【歯科衛生学科】

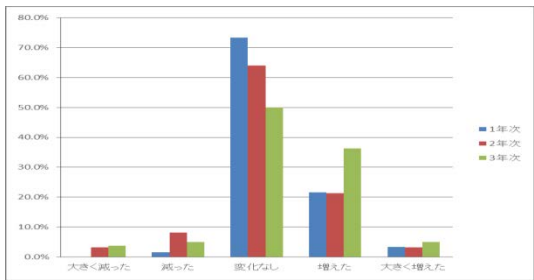


【保健福祉学科】

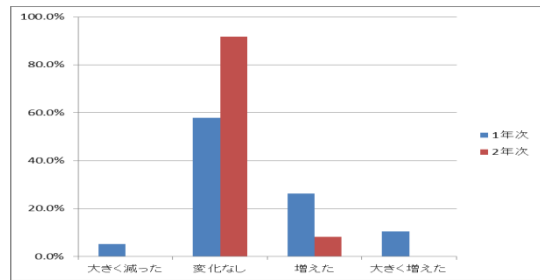


F. リーダーシップの能力

【歯科衛生学科】

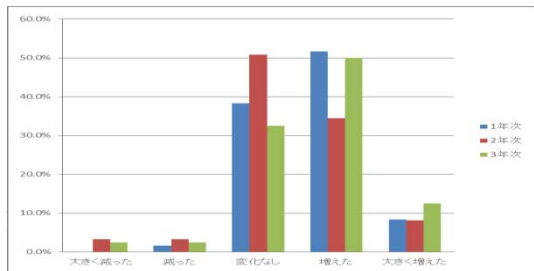


【保健福祉学科】

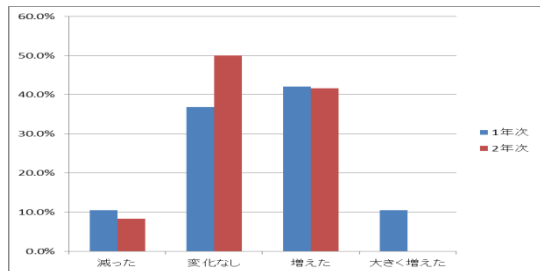


G. 人間関係を構築する能力

【歯科衛生学科】

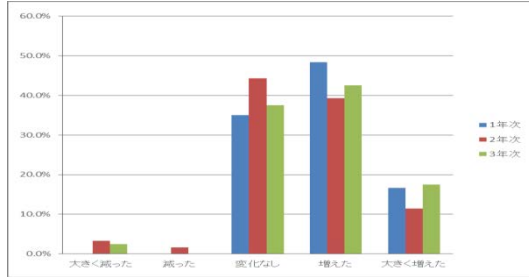


【保健福祉学科】

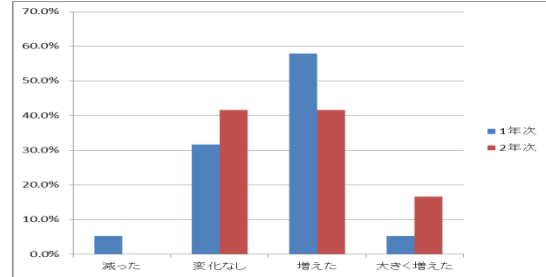


H. 他の人と協力して物事を遂行する能力

【歯科衛生学科】

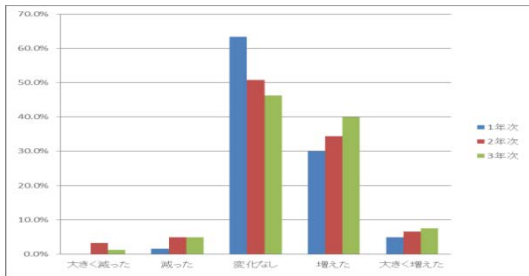


【保健福祉学科】

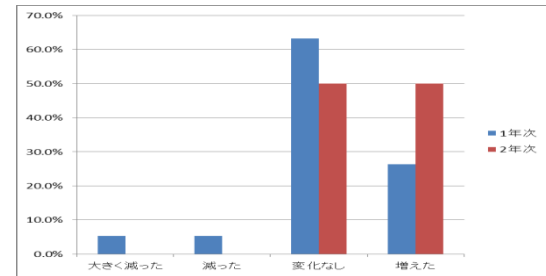


L. 文章表現の能力

【歯科衛生学科】

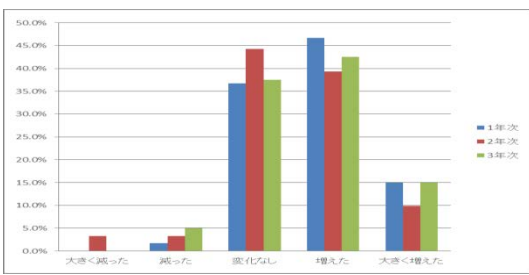


【保健福祉学科】

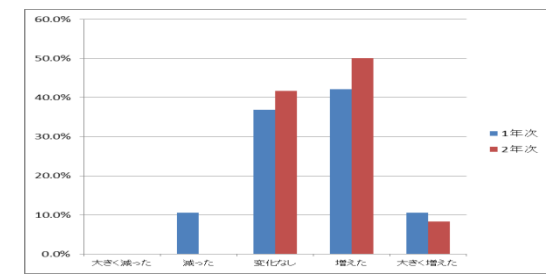


N. コミュニケーションの能力

【歯科衛生学科】

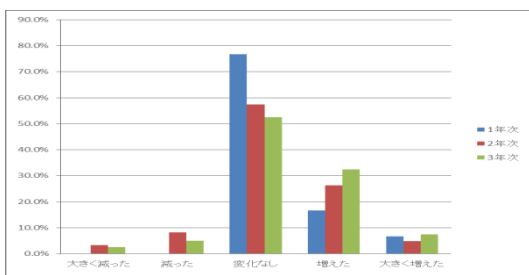


【保健福祉学科】

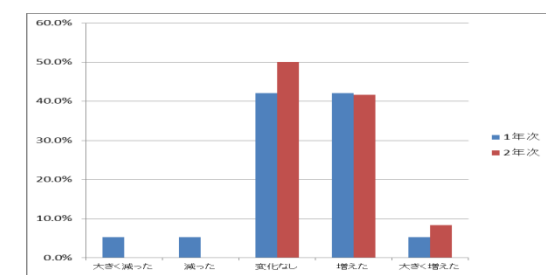


O. プレゼンテーションの能力

【歯科衛生学科】



【保健福祉学科】

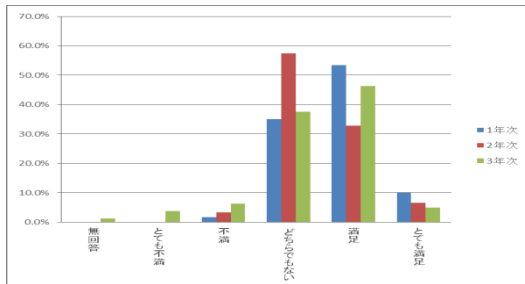


V. 大学生活に対する考えや満足度について

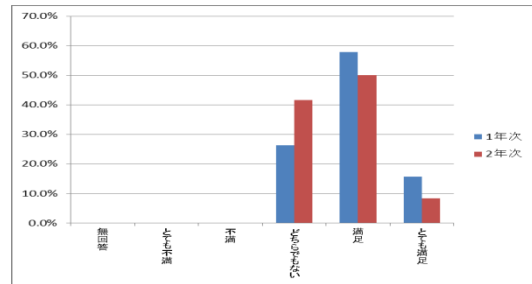
設問 21 教育内容の満足度

C. 授業の全体的な質

【歯科衛生学科】

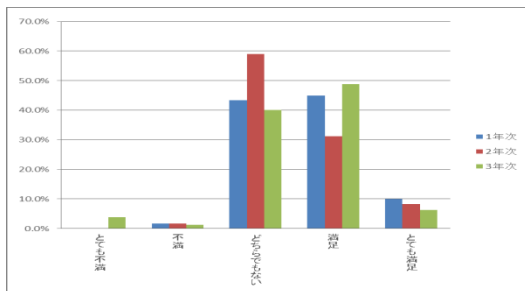


【保健福祉学科】

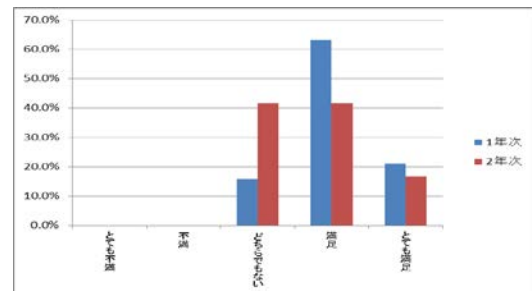


D. 日常生活と授業内容との関連

【歯科衛生学科】

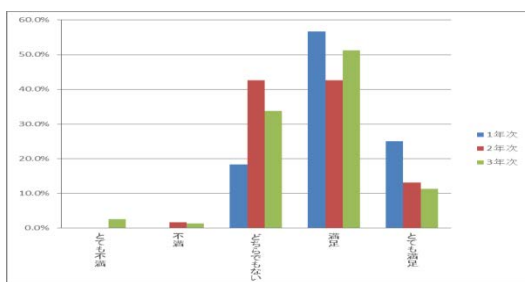


【保健福祉学科】

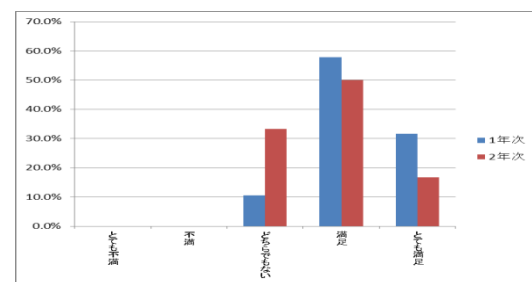


E. 将来の仕事と授業内容との結びつき

【歯科衛生学科】

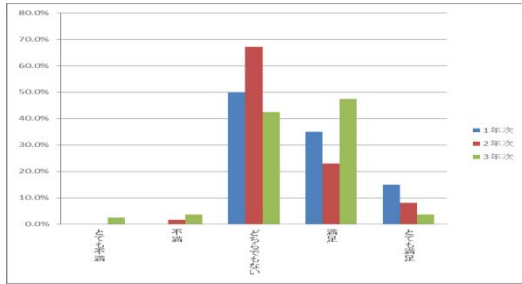


【保健福祉学科】

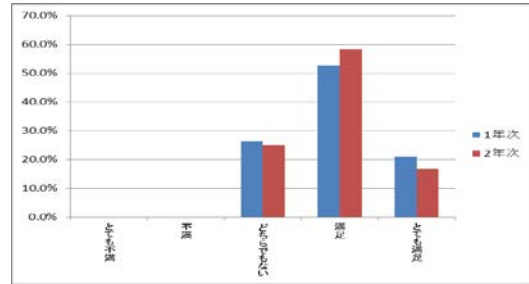


F. 教員と話をする機会

【歯科衛生学科】

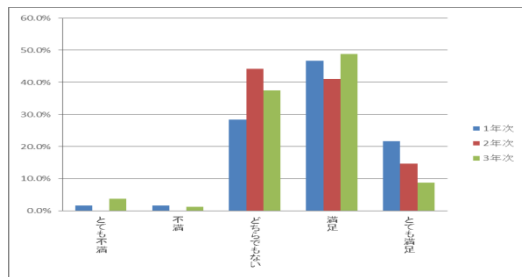


【保健福祉学科】

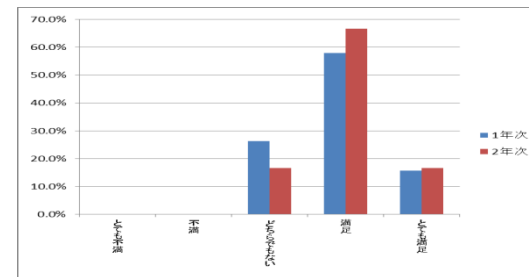


H. 他の学生と話をする機会

【歯科衛生学科】



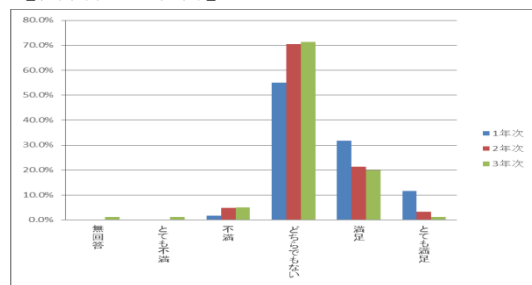
【保健福祉学科】



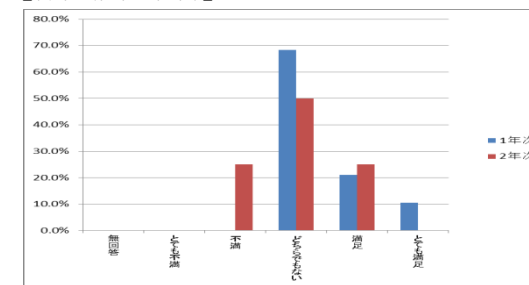
設問 22 設備や学生支援制度の満足度

A. 図書館の設備(蔵書やレファレンスサービス：図書館員による情報提供・資料検索他)

【歯科衛生学科】

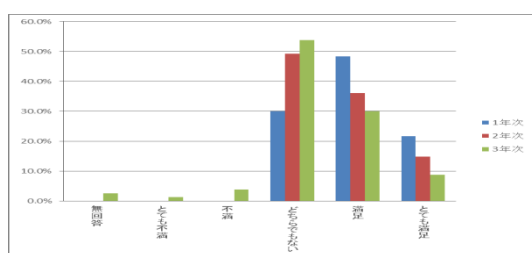


【保健福祉学科】

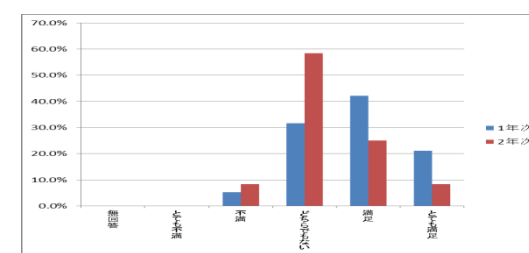


B. 実習室の設備や器具

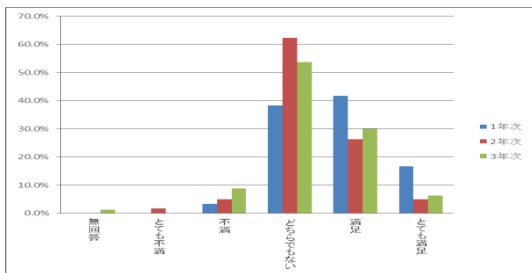
【歯科衛生学科】



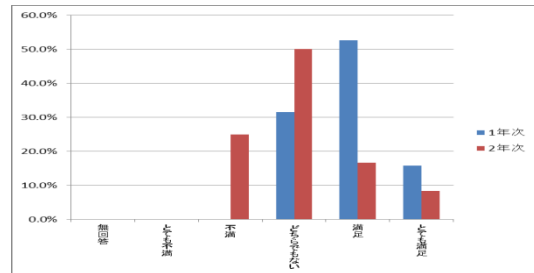
【保健福祉学科】



【歯科衛生学科】

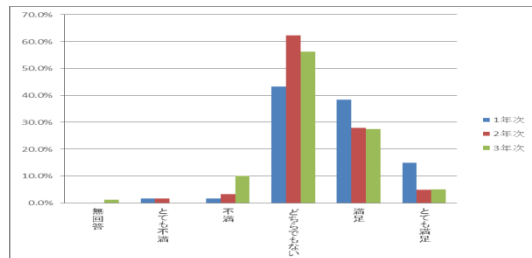


【保健福祉学科】

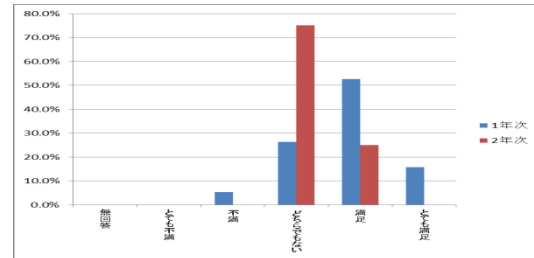


D. コンピュータの訓練や援助

【歯科衛生学科】

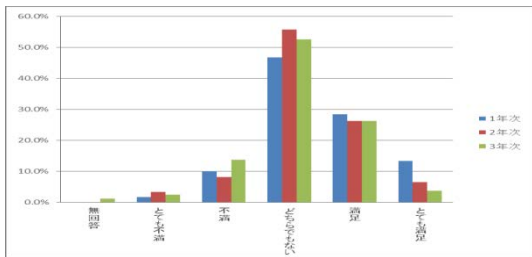


【保健福祉学科】

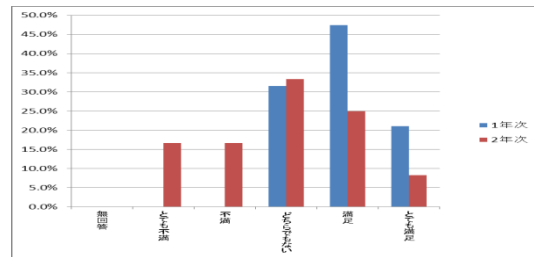


E. インターネットの使いやすさ

【歯科衛生学科】

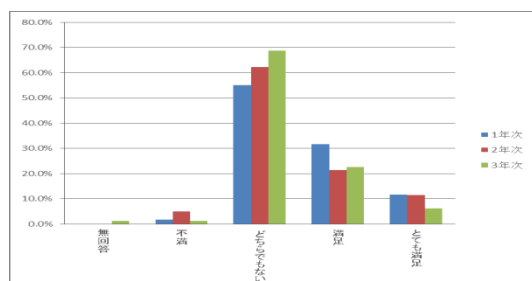


【保健福祉学科】

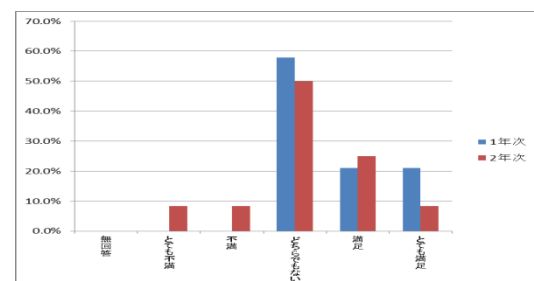


F. 奨学金など学費援助の制度

【歯科衛生学科】

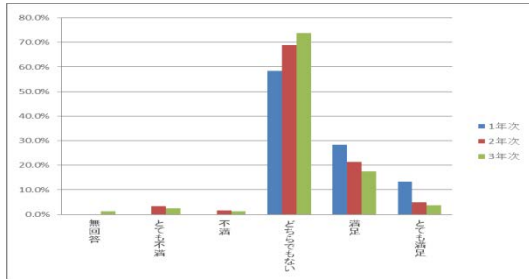


【保健福祉学科】

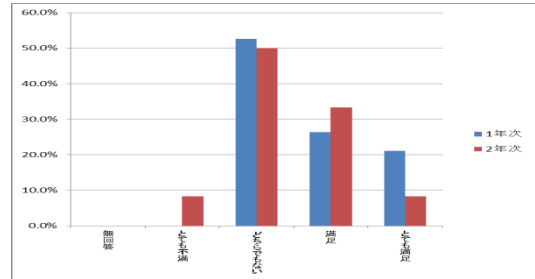


G. 健康・保健サービス（心身の健康に関わる問題についての診療や相談：歯科を含む）

【歯科衛生学科】

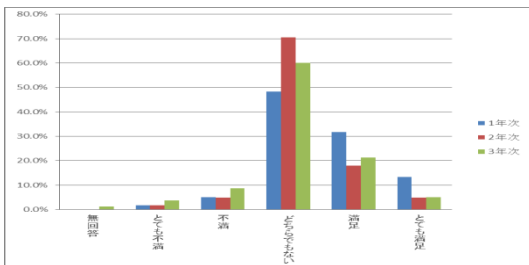


【保健福祉学科】

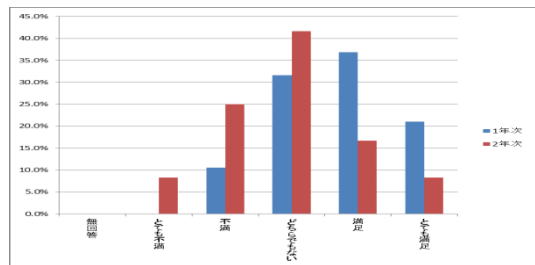


H. レクリエーション施設（体育館の設備など）

【歯科衛生学科】

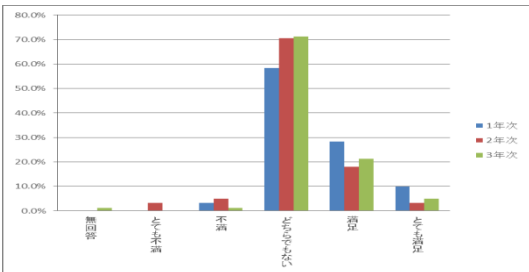


【保健福祉学科】

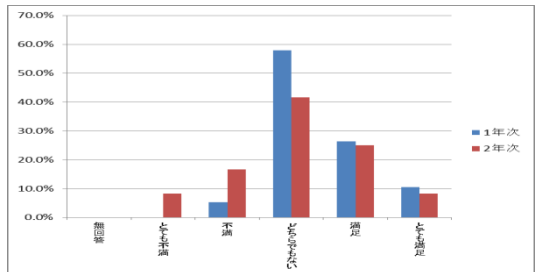


I. キャリアカウンセリング(就職や進学に関する相談)

【歯科衛生学科】



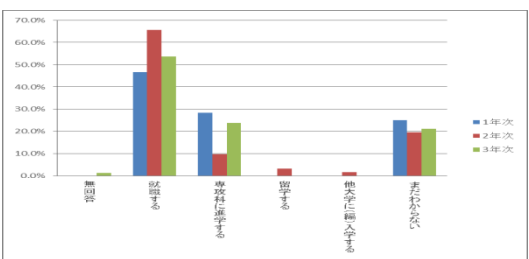
【保健福祉学科】



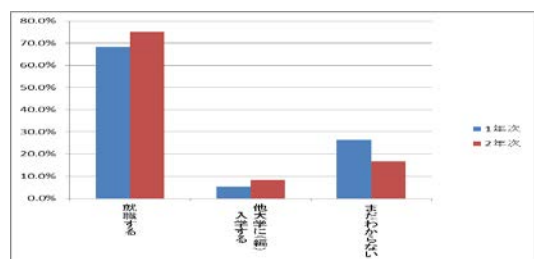
VI. 卒業後の進路について

設問 23 卒業後の進路予定

【歯科衛生学科】

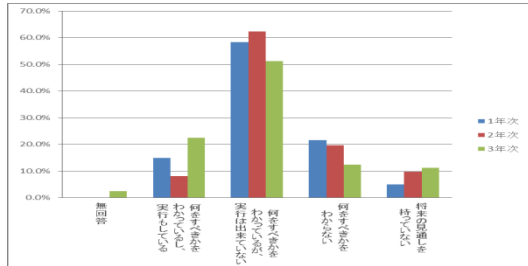


【保健福祉学科】

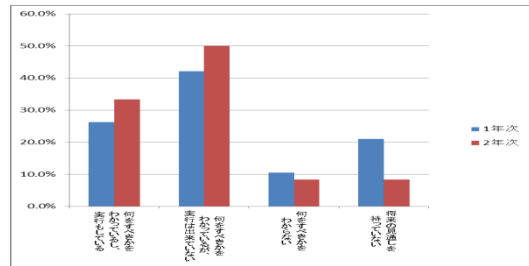


設問 2 将来の見通しと現在の状態

【歯科衛生学科】



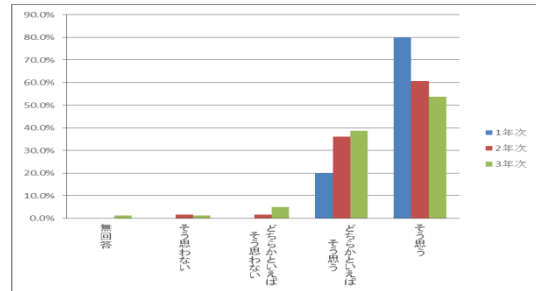
【保健福祉学科】



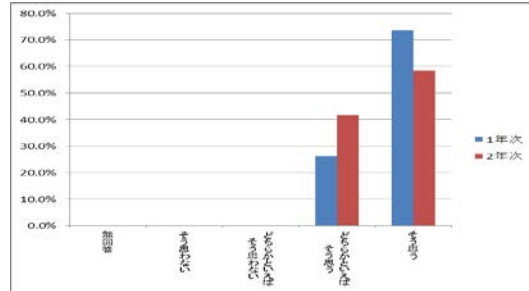
設問 25 卒業後の進路のために、大学在学中に経験したいこと

A. 専門分野の知識・技術をしっかり身につけ、国家試験に合格出来る教育を受ける

【歯科衛生学科】

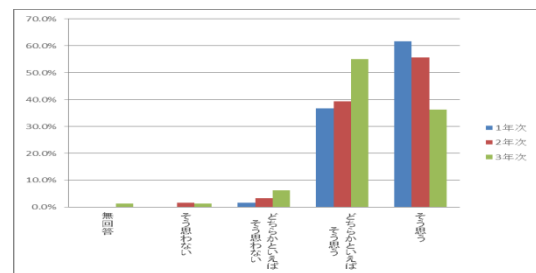


【保健福祉学科】

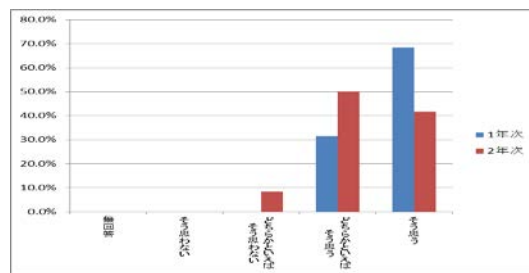


B. 専門分野だけでなく、幅広い知識を身につけ視野を広げる

【歯科衛生学科】

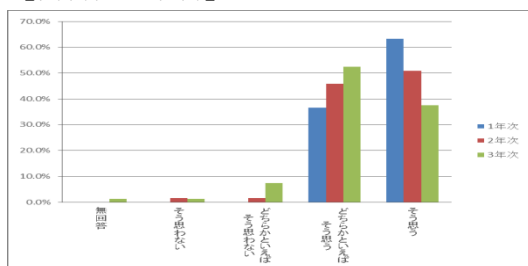


【保健福祉学科】

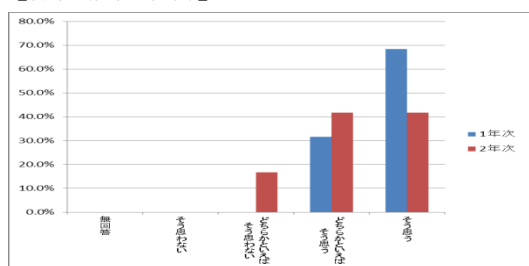


C. 職業意識の形成につながる教育を受ける

【歯科衛生学科】

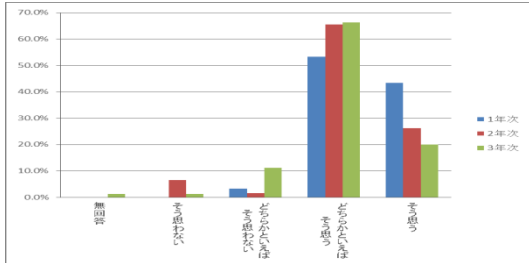


【保健福祉学科】

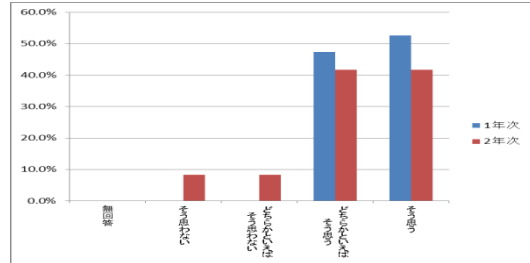


F. 自分で課題を見つけ、自分で解決していくような訓練を受ける

【歯科衛生学科】

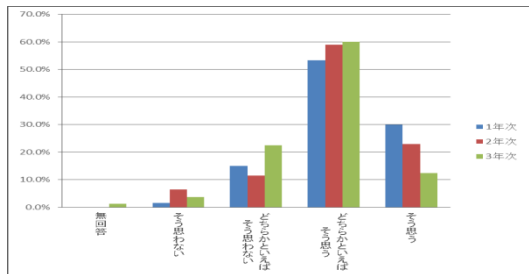


【保健福祉学科】

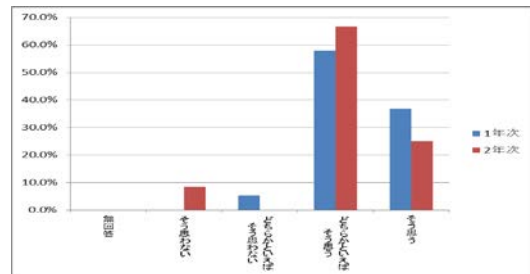


G. ディベート（討論）やプレゼンテーションの訓練を受ける

【歯科衛生学科】

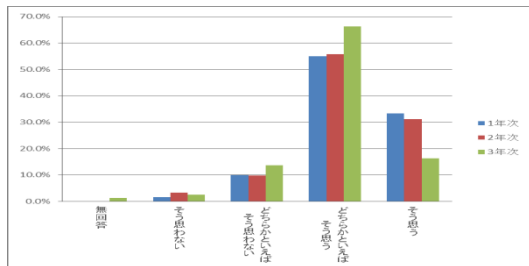


【保健福祉学科】

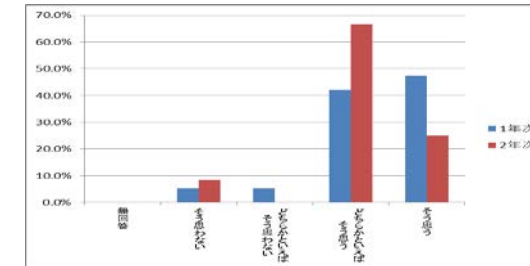


I. レポートや論文指導により、文書作成能力を高める

【歯科衛生学科】



【保健福祉学科】



福岡医療短期大学 学生 IR 調査 2017 年

[歯科衛生学科 1 年次生 60/61 名]



学生のみなさんへ

日ごろの大学での勉強、お疲れ様です。

本調査は、日ごろの大学生活を思い出して、学生のみなさんに大学生活を自己申告してもらい、大学における教育の成果を調査（測定）することを目的として実施します。大学教育の中で、在学中のみなさんから大学生活や教学などに関する情報を収集・分析することは、IR（インスティテューショナル・リサーチ, institutional research）と呼ばれ、学生の視点を重視し、学生に確実に教育成果を身につけてもらうための大切な活動の一つです。調査結果から得られた教育内容の特徴を分析することで、教育の質を客観的に保証するとともに、さらなる教育改善の方策を見出します。

回答してもらった内容は、すべて統計的に処理しますので、みなさんの回答が他の人に知られることはありません。回答は、特にことわりや指示のない限り、もっともよくあてはまるものを1つだけ選んでください。また、回答できない箇所は空白にさせていただいて結構です。

2017 年 10 月 2 日実施

[取組の趣旨]

- 本アンケート調査は、文部科学省選定事業『大学教育再生加速プログラム』の趣旨に基づき、2 年～3 年という短い修業年限の中で実施している専門教育の学修成果の可視化を目的に実施した。
- 専門教育に関する学修成果の可視化を推進する目的で、相互実習・学外実習等を含む本学独自のアンケート調査の設問項目を作成し、単なる「学生満足度」を測定する調査ではなく、本学の教育の質保証に資する汎用的な大学教学調査をめざした。
- その取組の中で、さらに学修成果の可視化の質向上をめざすため、「全般的な学習状況」、「授業時間外の学習状況」、「教育の質保証」の3つの教育観点に関する設問について、先進的な取組である『大学 IR コンソーシアム』の学生調査（「一年生調査 2013 年」）の取組を参考にして検討し選定した。

I. 学生の属性など

[1] 学籍番号（学生 ID） 7桁の番号で記入してください。

学生 ID 回答者：60名 非回答者：0名

*今回の調査では、学籍番号をもとに、みなさんの学習状況と取得単位数等の相互関係を分析します。また、**学年毎**に同様の調査を実施し、大学1年次のときに感じられたことがどのように変化したのかを探り、大学における教育成果を測定することを計画しています。そのために、学籍番号のご記入を**任意**でお願いしています。分析作業は個人情報に配慮して進めますので、個人を特定できる情報が他の人に知られることはありませんが、記入したくない人は空白にしておいてください。

[2] 所属する学科

1. 歯科衛生学科：60名
2. 保健福祉学科：00名

[3] 性別

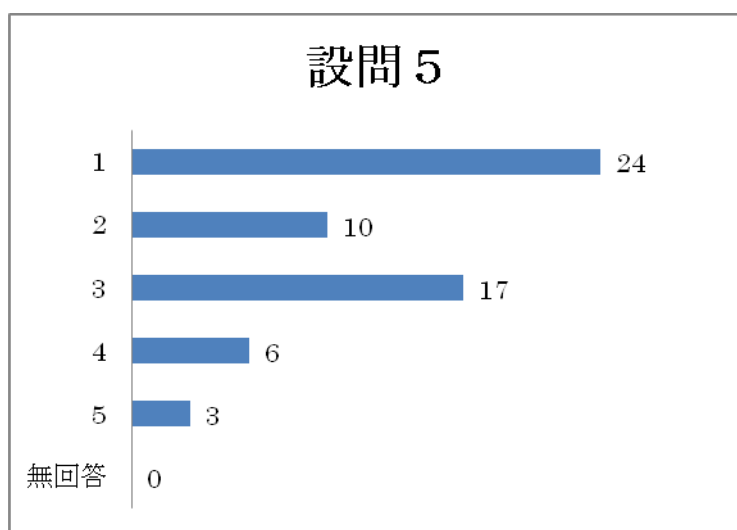
- 1.男性：00名
- 2.女性：60名

[4] 2017年4月1日の時点の年齢

18歳：49名 19歳：8名 20歳：1名 21歳：1名 24歳：1名

[5] 通学にかかる時間（片道）

1. 30分未満
2. 30分以上～1時間未満
3. 1時間以上～1時間30分未満
4. 1時間30分以上～2時間未満
5. 2時間以上

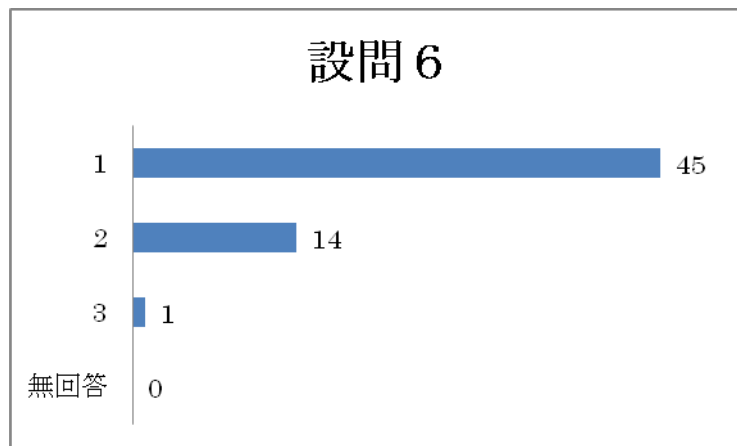


[6] 現在の住まい

1.家族または親戚と暮らしている

2.アパート・学生マンションでひとり暮らし

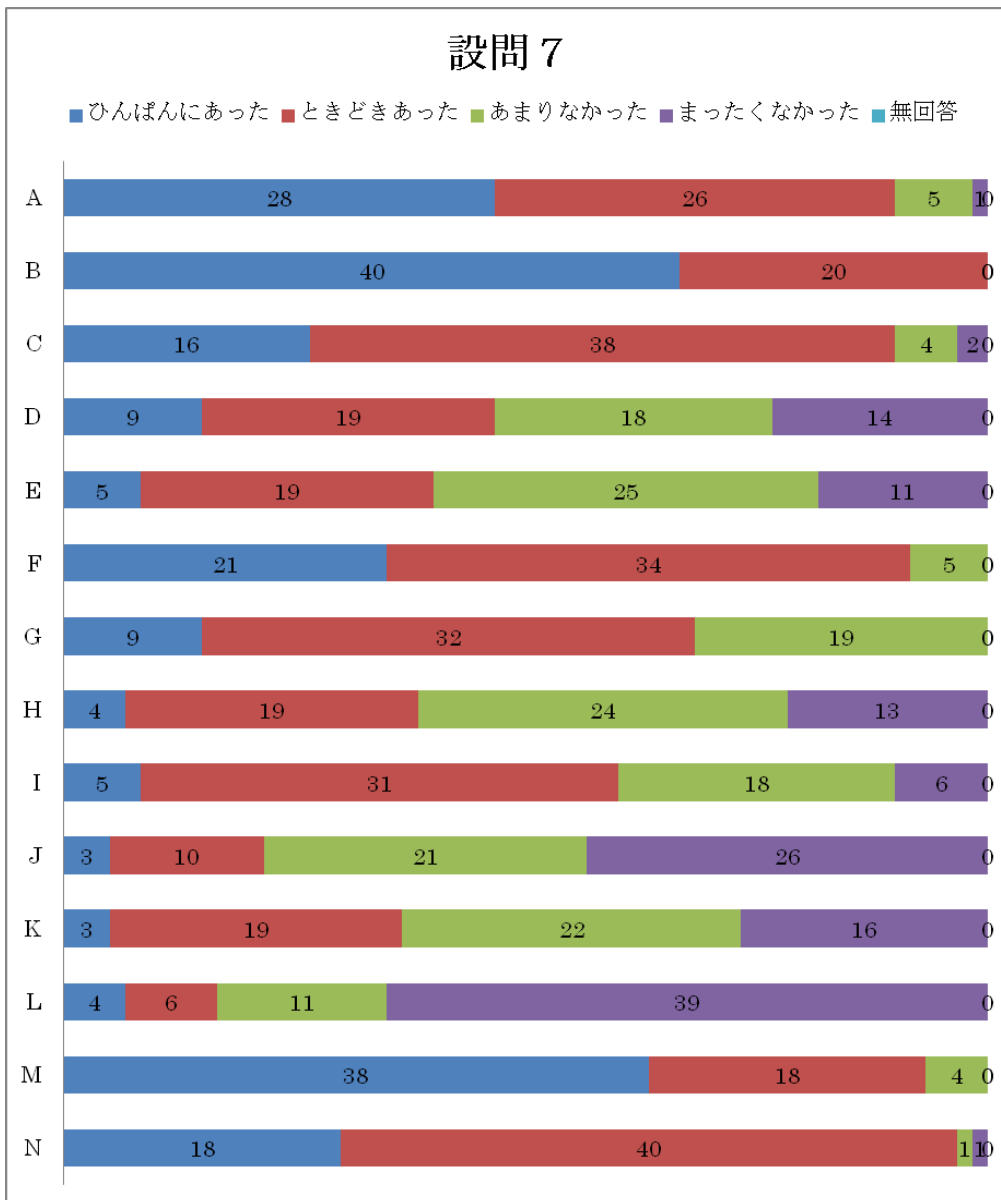
3.大学寮や合宿所



Ⅱ. 大学に入学してからの学習状況について

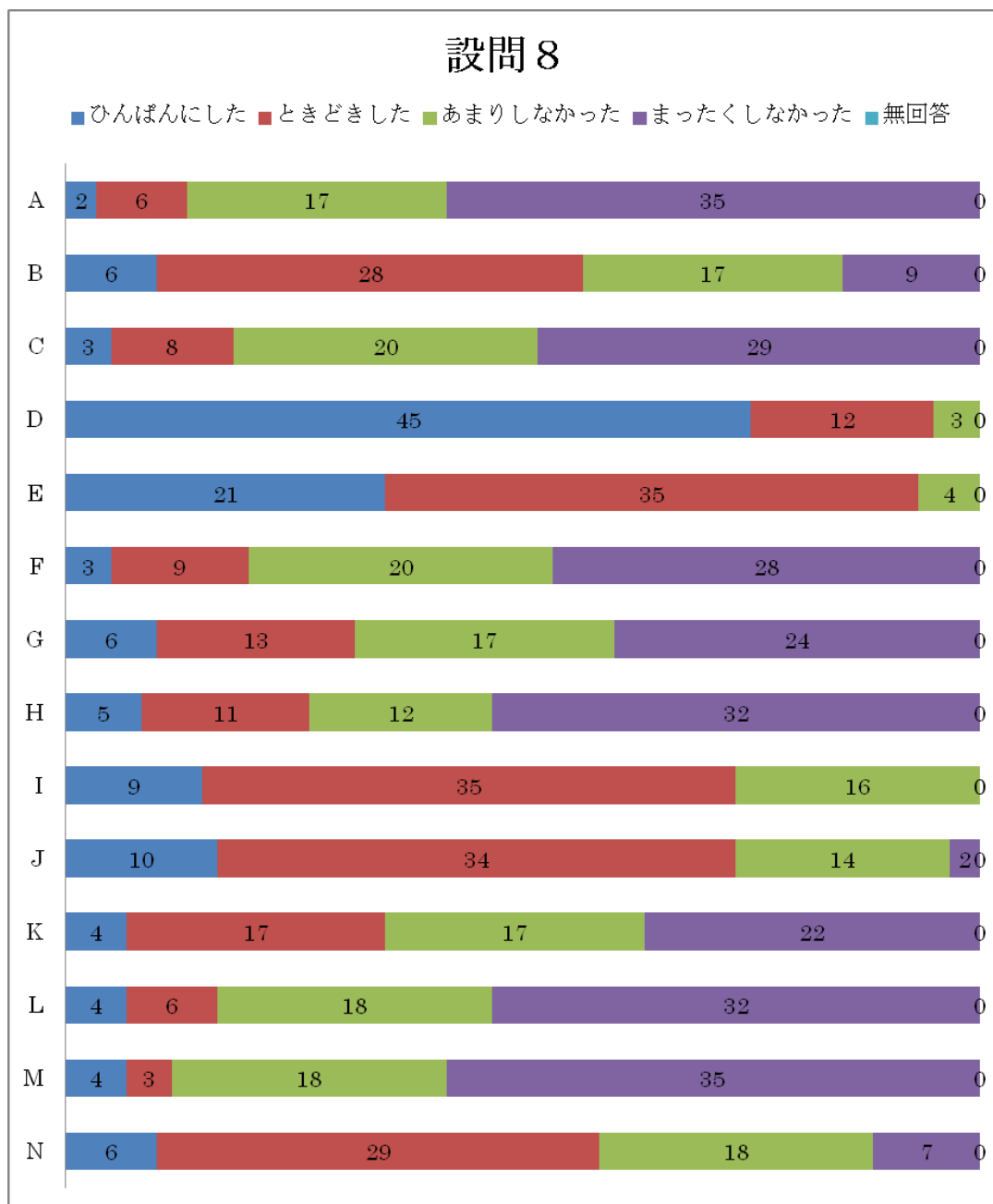
[7] 大学の授業の内容や特徴

- A. 所属学科の学内実習、学外実習などを実施し、学生が体験的に学ぶ
- B. 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ
- C. 授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する
- D. 授業の一環でボランティア活動をする
- E. 学生自身が文献や資料を調べる
- F. 定期的に小テストやレポートが課される
- G. 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する
- H. 学生が自分の考えや研究を発表する
- I. 授業中に学生同士が論議をする
- J. 授業で検討するテーマを学生が設定する
- K. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる
- L. 取りたい授業を履修登録できなかった
- M. 出席することが重視される
- N. TA・SA（上級生や専攻科生）から補助・指導を受ける



[8] 大学の授業や授業以外の学習状況

- A. 授業課題のために図書館の資料を利用した
- B. 授業課題のために Web 上の情報を利用した
- C. インターネットやイントラネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした
- D. 提出期限までに授業課題を完成した
- E. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容について話したりした
- F. 授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた
- G. 授業を欠席した
- H. 授業に遅刻した
- I. 授業をつまらなく感じた
- J. 授業中に居眠りをした
- K. 教職員に学習に関する相談をしたり、学内の学習支援室を利用したりした(オフィサーも含める)
- L. 単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した
- M. 大学の教職員に将来のキャリアの相談をした (卒業後の進路や職業選択など)
- N. 教員に親近感を感じた

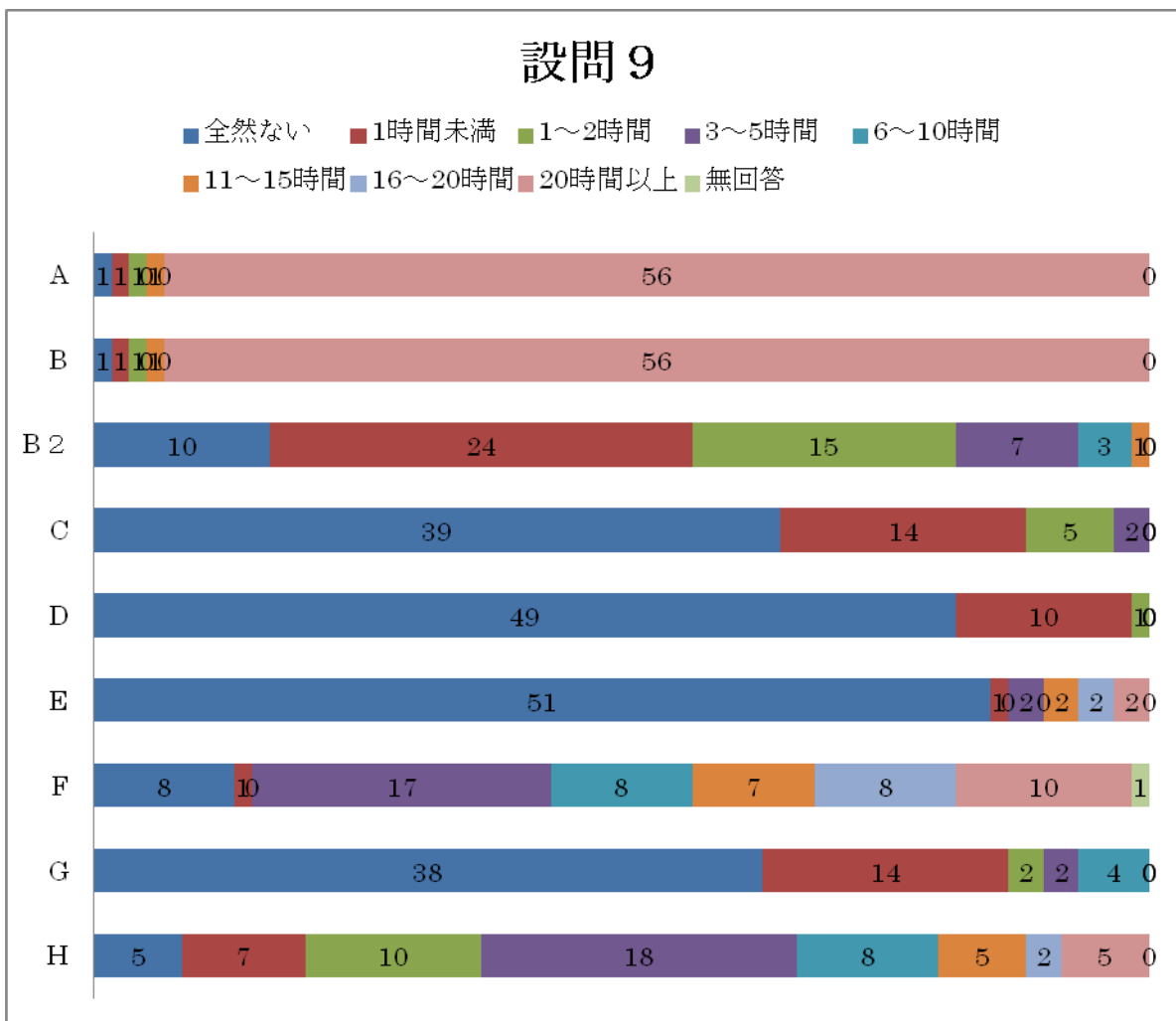


[9] 入学以来、活動に費やしている **1週間あたり**の時間数

- A. 講義や実習に出席する [参考] 90分×4コマ×5日間=30時間
- B. 授業時間以外に授業課題や準備学習、復習をする [参考] 1日2時間×7日=14時間
- B2. アクティブ・ラーニング科目（学内の演習や学外での実習など）に関する授業外学修時間
- C. 授業時間以外に、授業に関連しない勉強をする
- D. オフィスアワーなど、授業時間以外に教員と面談する
- E. 部活動や同好会に参加する
- F. 大学外でアルバイトや仕事をする
- G. 読書をする（マンガ・雑誌を除く）
- H. 個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）

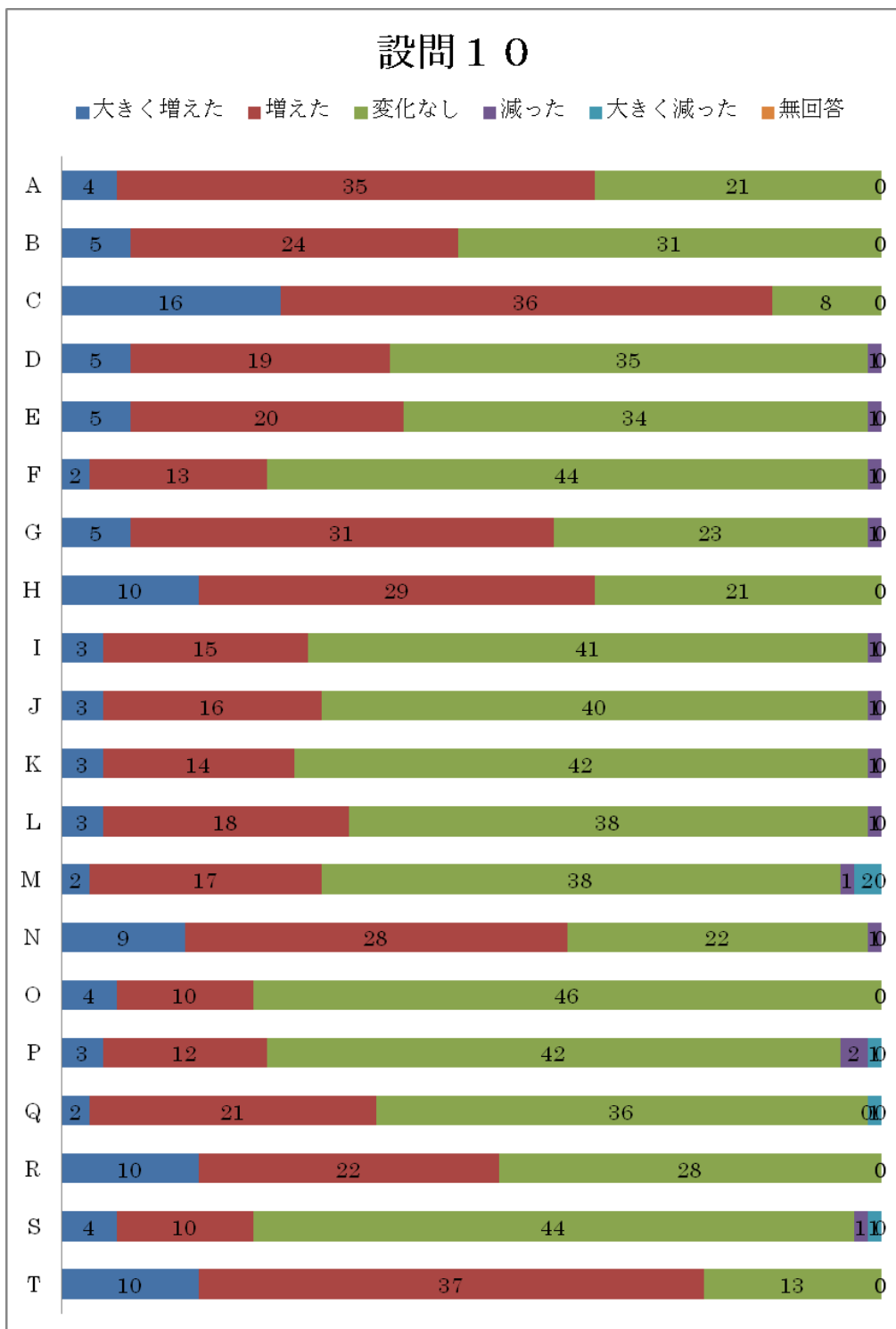
※時間の目安

- 1日30分×7日=3.5時間 1日60分×7日=7時間
- 1日1.5時間×7日=10.5時間 1日2時間×7日=14時間

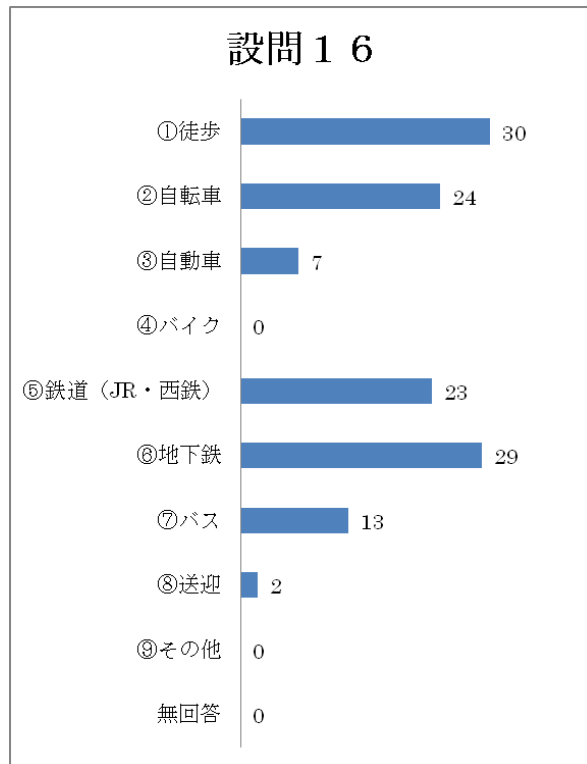


[10] 入学時点と比べた能力や知識の変化

- A. 一般的な教養
- B. 分析力や問題解決能力
- C. 専門分野や学科の知識
- D. 批判的に考える能力
- E. 異文化の人々に関する知識
- F. リーダーシップの能力
- G. 人間関係を構築する能力
- H. 他の人と協力して物事を遂行する能力
- I. 異文化の人々と協力する能力
- J. 地域社会が直面する問題を理解する能力
- K. 国民が直面する問題を理解する能力
- L. 文章表現の能力
- M. 外国語の運用能力
- N. コミュニケーションの能力
- O. プレゼンテーションの能力
- P. 数理的な能力
- Q. コンピュータの操作能力
- R. 時間を効果的に利用する能力
- S. グローバルな問題の理解
- T. 就職に向けての知識・技術力

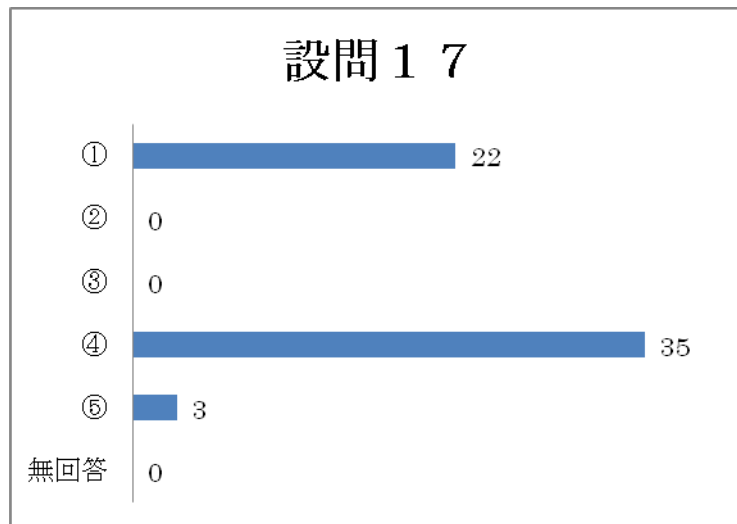


[16] 大学までの交通手段（当てはまるものすべてに○をつける）



[17] 奨学金の利用

- ①日本学生支援機構の奨学金 ②日本介護福祉士修学資金
③以前受けていたが今は受けていない ④受けていない ⑤その他

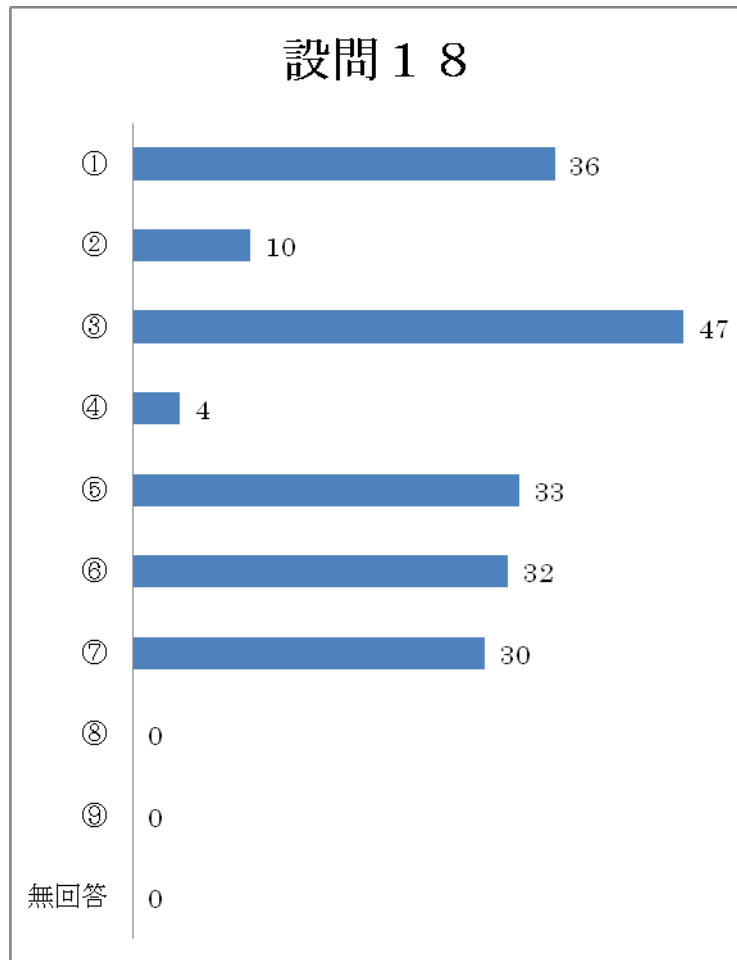


【その他の回答】

わからない：1名、受けていないが受けるかも：1名、市の奨学金：1名

[18] 大学生生活の目的 (当てはまるすべてのものに○をつける)

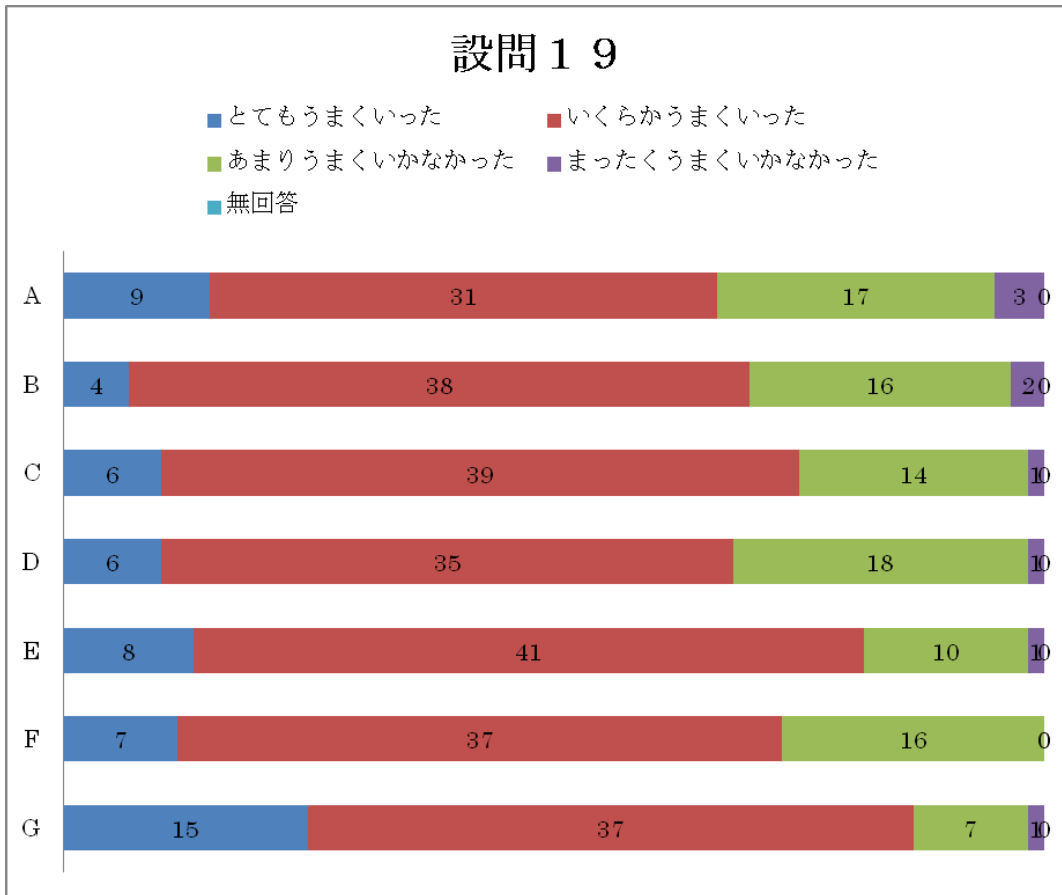
- ①専門的な研究や知識を身につける ②豊かな教養を身につける ③学歴や資格を得る
④クラブやサークルを楽しむ ⑤希望する職業に就く ⑥学生生活を楽しむ
⑦友達とのかかわりを楽しむ ⑧特に目的はない ⑨その他



V. 大学生活に対する考えや満足度について

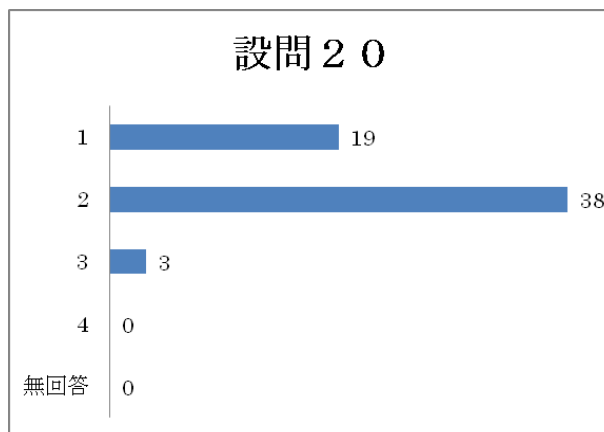
[19] 入学してからの大学生活への円滑な移行

- A. 大学の学生向けサービスを上手に利用する
- B. 大学教員の学問的な期待を理解する
- C. 効果的に学習する技能を修得する
- D. 大学が求める水準に応じて学習する
- E. 時間を効果的に使う
- F. 大学教員と顔見知りになる
- G. 他の学生との友情を深める



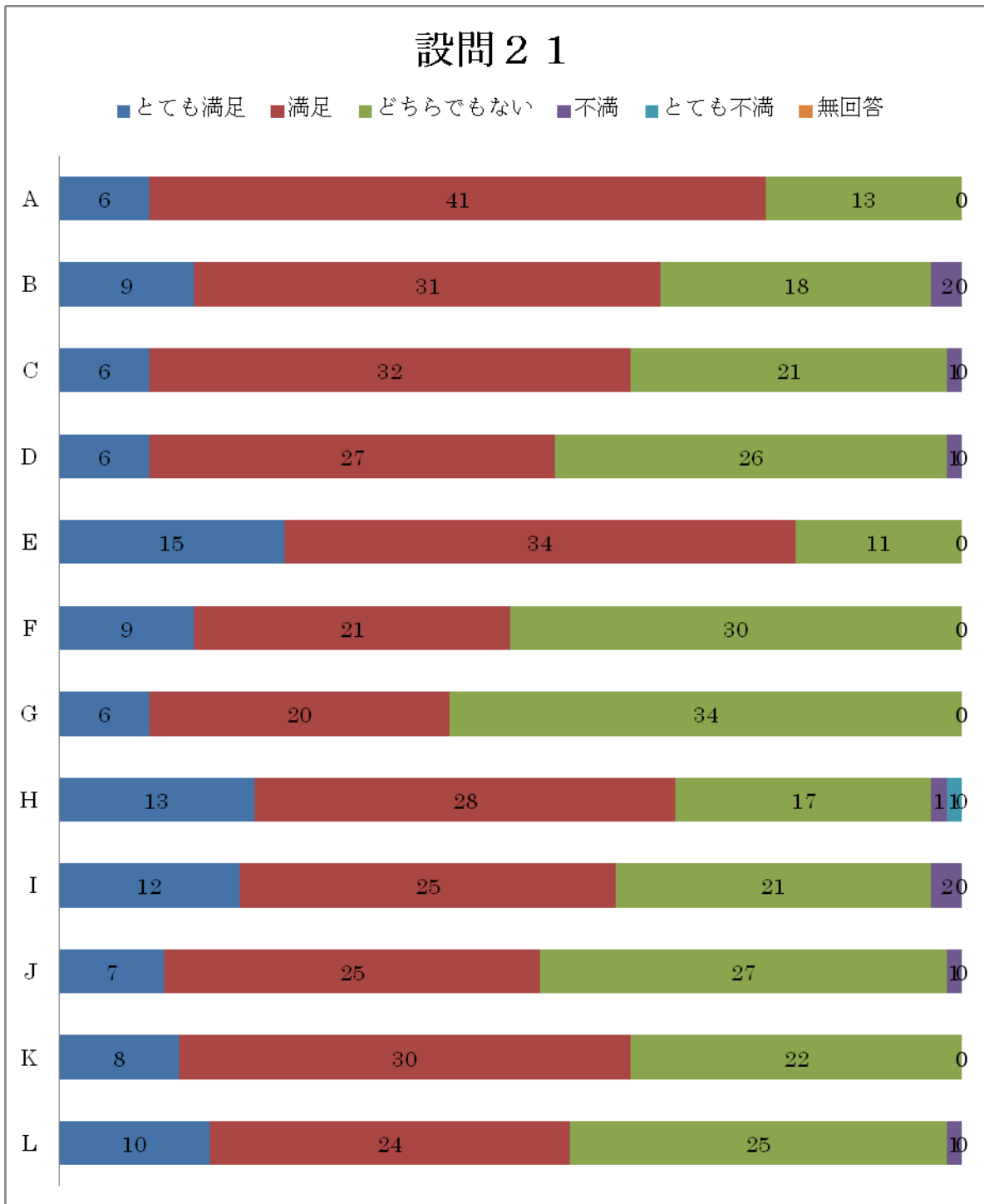
[20] 学生生活の充実

- 1. 充実している
- 2. まあまあ充実している
- 3. あまり充実していない
- 4. 充実していない



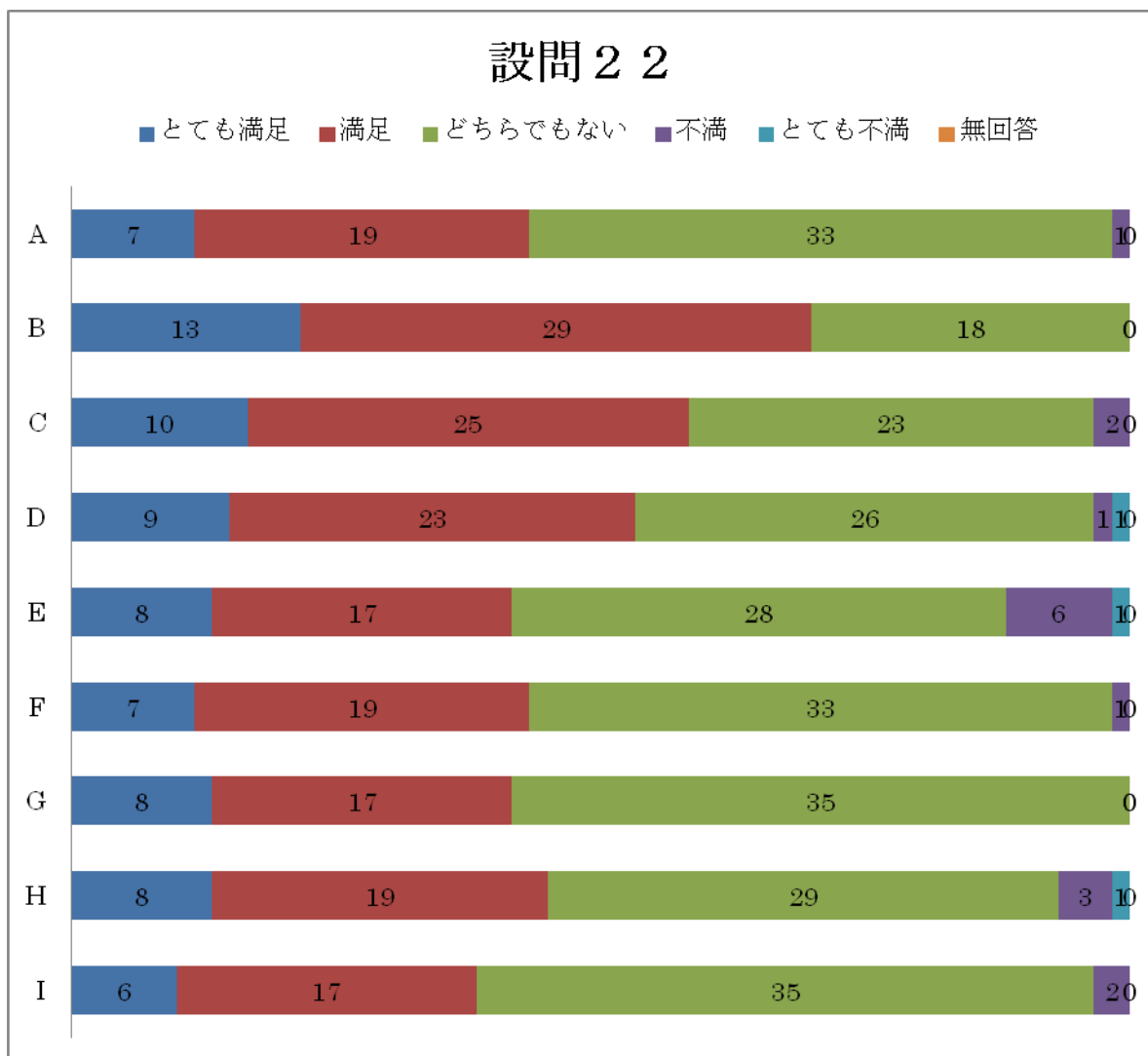
[21] 教育内容の満足度

- A. 専門教育あるいは所属学科の授業
- B. 所属学科の学内実習や学外実習
(臨床・臨地実習・介護実習等)
- C. 授業の全体的な質
- D. 日常生活と授業内容との関連
- E. 将来の仕事と授業内容との結びつき
- F. 教員と話す機会
- G. 個別の学習指導や学習支援 (履修相談など)
- H. 他の学生と話す機会
- I. 大学のなかでの学生同士の一体感
- J. 多様な考え方を認め合う雰囲気
- K. 大学での経験全般について
- L. 1つの授業を履修する学生数



[22] 設備や学生支援制度の満足度

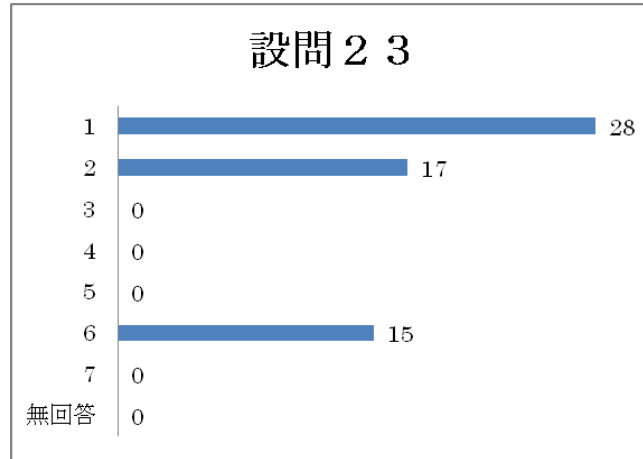
- A. 図書館の設備(蔵書やレファレンスサービス：図書館員による情報提供・資料検索他)
- B. 実習室の設備や器具
- C. コンピュータの施設や設備
- D. コンピュータの訓練や援助
- E. インターネットの使いやすさ
- F. 奨学金など学費援助の制度
- G. 健康・保健サービス（心身の健康に関わる問題についての診療や相談：歯科を含む）
- H. レクリエーション施設（体育館の設備など）
- I. キャリアカウンセリング(就職や進学に関する相談)



VI. 卒業後の進路について

[23] 卒業後の進路予定

1. 就職する
2. 専攻科に就職する
3. 留学する
4. 他大学に（編）入学する
5. 専門学校に入学する
6. まだわからない
7. その他（具体的に）

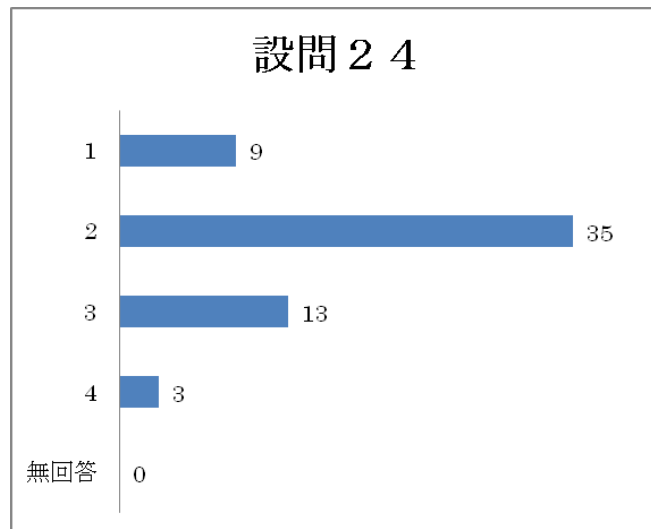


[24] 将来の見通しと現在の状態

以下の2つの文章を読んで、あなたのいまの状態にもっとも近い番号を選んでください。

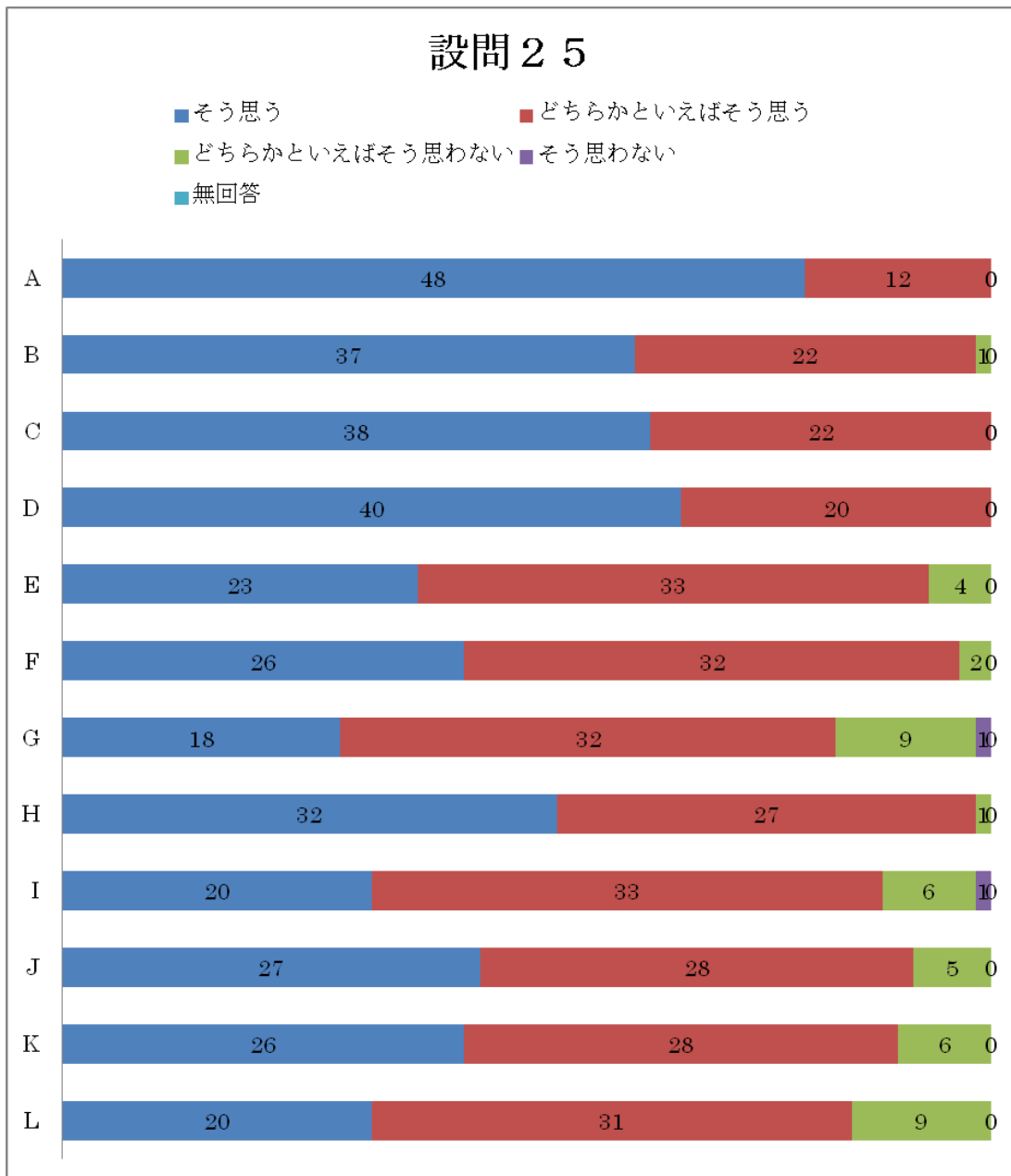
- ・あなたは、将来の見通し（将来こういう風でありたい）を持っていますか。
- ・その見通しのなかでもっとも重要なものを1つ思い浮かべてください。
あなたは、その見通しの実現に向かって、自分が何をすべきなのかわかっていますか。
また、それを実行していますか。

1. 将来の見通しを持っている + 何をすべきかをわかっているし、実行もしている
2. 将来の見通しを持っている + 何をすべきかをわかっているが、実行は出来ていない
3. 将来の見通しを持っている + 何をすべきかをわからない
4. 将来の見通しを持っていない



[25] 卒業後の進路のために、大学在学中に経験したいこと

- A. 専門分野の知識・技術をしっかり身につけ、国家試験に合格出来る教育を受ける
- B. 専門分野だけでなく、幅広い知識を身につけ視野を広げる
- C. 職業意識の形成につながる教育を受ける
- D. 学外実習施設での体験実習等を踏まえた上で、専門知識を学ぶ
- E. 教員が設定した特定の課題に対して、チームで取り組むプロジェクト型の授業を受ける
- F. 自分で課題を見つけ、自分で解決していくような訓練を受ける
- G. ディベート（討論）やプレゼンテーションの訓練を受ける
- H. 実践的で専門性のある資格を取得するためのプログラムを受ける
- I. レポートや論文指導により、文書作成能力を高める
- J. 卒業後の進路について、教職員に対して個別に相談する
- K. 卒業後の進路について、本学の卒業生や先輩と話をする
- L. 本学の教職員以外の人と話をする



以上

福岡医療短期大学 学生 IR 調査 2017 年

[歯科衛生学科 2 年次生 61/69 名]



学生のみなさんへ

日ごろの大学での勉強、お疲れ様です。

本調査は、日ごろの大学生活を思い出して、学生のみなさんに大学生活を自己申告してもらい、大学における教育の成果を調査（測定）することを目的として実施します。大学教育の中で、在学中のみなさんから大学生活や教学などに関する情報を収集・分析することは、IR（インスティテューショナル・リサーチ, institutional research）と呼ばれ、学生の視点を重視し、学生に確実に教育成果を身につけてもらうための大切な活動の一つです。調査結果から得られた教育内容の特徴を分析することで、教育の質を客観的に保証するとともに、さらなる教育改善の方策を見出します。

回答してもらった内容は、すべて統計的に処理しますので、みなさんの回答が他の人に知られることはありません。回答は、特にことわりや指示のない限り、もっともよくあてはまるものを1つだけ選んでください。また、回答できない箇所は空白にさせていただいて結構です。

2017 年 10 月 5 日実施

[取組の趣旨]

- 本アンケート調査は、文部科学省選定事業『大学教育再生加速プログラム』の趣旨に基づき、2 年～3 年という短い修業年限の中で実施している専門教育の学修成果の可視化を目的に実施した。
- 専門教育に関する学修成果の可視化を推進する目的で、相互実習・学外実習等を含む本学独自のアンケート調査の設問項目を作成し、単なる「学生満足度」を測定する調査ではなく、本学の教育の質保証に資する汎用的な大学教学調査をめざした。
- その取組の中で、さらに学修成果の可視化の質向上をめざすため、「全般的な学習状況」、「授業時間外の学習状況」、「教育の質保証」の3つの教育観点に関する設問について、先進的な取組である『大学 IR コンソーシアム』の学生調査（「一年生調査 2013 年」）の取組を参考にして検討し選定した。

I. 学生の属性など

[1] 学籍番号（学生 ID） 7桁の番号で記入してください。

学生 ID 回答者：59名 非回答者：02名

*今回の調査では、学籍番号をもとに、みなさんの学習状況と取得単位数等の相互関係を分析します。また、**学年毎**に同様の調査を実施し、大学1年次のときに感じられたことがどのように変化したのかを探り、大学における教育成果を測定することを計画しています。そのために、学籍番号のご記入を**任意**でお願いしています。分析作業は個人情報に配慮して進めますので、個人を特定できる情報が他の人に知られることはありませんが、記入したくない人は空白にしておいてください。

[2] 所属する学科

1. 歯科衛生学科：61名
2. 保健福祉学科：00名

[3] 性別

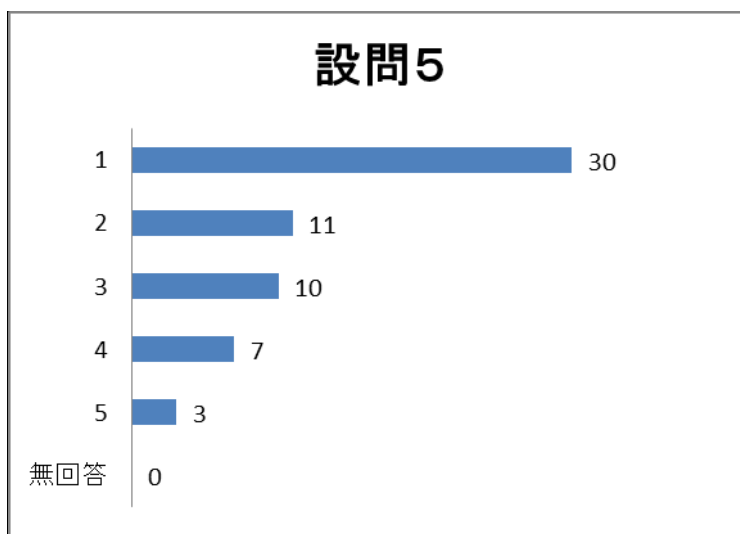
1. 男性：00名
2. 女性：61名

[4] 2017年4月1日の時点の年齢

19歳：51名 20歳：07名 22歳：02名 31歳：01名

[5] 通学にかかる時間（片道）

1. 30分未満
2. 30分以上～1時間未満
3. 1時間以上～1時間30分未満
4. 1時間30分以上～2時間未満
5. 2時間以上

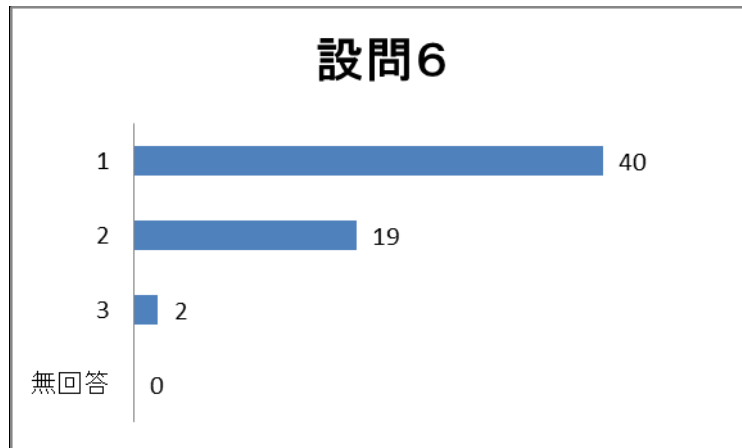


[6] 現在の住まい

1.家族または親戚と暮らしている

2.アパート・学生マンションでひとり暮らし

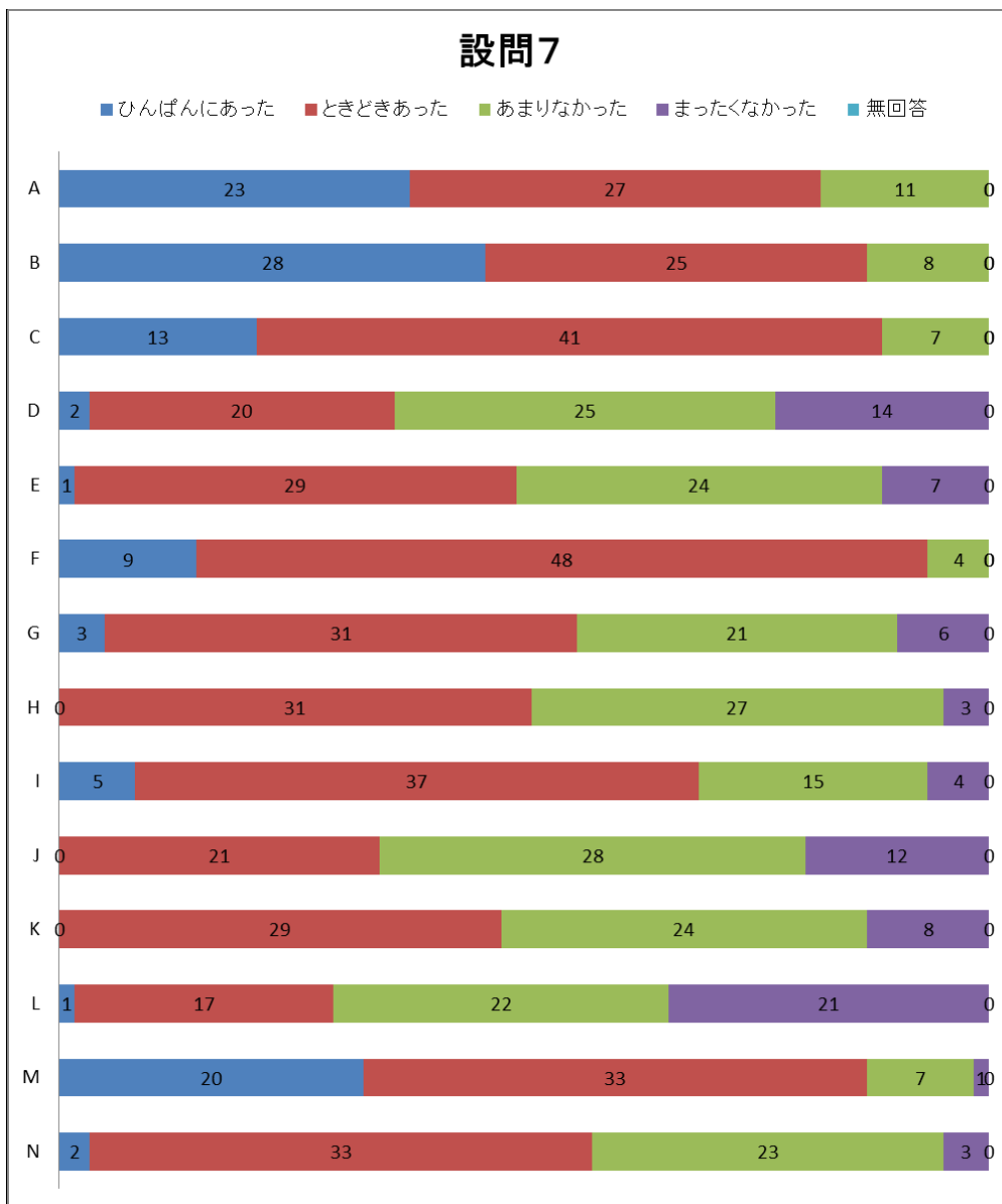
3.大学寮や合宿所



Ⅱ. 大学に入学してからの学習状況について

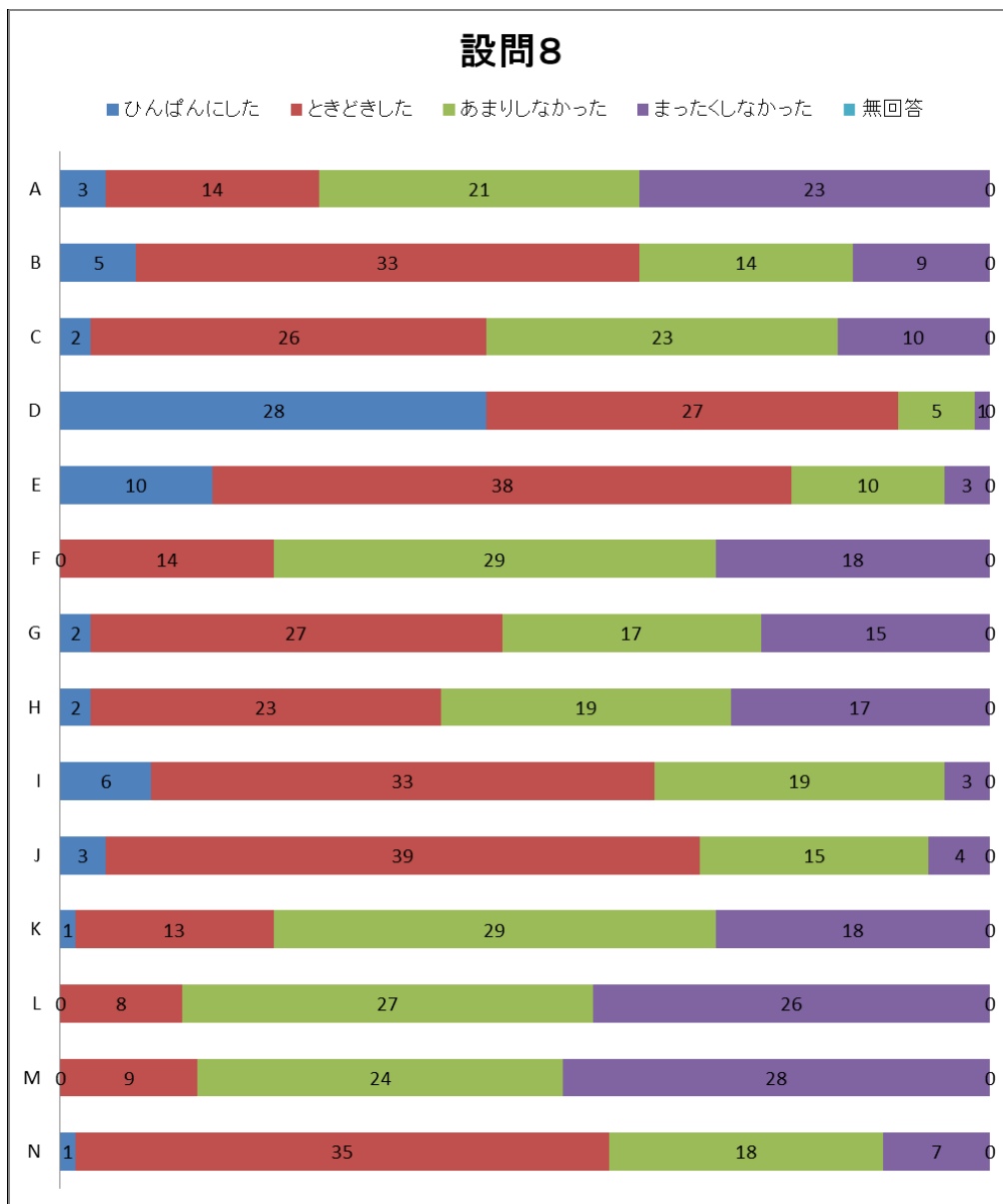
[7] 大学の授業の内容や特徴

- A. 所属学科の学内実習、学外実習などを実施し、学生が体験的に学ぶ
- B. 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ
- C. 授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する
- D. 授業の一環でボランティア活動をする
- E. 学生自身が文献や資料を調べる
- F. 定期的に小テストやレポートが課される
- G. 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する
- H. 学生が自分の考えや研究を発表する
- I. 授業中に学生同士が論議をする
- J. 授業で検討するテーマを学生が設定する
- K. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる
- L. 取りたい授業を履修登録できなかった
- M. 出席することが重視される
- N. TA・SA（上級生や専攻科生）から補助・指導を受ける



[8] 大学の授業や授業以外の学習状況

- A. 授業課題のために図書館の資料を利用した
- B. 授業課題のために Web 上の情報を利用した
- C. インターネットやイントラネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした
- D. 提出期限までに授業課題を完成した
- E. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容について話したりした
- F. 授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた
- G. 授業を欠席した
- H. 授業に遅刻した
- I. 授業をつまらなく感じた
- J. 授業中に居眠りをした
- K. 教職員に学習に関する相談をしたり、学内の学習支援室を利用したりした(オフィサーも含める)
- L. 単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した
- M. 大学の教職員に将来のキャリアの相談をした (卒業後の進路や職業選択など)
- N. 教員に親近感を感じた

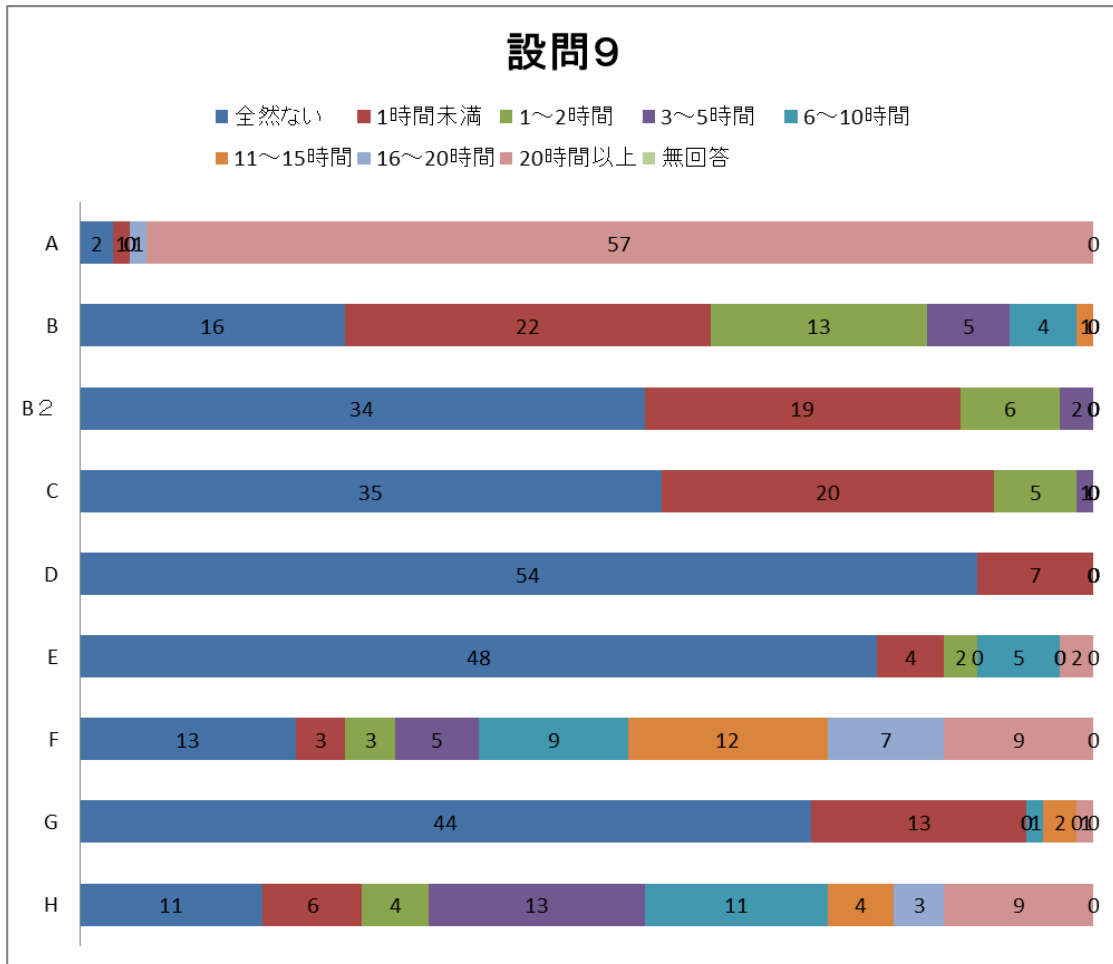


[9] 入学以来、活動に費やしている **1週間あたり**の時間数

- A. 講義や実習に出席する [参考] 90分×4コマ×5日間=30時間
- B. 授業時間以外に授業課題や準備学習、復習をする [参考] 1日2時間×7日=14時間
- B2. アクティブ・ラーニング科目（学内の演習や学外での実習など）に関する授業外学修時間
- C. 授業時間以外に、授業に関連しない勉強をする
- D. オフィスアワーなど、授業時間以外に教員と面談する
- E. 部活動や同好会に参加する
- F. 大学外でアルバイトや仕事をする
- G. 読書をする（マンガ・雑誌を除く）
- H. 個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）

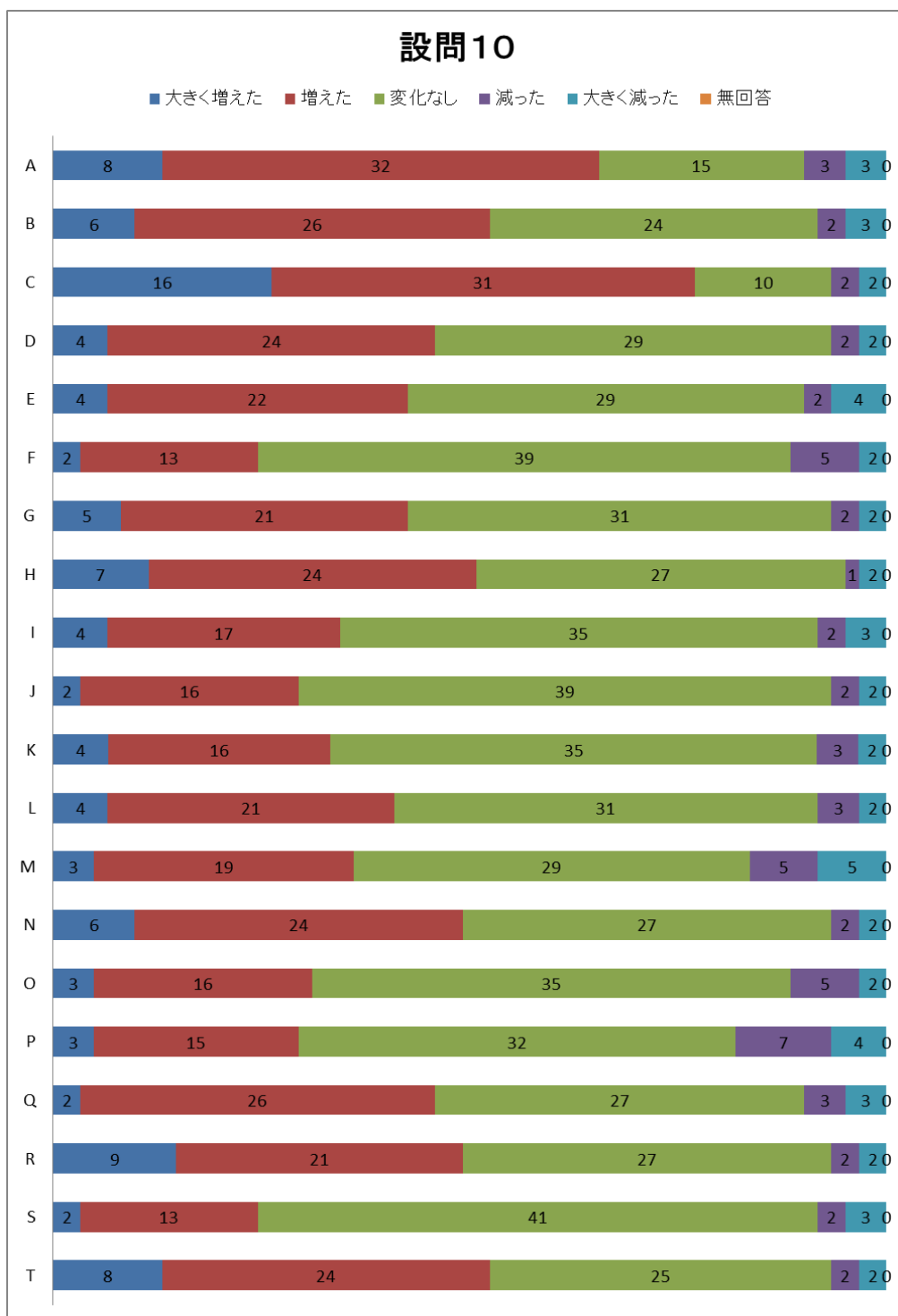
※時間の目安

1日30分×7日=3.5時間 1日60分×7日=7時間
 1日1.5時間×7日=10.5時間 1日2時間×7日=14時間

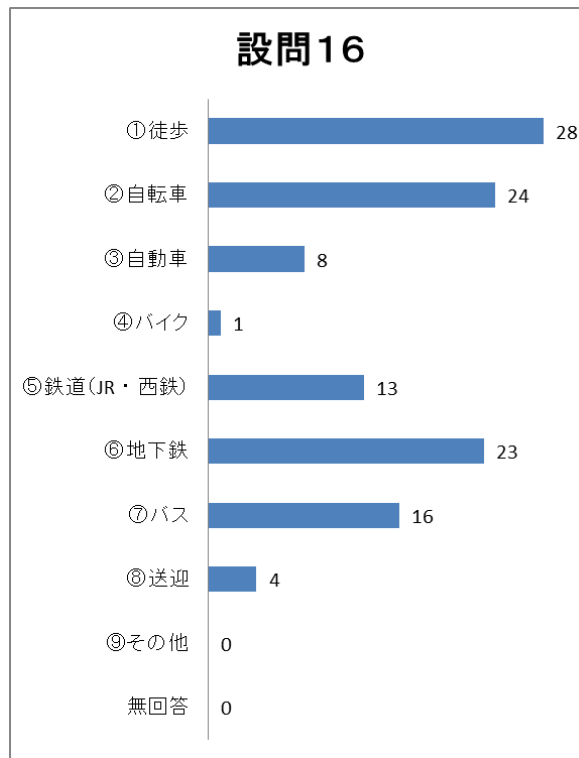


[10] 入学時点と比べた能力や知識の変化

- A. 一般的な教養
- B. 分析力や問題解決能力
- C. 専門分野や学科の知識
- D. 批判的に考える能力
- E. 異文化の人々に関する知識
- F. リーダーシップの能力
- G. 人間関係を構築する能力
- H. 他の人と協力して物事を遂行する能力
- I. 異文化の人々と協力する能力
- J. 地域社会が直面する問題を理解する能力
- K. 国民が直面する問題を理解する能力
- L. 文章表現の能力
- M. 外国語の運用能力
- N. コミュニケーションの能力
- O. プレゼンテーションの能力
- P. 数理的な能力
- Q. コンピュータの操作能力
- R. 時間を効果的に利用する能力
- S. グローバルな問題の理解
- T. 就職に向けての知識・技術力



[16] 大学までの交通手段（当てはまるものすべてに○をつける）

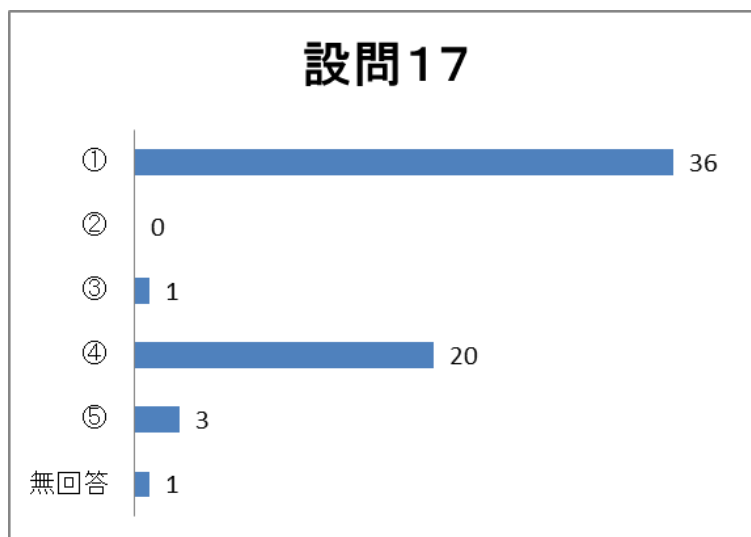


【その他の回答】

: 0名

[17] 奨学金の利用

- ①日本学生支援機構の奨学金 ②日本介護福祉士修学資金
③以前受けていたが今は受けていない ④受けていない ⑤その他

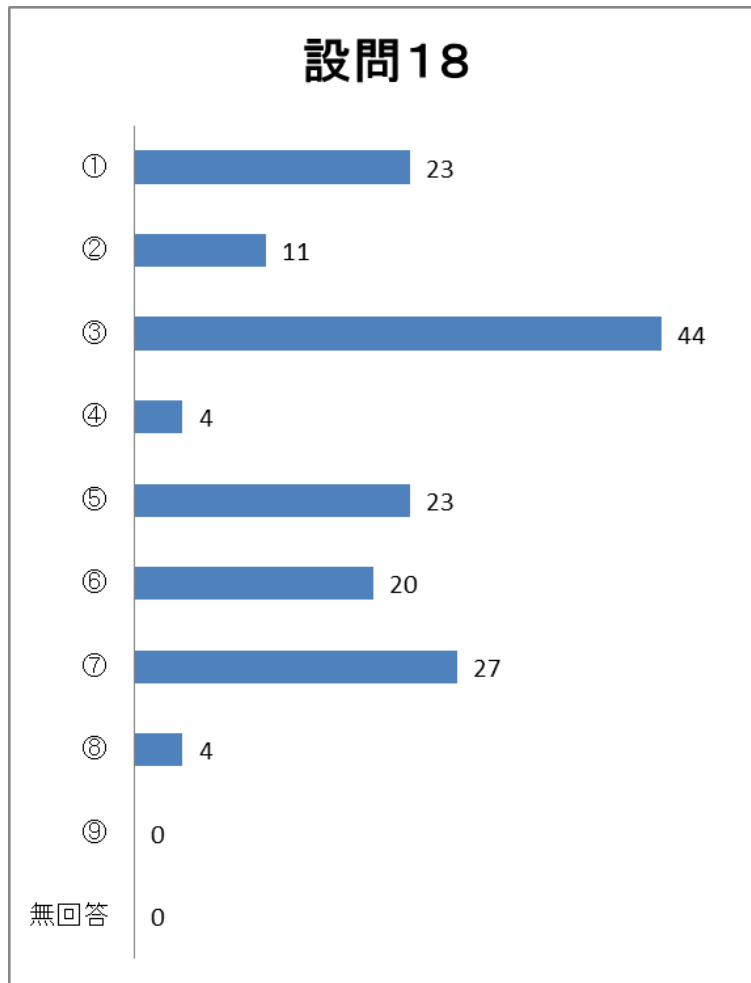


【その他の回答】

山口 : 1名 わからない : 2名

[18] 大学生生活の目的（当てはまるすべてのものに○をつける）

- ①専門的な研究や知識を身につける ②豊かな教養を身につける ③学歴や資格を得る
④クラブやサークルを楽しむ ⑤希望する職業に就く ⑥学生生活を楽しむ
⑦友達とのかかわりを楽しむ ⑧特に目的はない ⑨その他



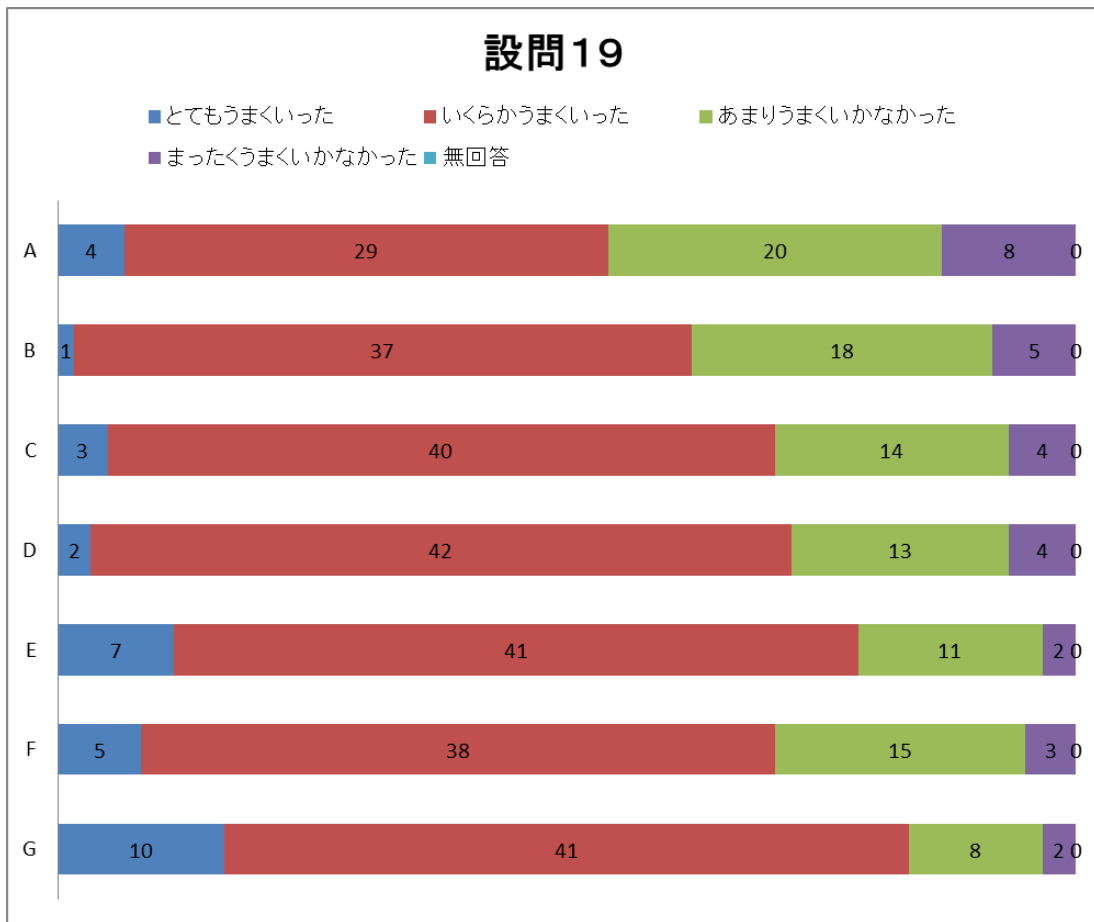
【その他の回答】

.

V. 大学生活に対する考えや満足度について

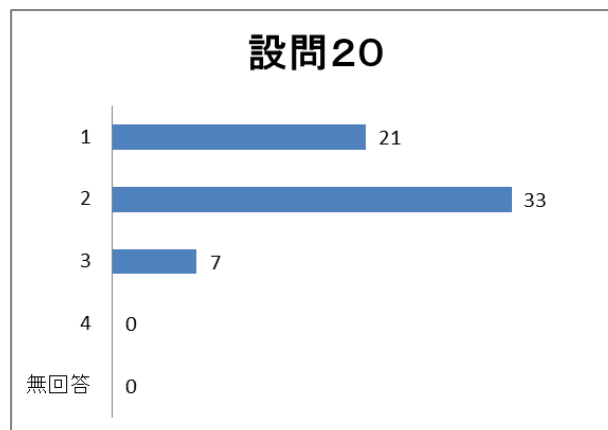
[19] 入学してからの大学生活への円滑な移行

- A. 大学の学生向けサービスを上手に利用する
- B. 大学教員の学問的な期待を理解する
- C. 効果的に学習する技能を修得する
- D. 大学が求める水準に応じて学習する
- E. 時間を効果的に使う
- F. 大学教員と顔見知りになる
- G. 他の学生との友情を深める



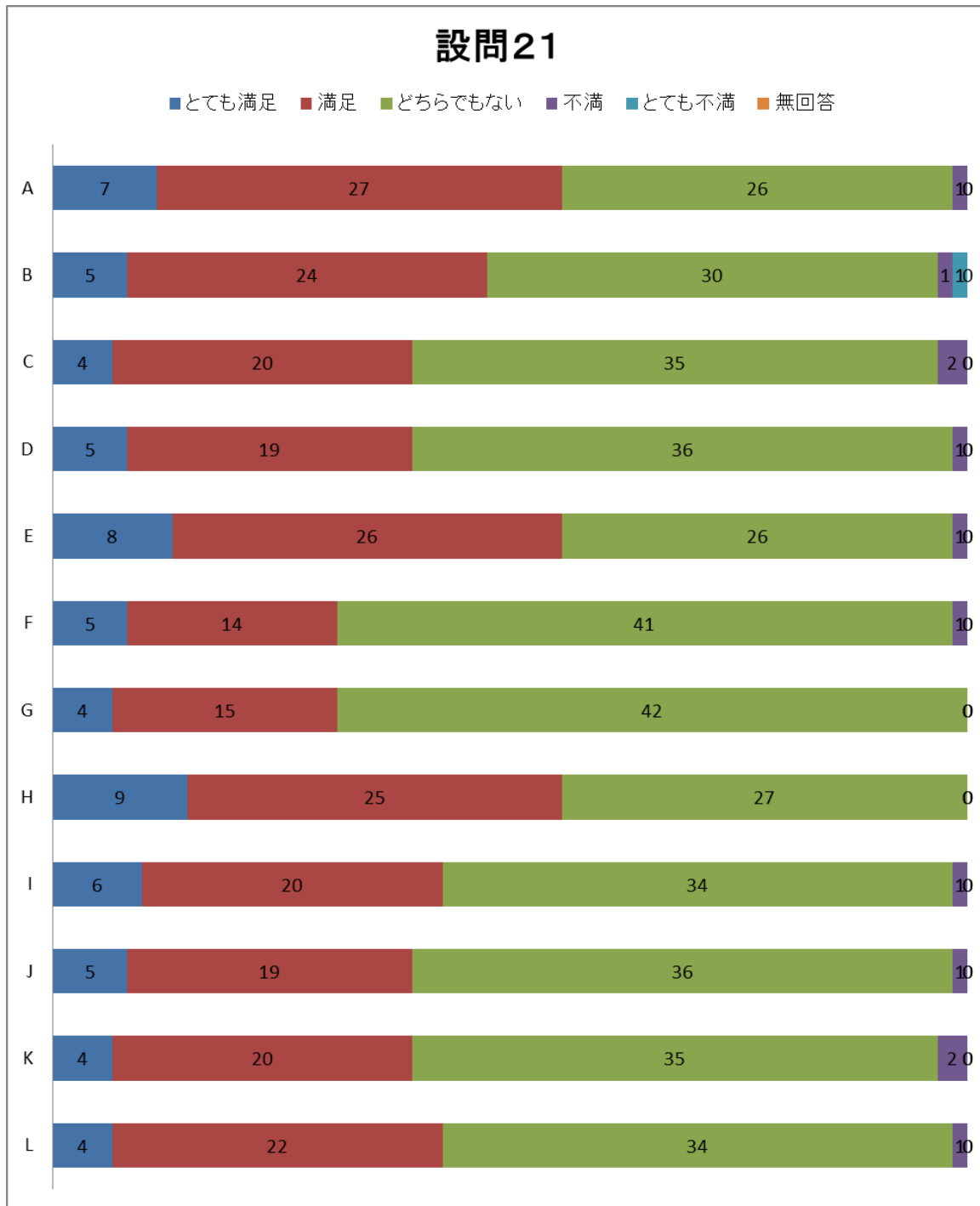
[20] 学生生活の充実

- 1. 充実している
- 2. まあまあ充実している
- 3. あまり充実していない
- 4. 充実していない



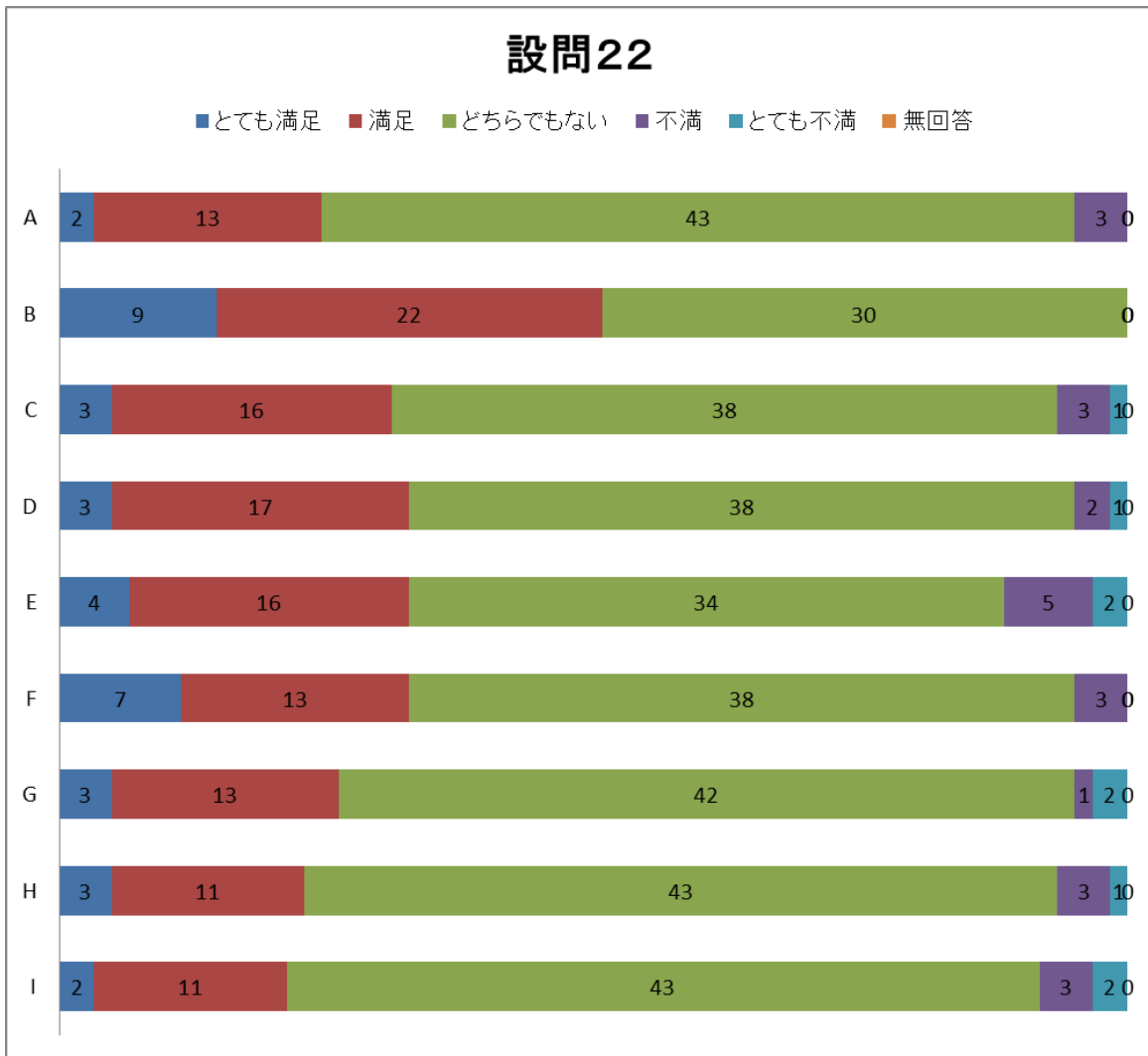
[21] 教育内容の満足度

- A. 専門教育あるいは所属学科の授業
- B. 所属学科の学内実習や学外実習
(臨床・臨地実習・介護実習等)
- C. 授業の全体的な質
- D. 日常生活と授業内容との関連
- E. 将来の仕事と授業内容との結びつき
- F. 教員と話す機会
- G. 個別の学習指導や学習支援(履修相談など)
- H. 他の学生と話す機会
- I. 大学のなかでの学生同士の一体感
- J. 多様な考え方を認め合う雰囲気
- K. 大学での経験全般について
- L. 1つの授業を履修する学生数



[22] 設備や学生支援制度の満足度

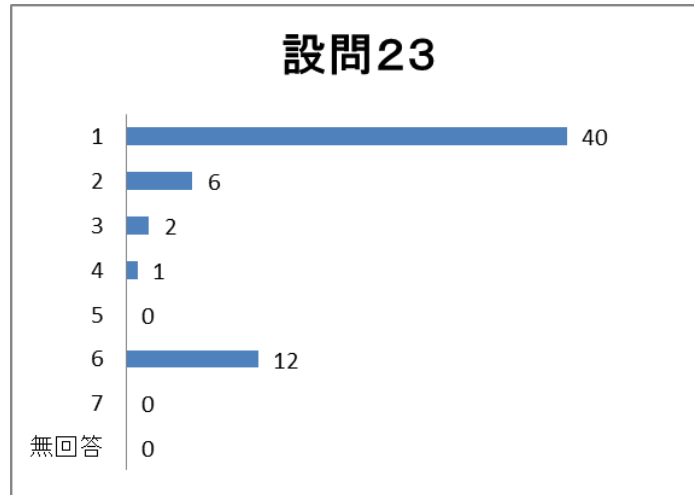
- A. 図書館の設備(蔵書やレファレンスサービス：図書館員による情報提供・資料検索他)
- B. 実習室の設備や器具
- C. コンピュータの施設や設備
- D. コンピュータの訓練や援助
- E. インターネットの使いやすさ
- F. 奨学金など学費援助の制度
- G. 健康・保健サービス（心身の健康に関わる問題についての診療や相談：歯科を含む）
- H. レクリエーション施設（体育館の設備など）
- I. キャリアカウンセリング(就職や進学に関する相談)



VI. 卒業後の進路について

[23] 卒業後の進路予定

1. 就職する
2. 専攻科に就職する
3. 留学する
4. 他大学に（編）入学する
5. 専門学校に入学する
6. まだわからない
7. その他（具体的に）



【その他の回答】

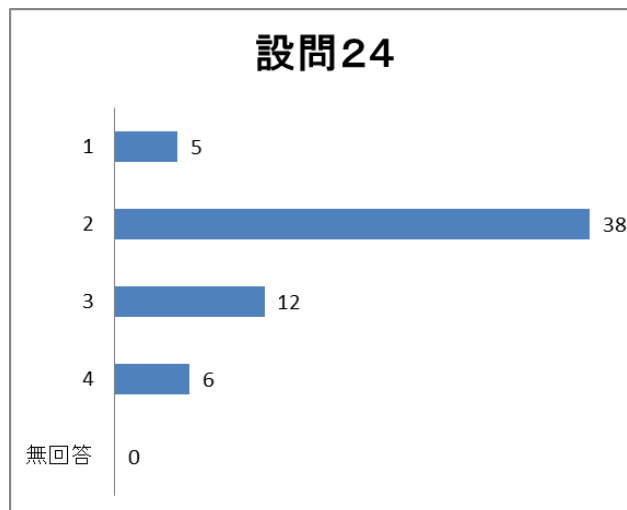
なし

[24] 将来の見通しと現在の状態

以下の2つの文章を読んで、あなたのいまの状態にもっとも近い番号を選んでください。

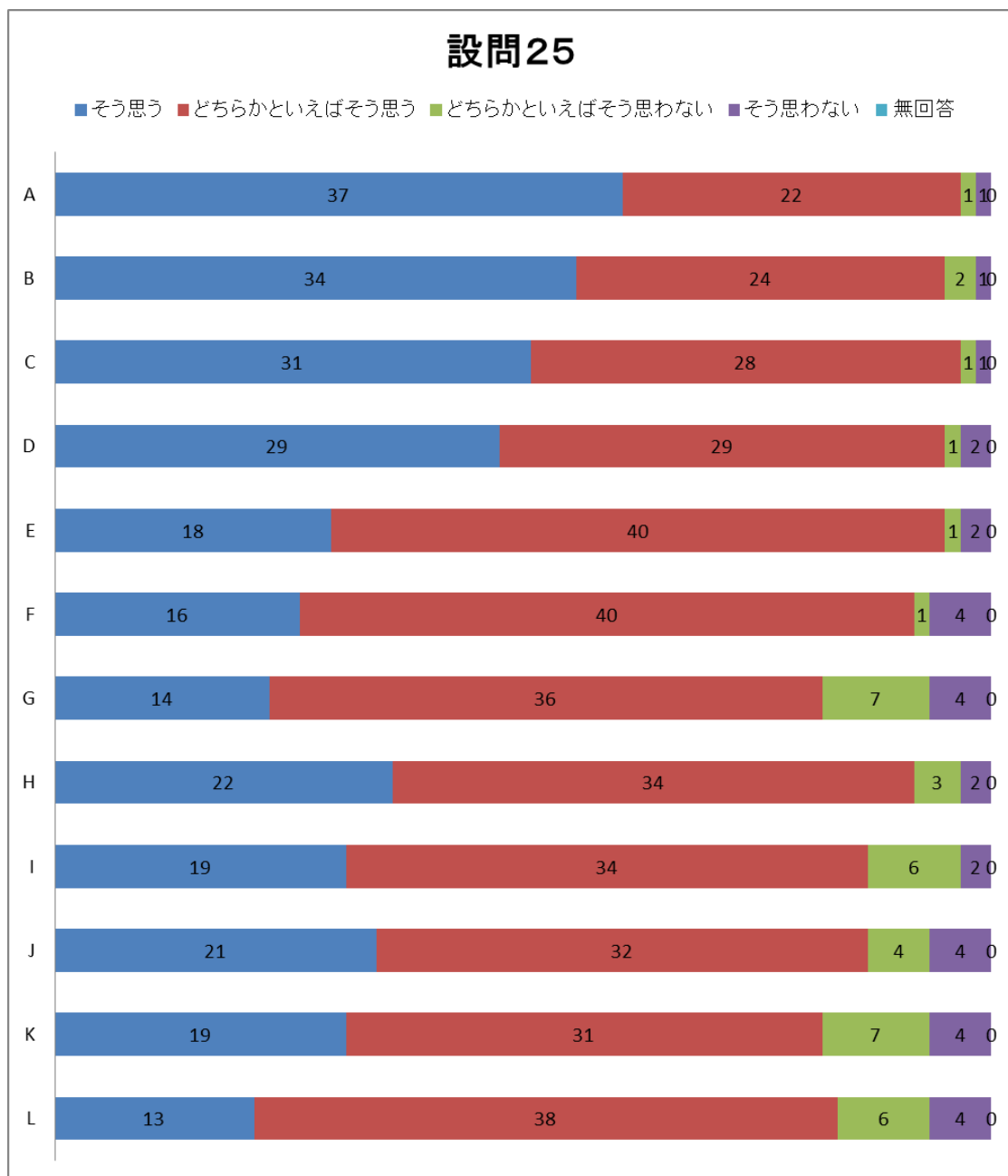
- ・あなたは、将来の見通し（将来こういう風でありたい）を持っていますか。
- ・その見通しのなかでもっとも重要なものを1つ思い浮かべてください。
あなたは、その見通しの実現に向かって、自分が何をすべきなのかわかっていますか。
また、それを実行していますか。

1. 将来の見通しを持っている + 何をすべきかをわかっているし、実行もしている
2. 将来の見通しを持っている + 何をすべきかをわかっているが、実行は出来ていない
3. 将来の見通しを持っている + 何をすべきかをわからない
4. 将来の見通しを持っていない



[25] 卒業後の進路のために、大学在学中に経験したいこと

- A. 専門分野の知識・技術をしっかり身につけ、国家試験に合格出来る教育を受ける
- B. 専門分野だけでなく、幅広い知識を身につけ視野を広げる
- C. 職業意識の形成につながる教育を受ける
- D. 学外実習施設での体験実習等を踏まえた上で、専門知識を学ぶ
- E. 教員が設定した特定の課題に対して、チームで取り組むプロジェクト型の授業を受ける
- F. 自分で課題を見つけ、自分で解決していくような訓練を受ける
- G. ディベート（討論）やプレゼンテーションの訓練を受ける
- H. 実践的で専門性のある資格を取得するためのプログラムを受ける
- I. レポートや論文指導により、文書作成能力を高める
- J. 卒業後の進路について、教職員に対して個別に相談する
- K. 卒業後の進路について、本学の卒業生や先輩と話をする
- L. 本学の教職員以外の人と話をする



以上

福岡医療短期大学 学生 IR 調査 2017 年

[歯科衛生学科 3 年次生 80/81 名]



学生のみなさんへ

日ごろの大学での勉強、お疲れ様です。

本調査は、日ごろの大学生活を思い出して、学生のみなさんに大学生活を自己申告してもらい、大学における教育の成果を調査（測定）することを目的として実施します。大学教育の中で、在学中のみなさんから大学生活や教学などに関する情報を収集・分析することは、IR（インスティテューショナル・リサーチ, institutional research）と呼ばれ、学生の視点を重視し、学生に確実に教育成果を身につけてもらうための大切な活動の一つです。調査結果から得られた教育内容の特徴を分析することで、教育の質を客観的に保証するとともに、さらなる教育改善の方策を見出します。

回答してもらった内容は、すべて統計的に処理しますので、みなさんの回答が他の人に知られることはありません。回答は、特にことわりや指示のない限り、もっともよくあてはまるものを1つだけ選んでください。また、回答できない箇所は空白にさせていただいて結構です。

2017 年 9 月 29 日実施

[取組の趣旨]

- 本アンケート調査は、文部科学省選定事業『大学教育再生加速プログラム』の趣旨に基づき、2 年～3 年という短い修業年限の中で実施している専門教育の学修成果の可視化を目的に実施した。
- 専門教育に関する学修成果の可視化を推進する目的で、相互実習・学外実習等を含む本学独自のアンケート調査の設問項目を作成し、単なる「学生満足度」を測定する調査ではなく、本学の教育の質保証に資する汎用的な大学教学調査をめざした。
- その取組の中で、さらに学修成果の可視化の質向上をめざすため、「全般的な学習状況」、「授業時間外の学習状況」、「教育の質保証」の3つの教育観点に関する設問について、先進的な取組である『大学 IR コンソーシアム』の学生調査（「一年生調査 2013 年」）の取組を参考にして検討し選定した。

I. 学生の属性など

[1] 学籍番号（学生 ID） 7桁の番号で記入してください。

学生 ID 回答者：56名 非回答者：24名

*今回の調査では、学籍番号をもとに、みなさんの学習状況と取得単位数等の相互関係を分析します。また、**学年毎**に同様の調査を実施し、大学1年次のときに感じられたことがどのように変化したのかを探り、大学における教育成果を測定することを計画しています。そのために、学籍番号のご記入を**任意**でお願いしています。分析作業は個人情報に配慮して進めますので、個人を特定できる情報が他の人に知られることはありませんが、記入したくない人は空白にしておいてください。

[2] 所属する学科

1. 歯科衛生学科：80名
2. 保健福祉学科：00名

[3] 性別

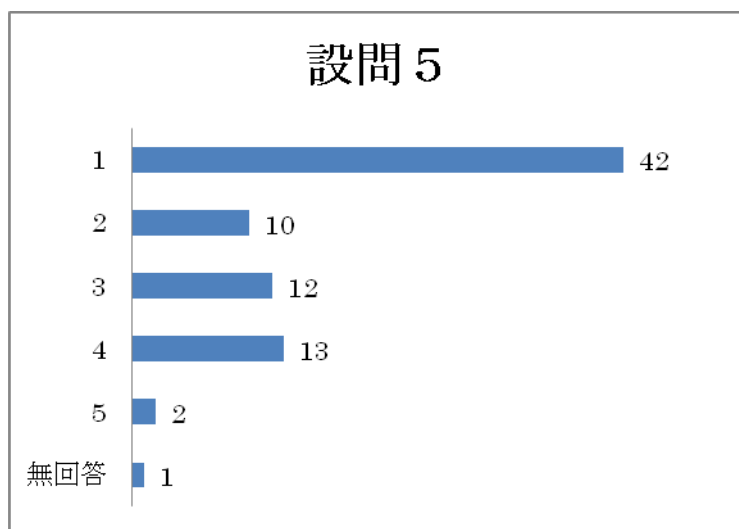
- 1.男性：00名
- 2.女性：80名

[4] 2017年4月1日の時点の年齢

20歳：56名 21歳：13名 22歳：3名 23歳：1名 24歳：1名
31歳：1名 34歳：2名 36歳：1名 無回答：2名

[5] 通学にかかる時間（片道）

1. 30分未満
2. 30分以上～1時間未満
3. 1時間以上～1時間30分未満
4. 1時間30分以上～2時間未満
5. 2時間以上

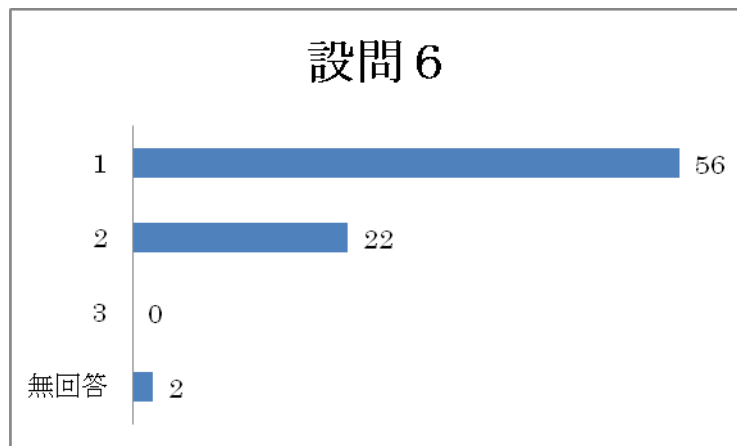


[6] 現在の住まい

1.家族または親戚と暮らしている

2.アパート・学生マンションでひとり暮らし

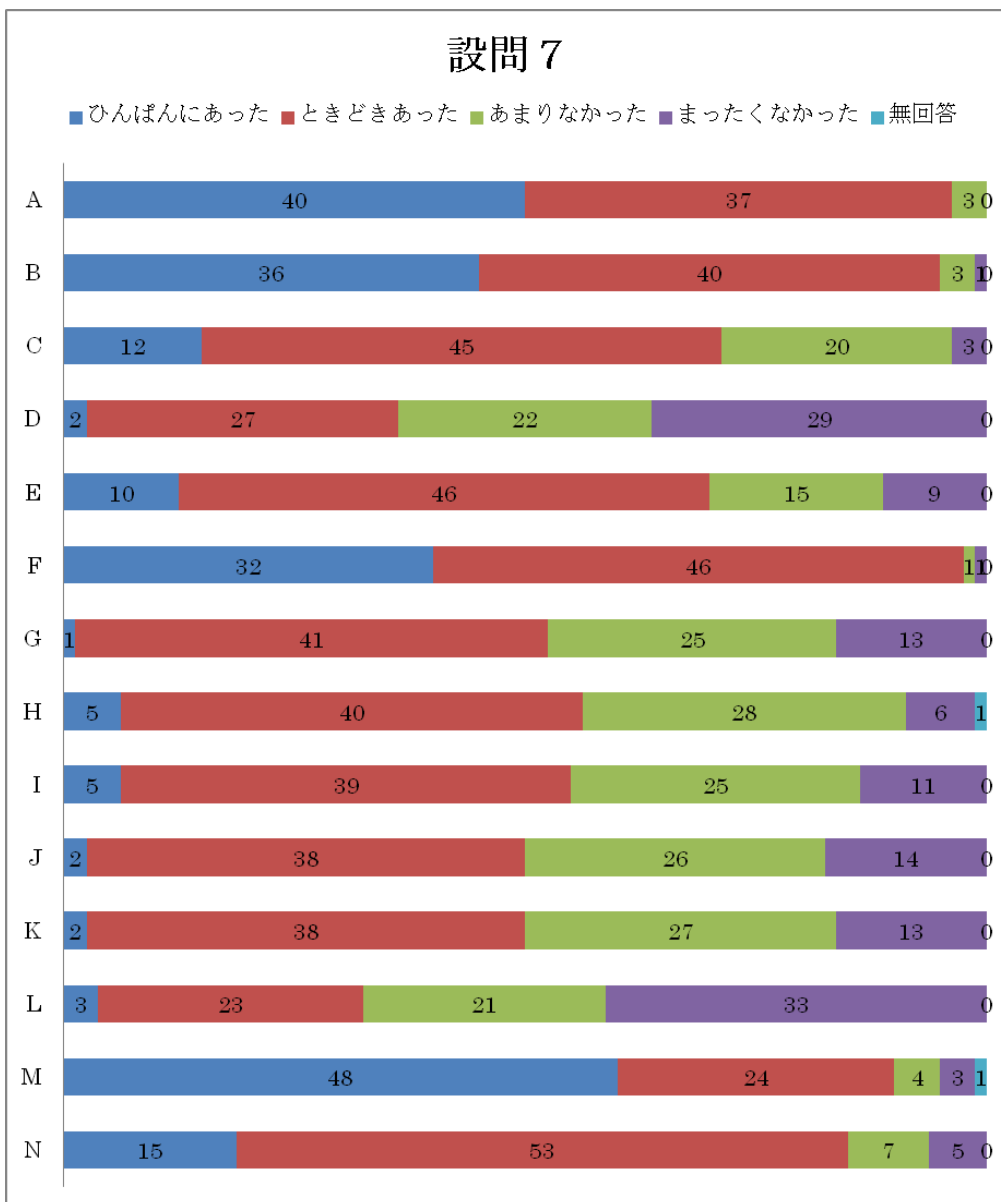
3.大学寮や合宿所



Ⅱ. 大学に入学してからの学習状況について

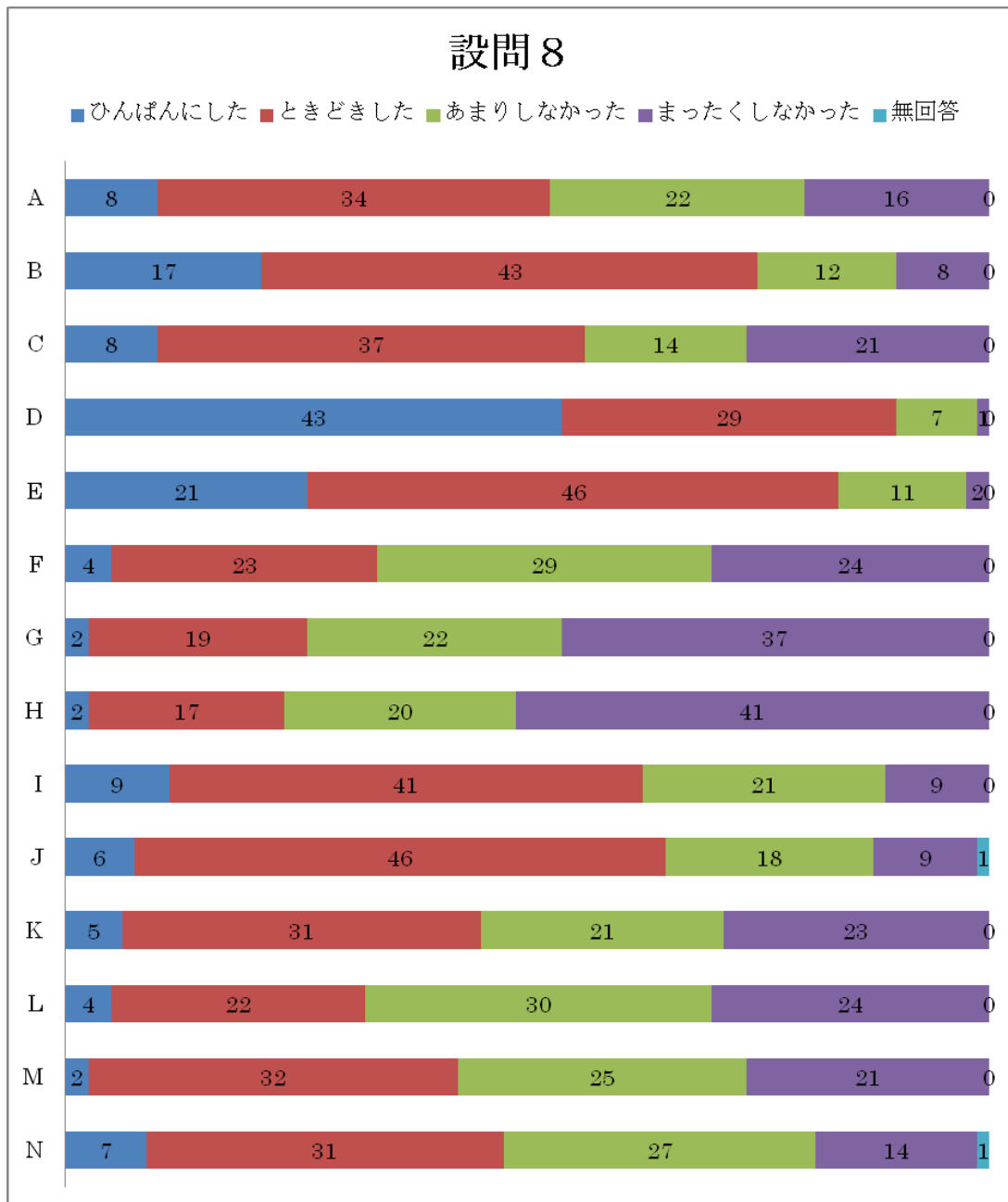
[7] 大学の授業の内容や特徴

- A. 所属学科の学内実習、学外実習などを実施し、学生が体験的に学ぶ
- B. 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ
- C. 授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する
- D. 授業の一環でボランティア活動をする
- E. 学生自身が文献や資料を調べる
- F. 定期的に小テストやレポートが課される
- G. 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する
- H. 学生が自分の考えや研究を発表する
- I. 授業中に学生同士が論議をする
- J. 授業で検討するテーマを学生が設定する
- K. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる
- L. 取りたい授業を履修登録できなかった
- M. 出席することが重視される
- N. TA・SA（上級生や専攻科生）から補助・指導を受ける



[8] 大学の授業や授業以外の学習状況

- A. 授業課題のために図書館の資料を利用した
- B. 授業課題のために Web 上の情報を利用した
- C. インターネットやイントラネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした
- D. 提出期限までに授業課題を完成した
- E. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容について話したりした
- F. 授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた
- G. 授業を欠席した
- H. 授業に遅刻した
- I. 授業をつまらなく感じた
- J. 授業中に居眠りをした
- K. 教職員に学習に関する相談をしたり、学内の学習支援室を利用したりした(オフィサーも含める)
- L. 単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した
- M. 大学の教職員に将来のキャリアの相談をした (卒業後の進路や職業選択など)
- N. 教員に親近感を感じた

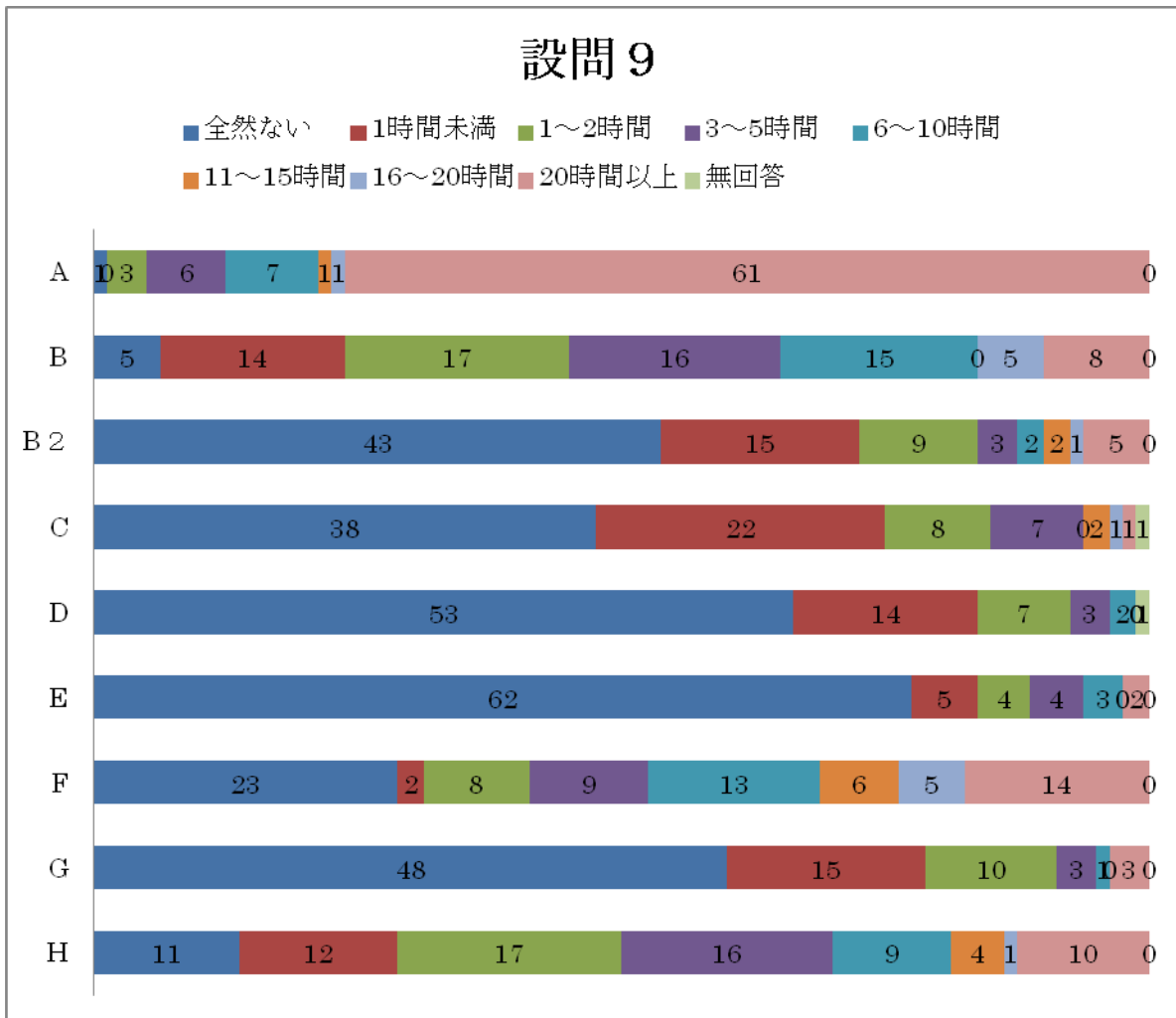


[9] 入学以来、活動に費やしている **1週間あたり**の時間数

- A. 講義や実習に出席する [参考] 90分×4コマ×5日間=30時間
- B. 授業時間以外に授業課題や準備学習、復習をする [参考] 1日2時間×7日=14時間
- B2. アクティブ・ラーニング科目（学内の演習や学外での実習など）に関する授業外学修時間
- C. 授業時間以外に、授業に関連しない勉強をする
- D. オフィスアワーなど、授業時間以外に教員と面談する
- E. 部活動や同好会に参加する
- F. 大学外でアルバイトや仕事をする
- G. 読書をする（マンガ・雑誌を除く）
- H. 個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）

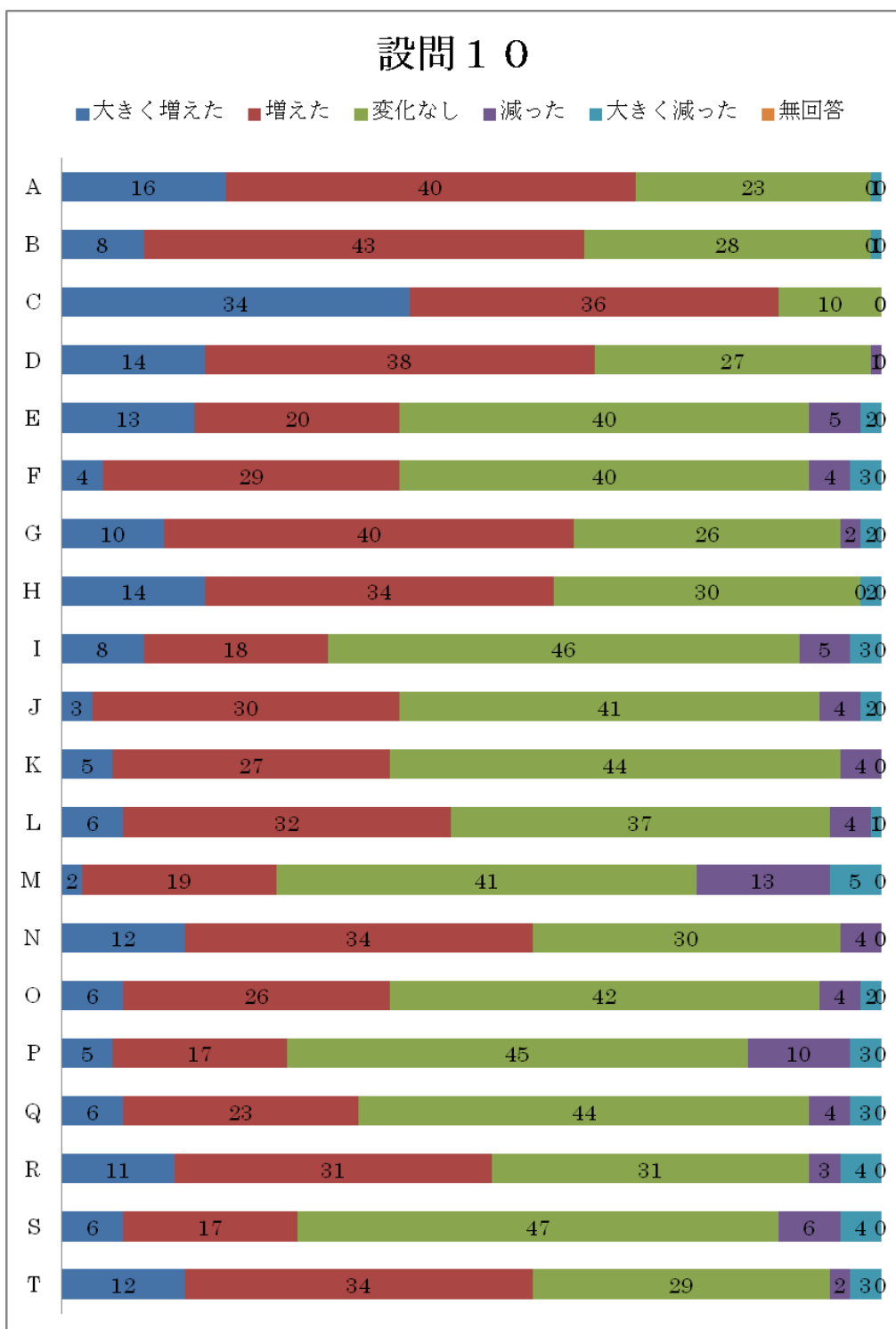
※時間の目安

- 1日30分×7日=3.5時間 1日60分×7日=7時間
- 1日1.5時間×7日=10.5時間 1日2時間×7日=14時間

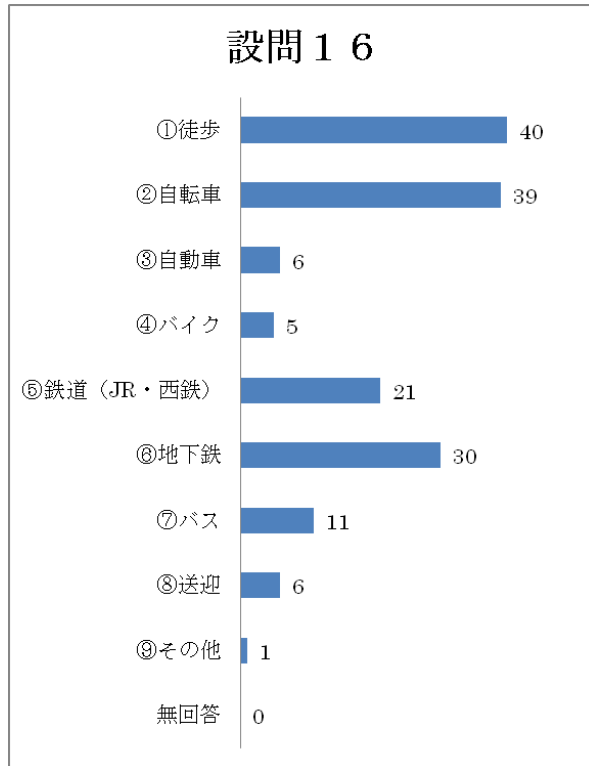


[10] 入学時点と比べた能力や知識の変化

- A. 一般的な教養
- B. 分析力や問題解決能力
- C. 専門分野や学科の知識
- D. 批判的に考える能力
- E. 異文化の人々に関する知識
- F. リーダーシップの能力
- G. 人間関係を構築する能力
- H. 他の人と協力して物事を遂行する能力
- I. 異文化の人々と協力する能力
- J. 地域社会が直面する問題を理解する能力
- K. 国民が直面する問題を理解する能力
- L. 文章表現の能力
- M. 外国語の運用能力
- N. コミュニケーションの能力
- O. プレゼンテーションの能力
- P. 数理的な能力
- Q. コンピュータの操作能力
- R. 時間を効果的に利用する能力
- S. グローバルな問題の理解
- T. 就職に向けての知識・技術力



[16] 大学までの交通手段（当てはまるものすべてに○をつける）

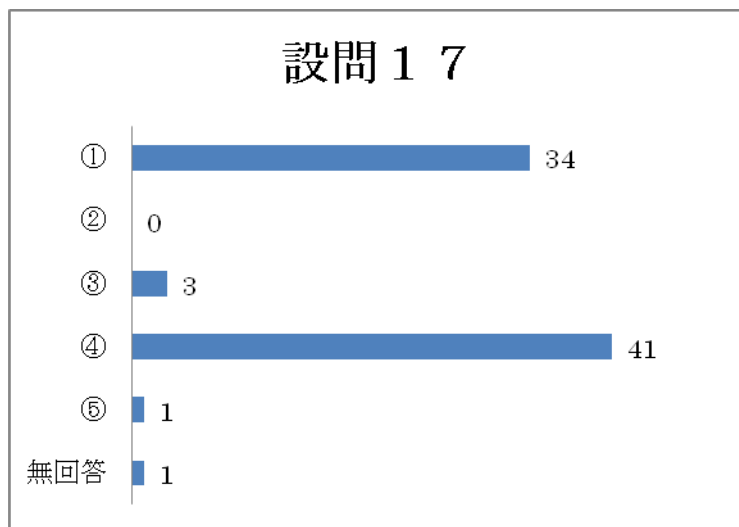


【その他の回答】

船：1名

[17] 奨学金の利用

- ①日本学生支援機構の奨学金 ②日本介護福祉士修学資金
 ③以前受けていたが今は受けていない ④受けていない ⑤その他

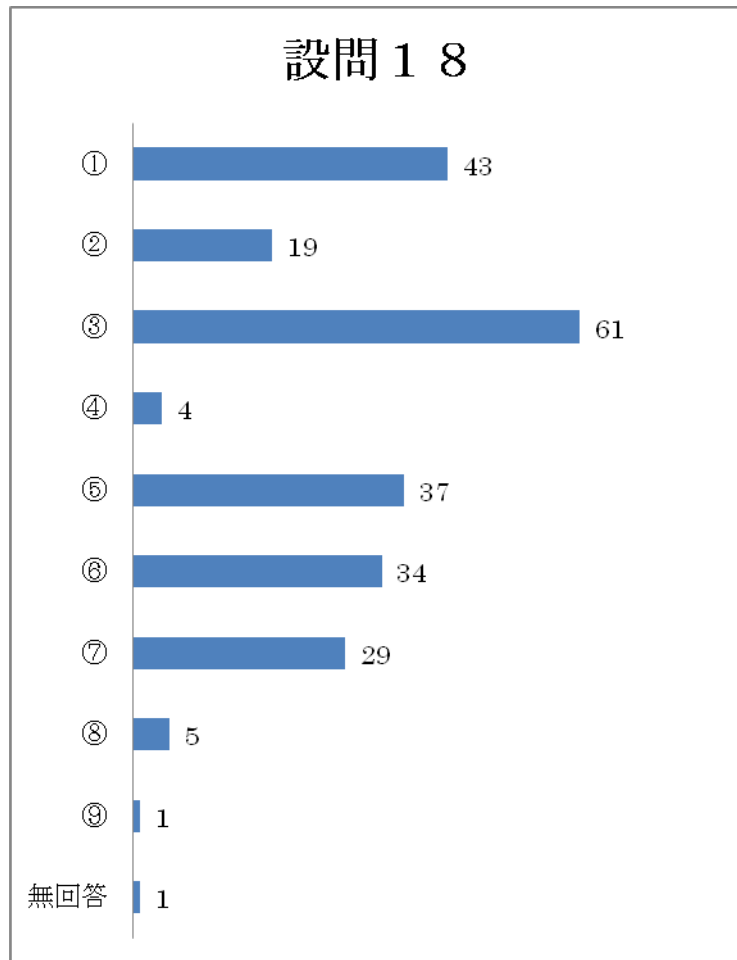


【その他の回答】

母子：1名

[18] 大学生生活の目的 (当てはまるすべてのものに○をつける)

- ①専門的な研究や知識を身につける ②豊かな教養を身につける ③学歴や資格を得る
④クラブやサークルを楽しむ ⑤希望する職業に就く ⑥学生生活を楽しむ
⑦友達とのかかわりを楽しむ ⑧特に目的はない ⑨その他



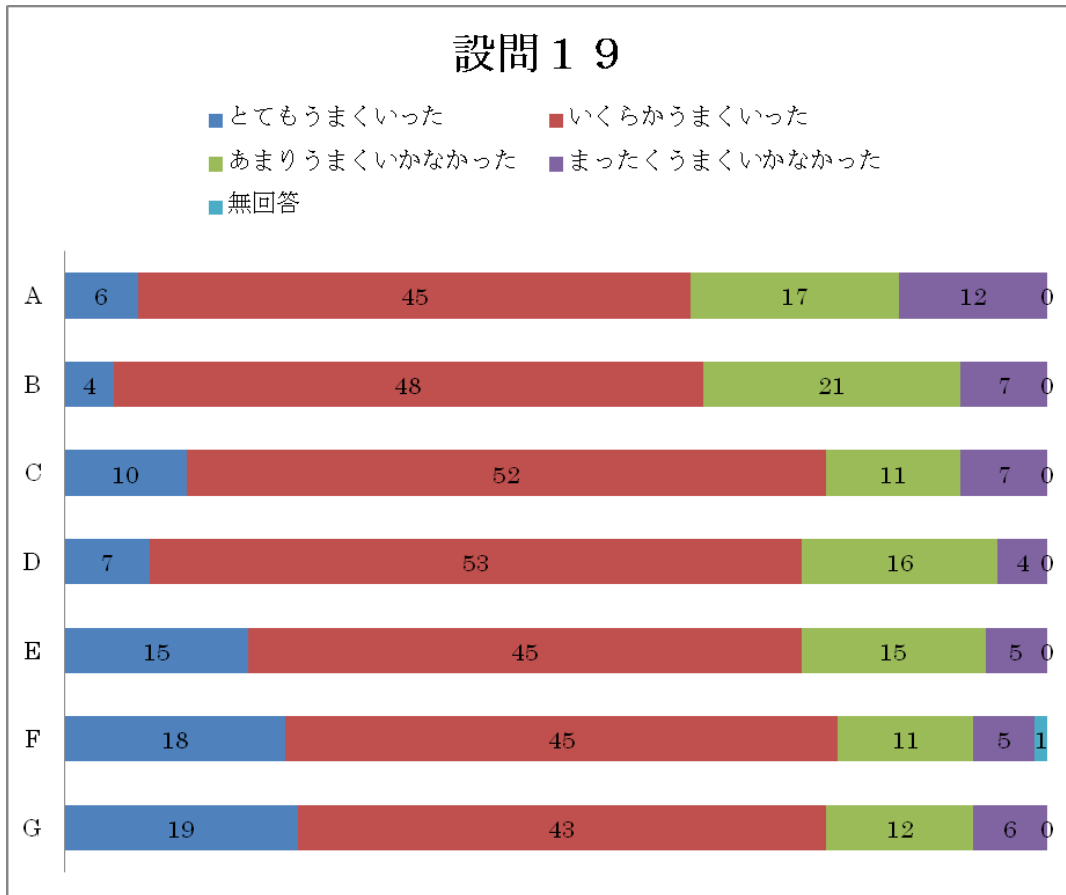
【その他の回答】

アルバイト：1名

V. 大学生活に対する考えや満足度について

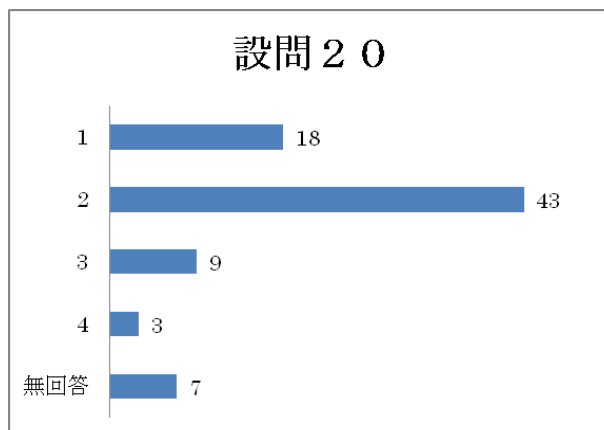
[19] 入学してからの大学生活への円滑な移行

- A. 大学の学生向けサービスを上手に利用する
- B. 大学教員の学問的な期待を理解する
- C. 効果的に学習する技能を修得する
- D. 大学が求める水準に応じて学習する
- E. 時間を効果的に使う
- F. 大学教員と顔見知りになる
- G. 他の学生との友情を深める



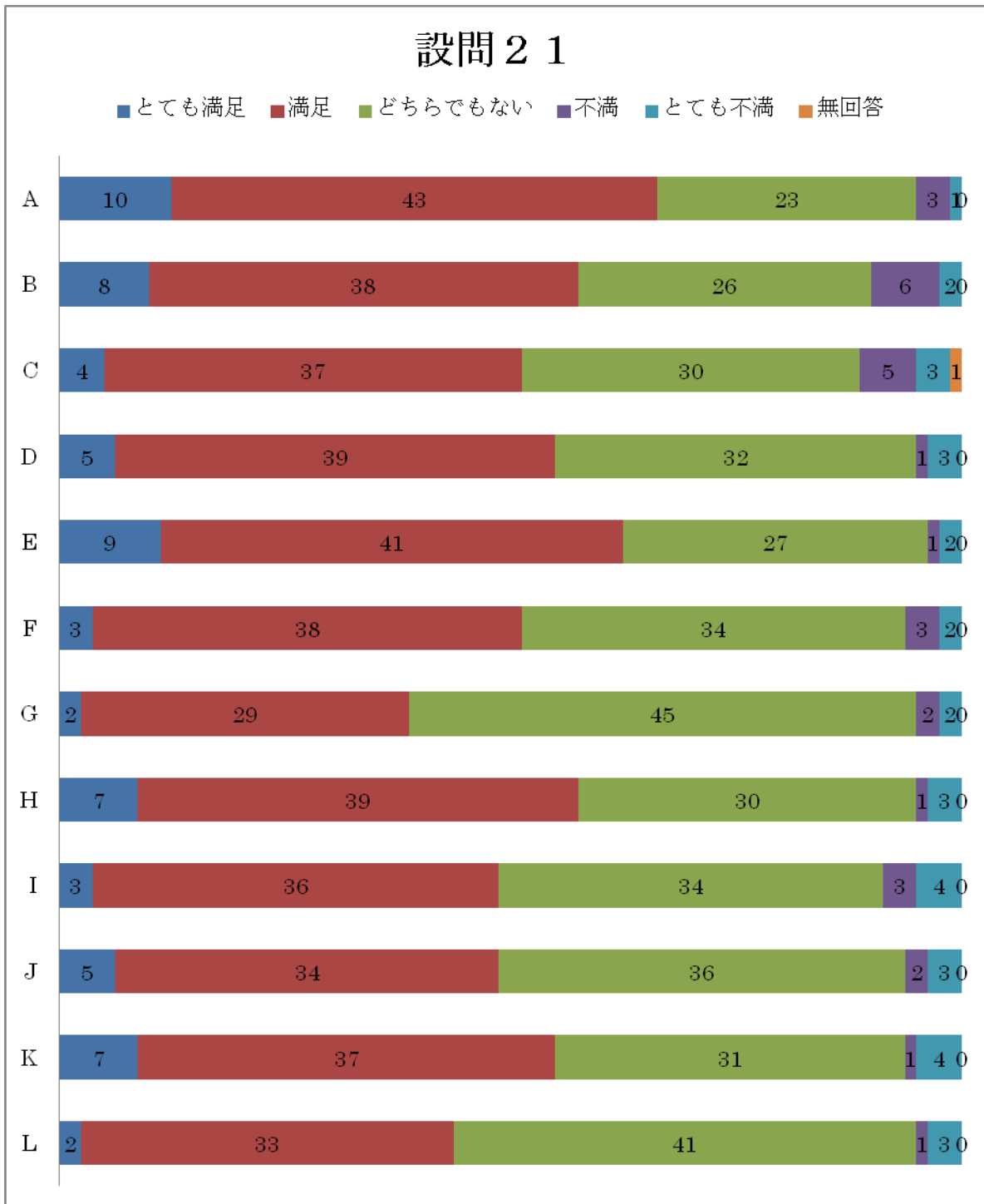
[20] 学生生活の充実

- 1. 充実している
- 2. まあまあ充実している
- 3. あまり充実していない
- 4. 充実していない



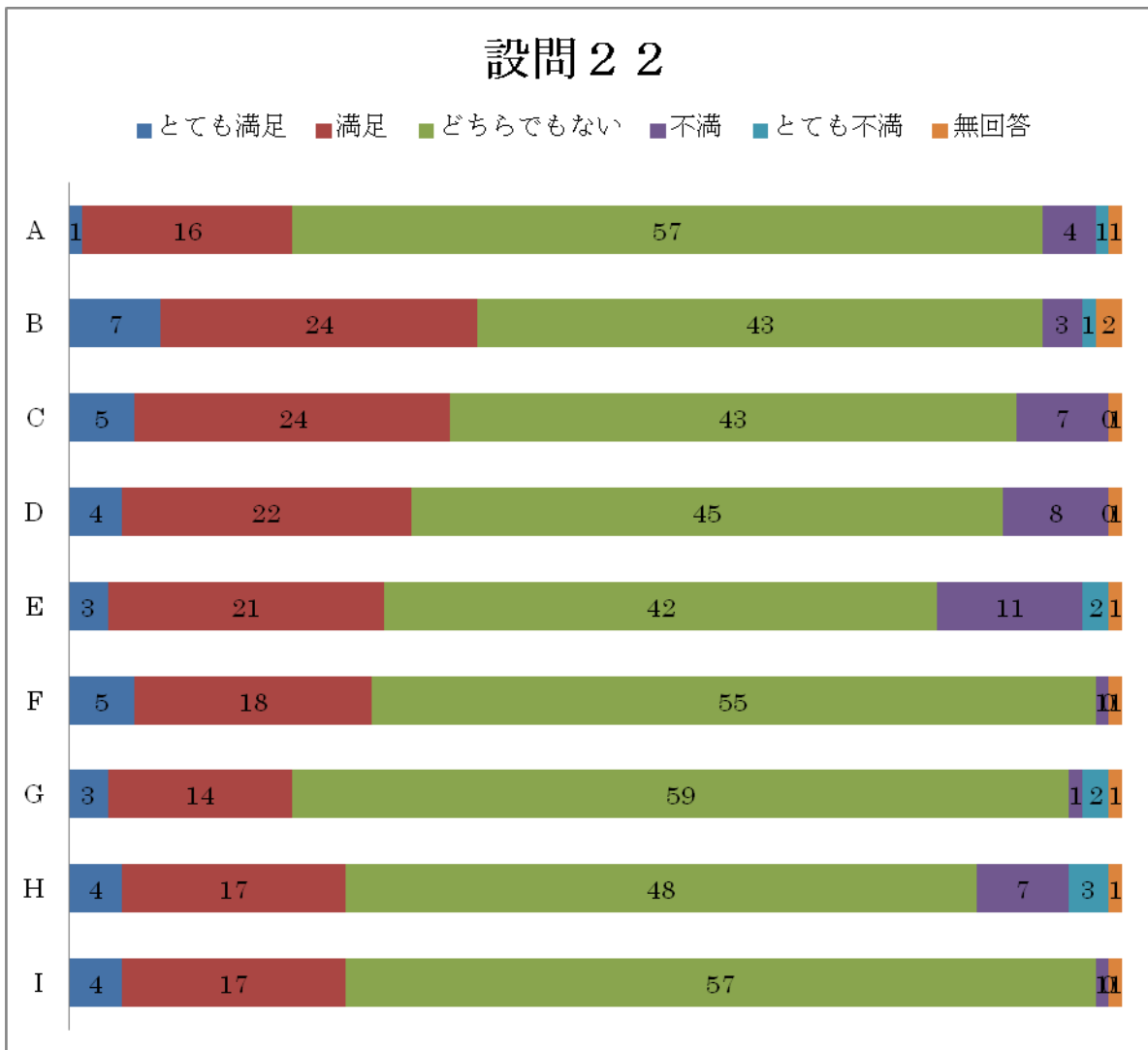
[21] 教育内容の満足度

- A. 専門教育あるいは所属学科の授業
- B. 所属学科の学内実習や学外実習
(臨床・臨地実習・介護実習等)
- C. 授業の全体的な質
- D. 日常生活と授業内容との関連
- E. 将来の仕事と授業内容との結びつき
- F. 教員と話す機会
- G. 個別の学習指導や学習支援 (履修相談など)
- H. 他の学生と話す機会
- I. 大学のなかでの学生同士の一体感
- J. 多様な考え方を認め合う雰囲気
- K. 大学での経験全般について
- L. 1つの授業を履修する学生数



[22] 設備や学生支援制度の満足度

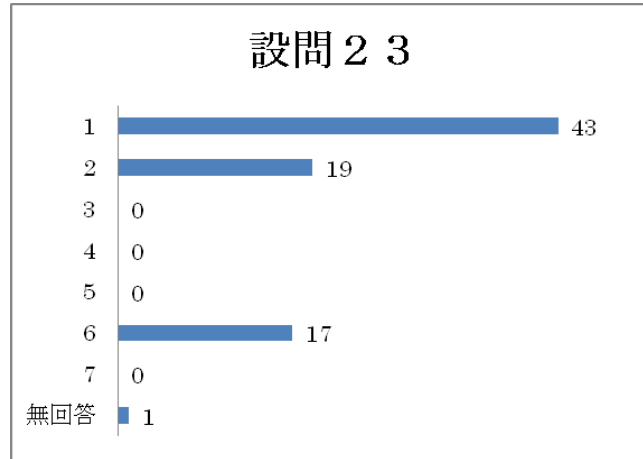
- A. 図書館の設備(蔵書やレファレンスサービス：図書館員による情報提供・資料検索他)
- B. 実習室の設備や器具
- C. コンピュータの施設や設備
- D. コンピュータの訓練や援助
- E. インターネットの使いやすさ
- F. 奨学金など学費援助の制度
- G. 健康・保健サービス（心身の健康に関わる問題についての診療や相談：歯科を含む）
- H. レクリエーション施設（体育館の設備など）
- I. キャリアカウンセリング(就職や進学に関する相談)



VI. 卒業後の進路について

[23] 卒業後の進路予定

1. 就職する
2. 専攻科に就職する
3. 留学する
4. 他大学に（編）入学する
5. 専門学校に入学する
6. まだわからない
7. その他（具体的に）

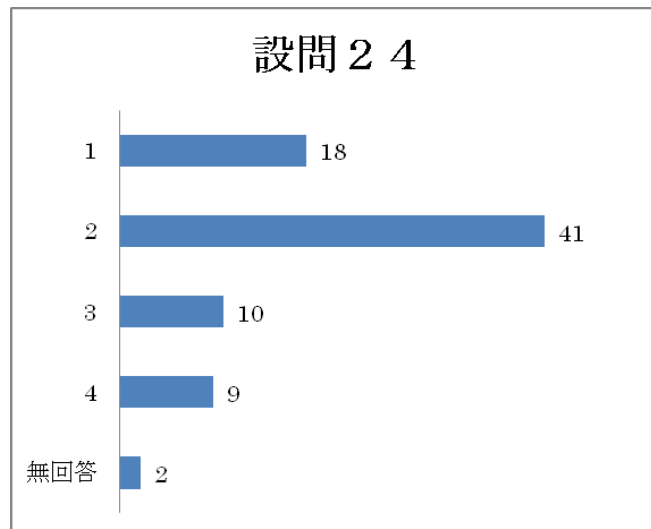


[24] 将来の見通しと現在の状態

以下の2つの文章を読んで、あなたのいまの状態にもっとも近い番号を選んでください。

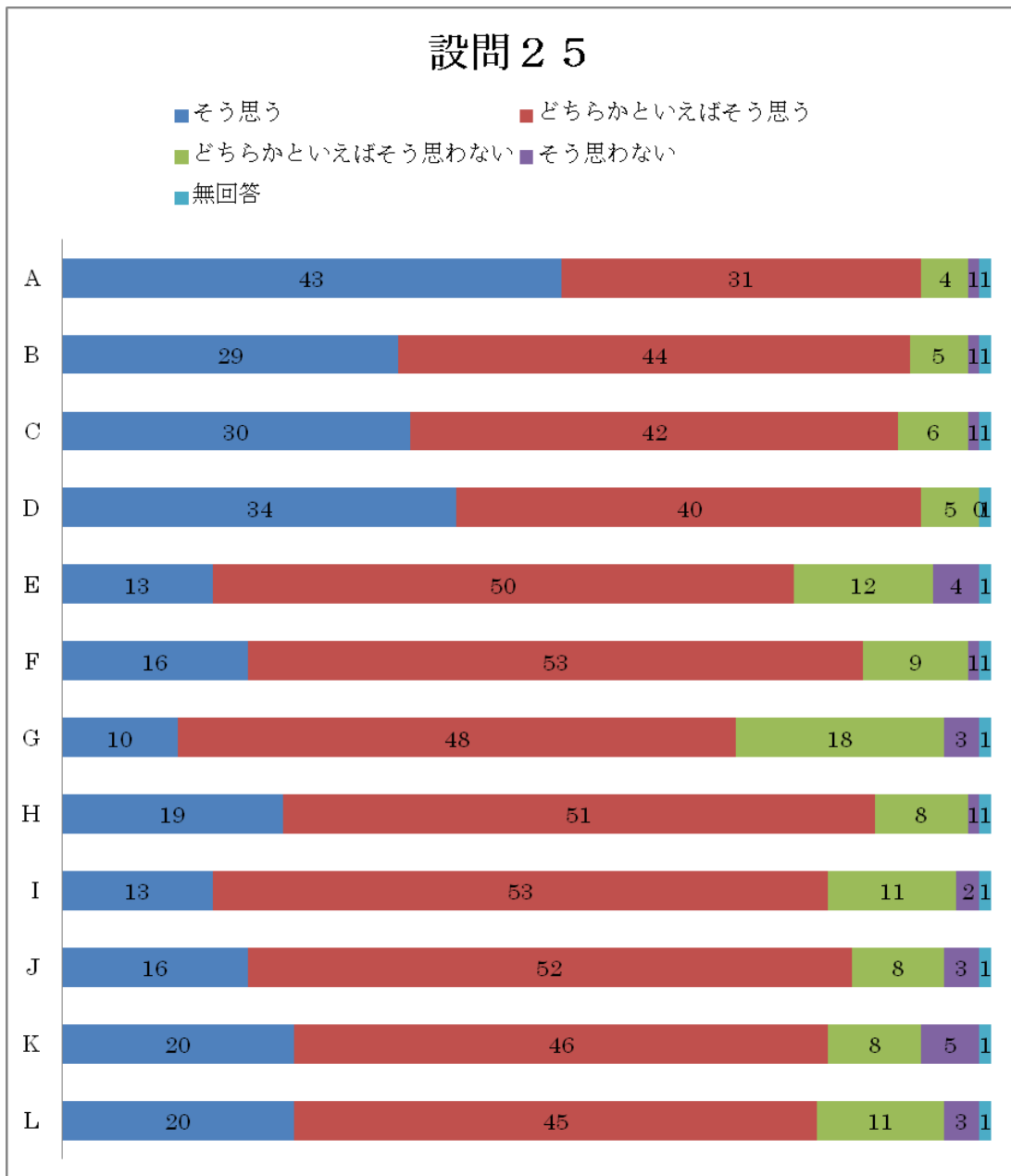
- ・あなたは、将来の見通し（将来こういう風でありたい）を持っていますか。
- ・その見通しのなかでもっとも重要なものを1つ思い浮かべてください。
あなたは、その見通しの実現に向かって、自分が何をすべきなのかわかっていますか。
また、それを実行していますか。

1. 将来の見通しを持っている + 何をすべきかをわかっているし、実行もしている
2. 将来の見通しを持っている + 何をすべきかをわかっているが、実行は出来ていない
3. 将来の見通しを持っている + 何をすべきかをわからない
4. 将来の見通しを持っていない



[25] 卒業後の進路のために、大学在学中に経験したいこと

- A. 専門分野の知識・技術をしっかり身につけ、国家試験に合格出来る教育を受ける
- B. 専門分野だけでなく、幅広い知識を身につけ視野を広げる
- C. 職業意識の形成につながる教育を受ける
- D. 学外実習施設での体験実習等を踏まえた上で、専門知識を学ぶ
- E. 教員が設定した特定の課題に対して、チームで取り組むプロジェクト型の授業を受ける
- F. 自分で課題を見つけ、自分で解決していくような訓練を受ける
- G. ディベート（討論）やプレゼンテーションの訓練を受ける
- H. 実践的で専門性のある資格を取得するためのプログラムを受ける
- I. レポートや論文指導により、文書作成能力を高める
- J. 卒業後の進路について、教職員に対して個別に相談する
- K. 卒業後の進路について、本学の卒業生や先輩と話をする
- L. 本学の教職員以外の人と話をする



以上

福岡医療短期大学 学生 IR 調査 2017 年

[保健福祉学科 1 年次生 19/19 名]



学生のみなさんへ

日ごろの大学での勉強、お疲れ様です。

本調査は、日ごろの大学生活を思い出して、学生のみなさんに大学生活を自己申告してもらい、大学における教育の成果を調査（測定）することを目的として実施します。大学教育の中で、在学中のみなさんから大学生活や教学などに関する情報を収集・分析することは、IR（インスティテューショナル・リサーチ, institutional research）と呼ばれ、学生の視点を重視し、学生に確実に教育成果を身につけてもらうための大切な活動の一つです。調査結果から得られた教育内容の特徴を分析することで、教育の質を客観的に保証するとともに、さらなる教育改善の方策を見出します。

回答してもらった内容は、すべて統計的に処理しますので、みなさんの回答が他の人に知られることはありません。回答は、特にことわりや指示のない限り、もっともよくあてはまるものを1つだけ選んでください。また、回答できない箇所は空白にさせていただいて結構です。

2017 年 9 月 27 日実施

[取組の趣旨]

- 本アンケート調査は、文部科学省選定事業『大学教育再生加速プログラム』の趣旨に基づき、2 年～3 年という短い修業年限の中で実施している専門教育の学修成果の可視化を目的に実施した。
- 専門教育に関する学修成果の可視化を推進する目的で、相互実習・学外実習等を含む本学独自のアンケート調査の設問項目を作成し、単なる「学生満足度」を測定する調査ではなく、本学の教育の質保証に資する汎用的な大学教学調査をめざした。
- その取組の中で、さらに学修成果の可視化の質向上をめざすため、「全般的な学習状況」、「授業時間外の学習状況」、「教育の質保証」の3つの教育観点に関する設問について、先進的な取組である『大学 IR コンソーシアム』の学生調査（「一年生調査 2013 年」）の取組を参考にして検討し選定した。

I. 学生の属性など

[1] 学籍番号（学生 ID） 7桁の番号で記入してください。

学生 ID 回答者：17名 非回答者：02名

*今回の調査では、学籍番号をもとに、みなさんの学習状況と取得単位数等の相互関係を分析します。また、**学年毎**に同様の調査を実施し、大学1年次のときに感じられたことがどのように変化したのかを探り、大学における教育成果を測定することを計画しています。そのために、学籍番号のご記入を**任意**でお願いしています。分析作業は個人情報に配慮して進めますので、個人を特定できる情報が他の人に知られることはありませんが、記入したくない人は空白にしておいてください。

[2] 所属する学科

1. 歯科衛生学科：00名
2. 保健福祉学科：19名

[3] 性別

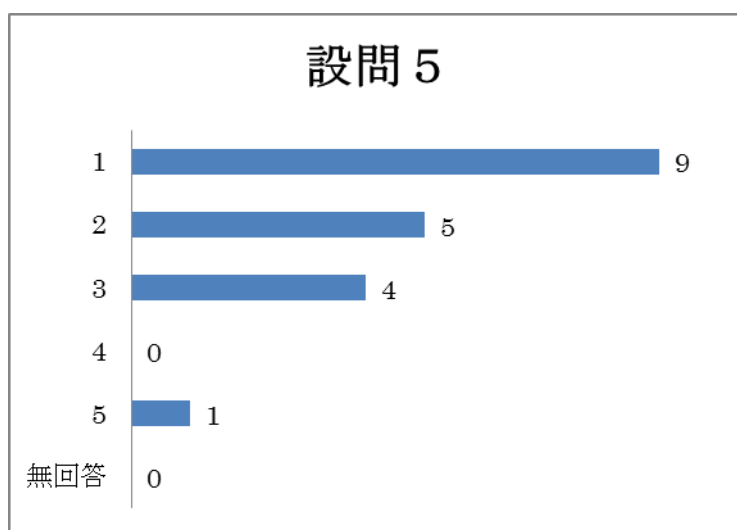
1. 男性：07名
2. 女性：12名

[4] 2017年4月1日の時点の年齢

18歳：07名 19歳：02名 20歳：01名 21歳：02名 23歳：02名
25歳：01名 34歳：02名 38歳：01名 52歳：01名

[5] 通学にかかる時間（片道）

1. 30分未満
2. 30分以上～1時間未満
3. 1時間以上～1時間30分未満
4. 1時間30分以上～2時間未満
5. 2時間以上

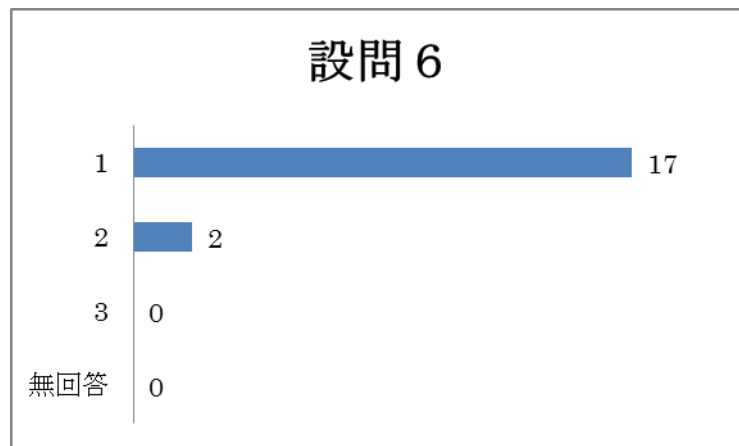


[6] 現在の住まい

1.家族または親戚と暮らしている

2.アパート・学生マンションでひとり暮らし

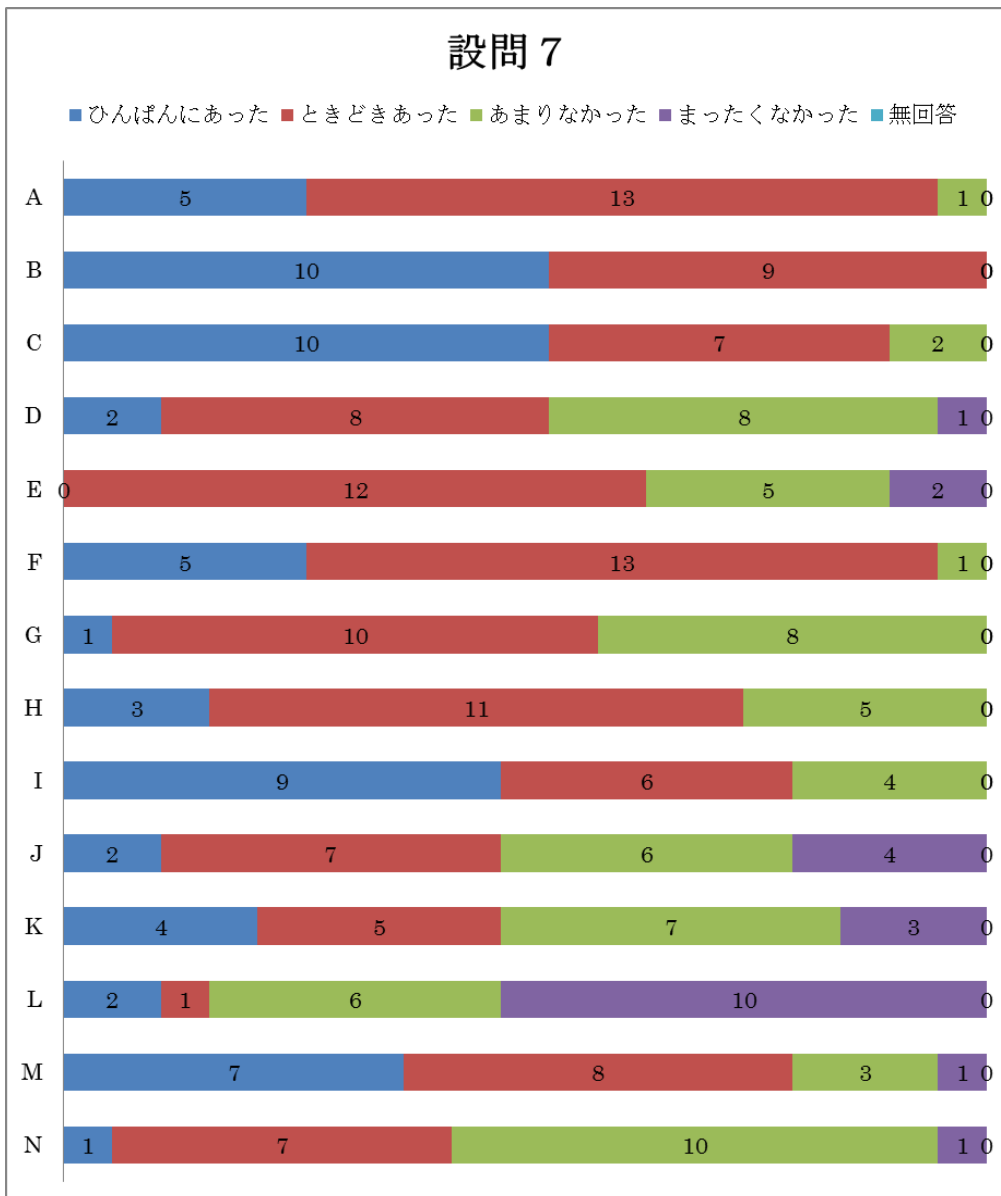
3.大学寮や合宿所



Ⅱ. 大学に入学してからの学習状況について

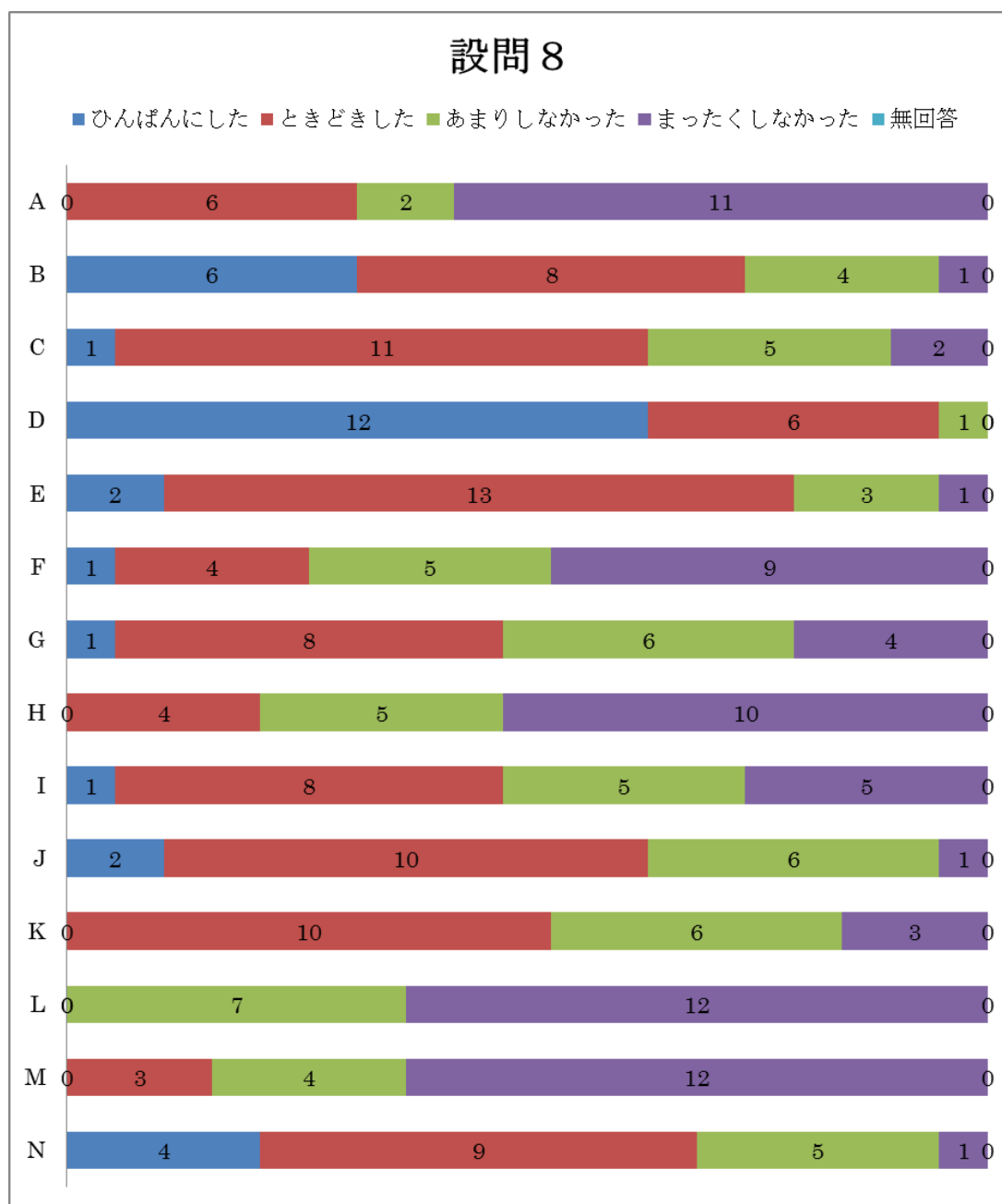
[7] 大学の授業の内容や特徴

- A. 所属学科の学内実習、学外実習などを実施し、学生が体験的に学ぶ
- B. 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ
- C. 授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する
- D. 授業の一環でボランティア活動をする
- E. 学生自身が文献や資料を調べる
- F. 定期的に小テストやレポートが課される
- G. 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する
- H. 学生が自分の考えや研究を発表する
- I. 授業中に学生同士が論議をする
- J. 授業で検討するテーマを学生が設定する
- K. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる
- L. 取りたい授業を履修登録できなかった
- M. 出席することが重視される
- N. TA・SA（上級生や専攻科生）から補助・指導を受ける



[8] 大学の授業や授業以外の学習状況

- A. 授業課題のために図書館の資料を利用した
- B. 授業課題のために Web 上の情報を利用した
- C. インターネットやイントラネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした
- D. 提出期限までに授業課題を完成した
- E. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容について話したりした
- F. 授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた
- G. 授業を欠席した
- H. 授業に遅刻した
- I. 授業をつまらなく感じた
- J. 授業中に居眠りをした
- K. 教職員に学習に関する相談をしたり、学内の学習支援室を利用したりした(オフィサーも含める)
- L. 単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した
- M. 大学の教職員に将来のキャリアの相談をした (卒業後の進路や職業選択など)
- N. 教員に親近感を感じた

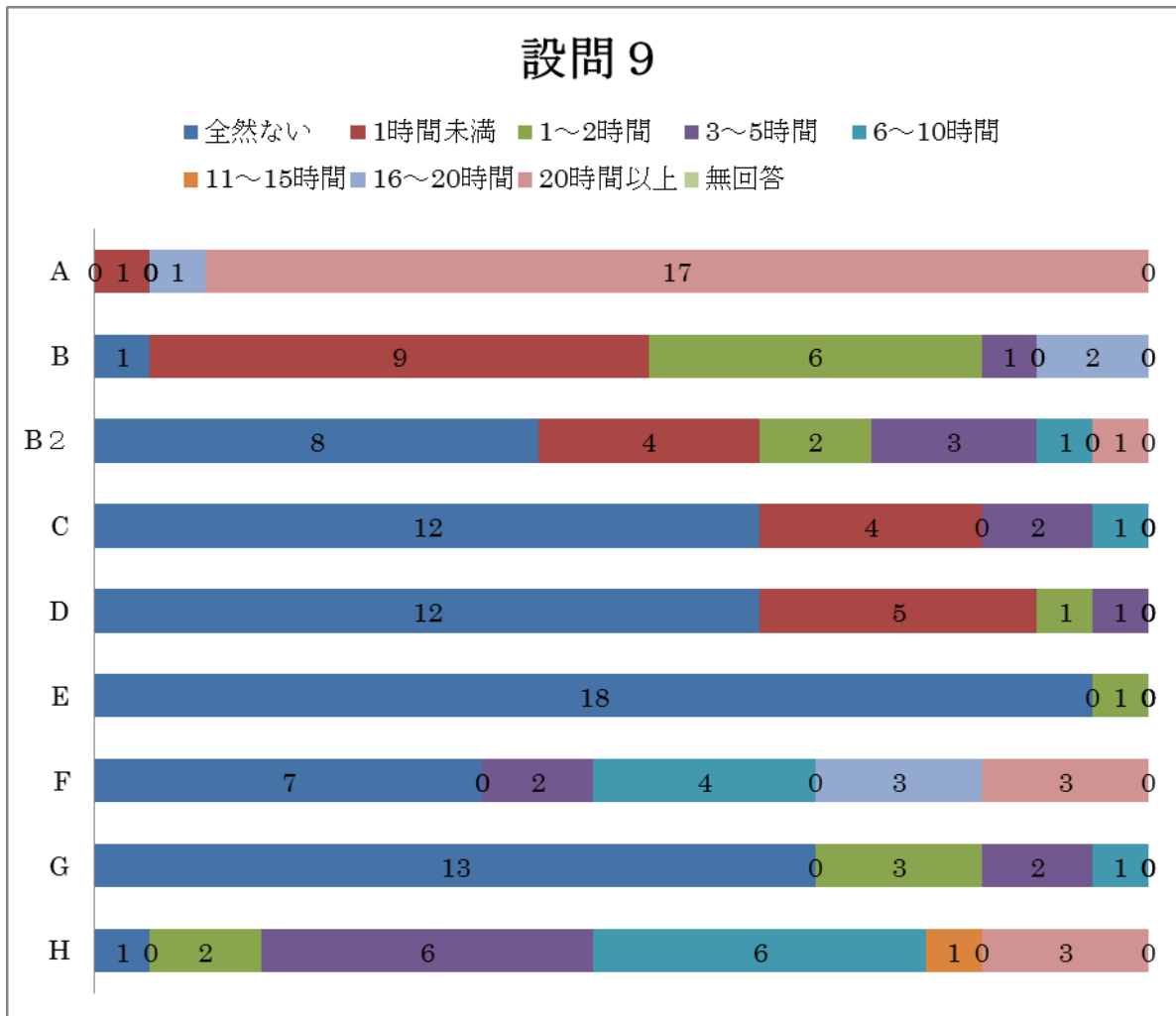


[9] 入学以来、活動に費やしている **1週間あたり**の時間数

- A. 講義や実習に出席する [参考] 90分×4コマ×5日間=30時間
- B. 授業時間以外に授業課題や準備学習、復習をする [参考] 1日2時間×7日=14時間
- B2. アクティブ・ラーニング科目（学内の演習や学外での実習など）に関する授業外学修時間
- C. 授業時間以外に、授業に関連しない勉強をする
- D. オフィスアワーなど、授業時間以外に教員と面談する
- E. 部活動や同好会に参加する
- F. 大学外でアルバイトや仕事をする
- G. 読書をする（マンガ・雑誌を除く）
- H. 個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）

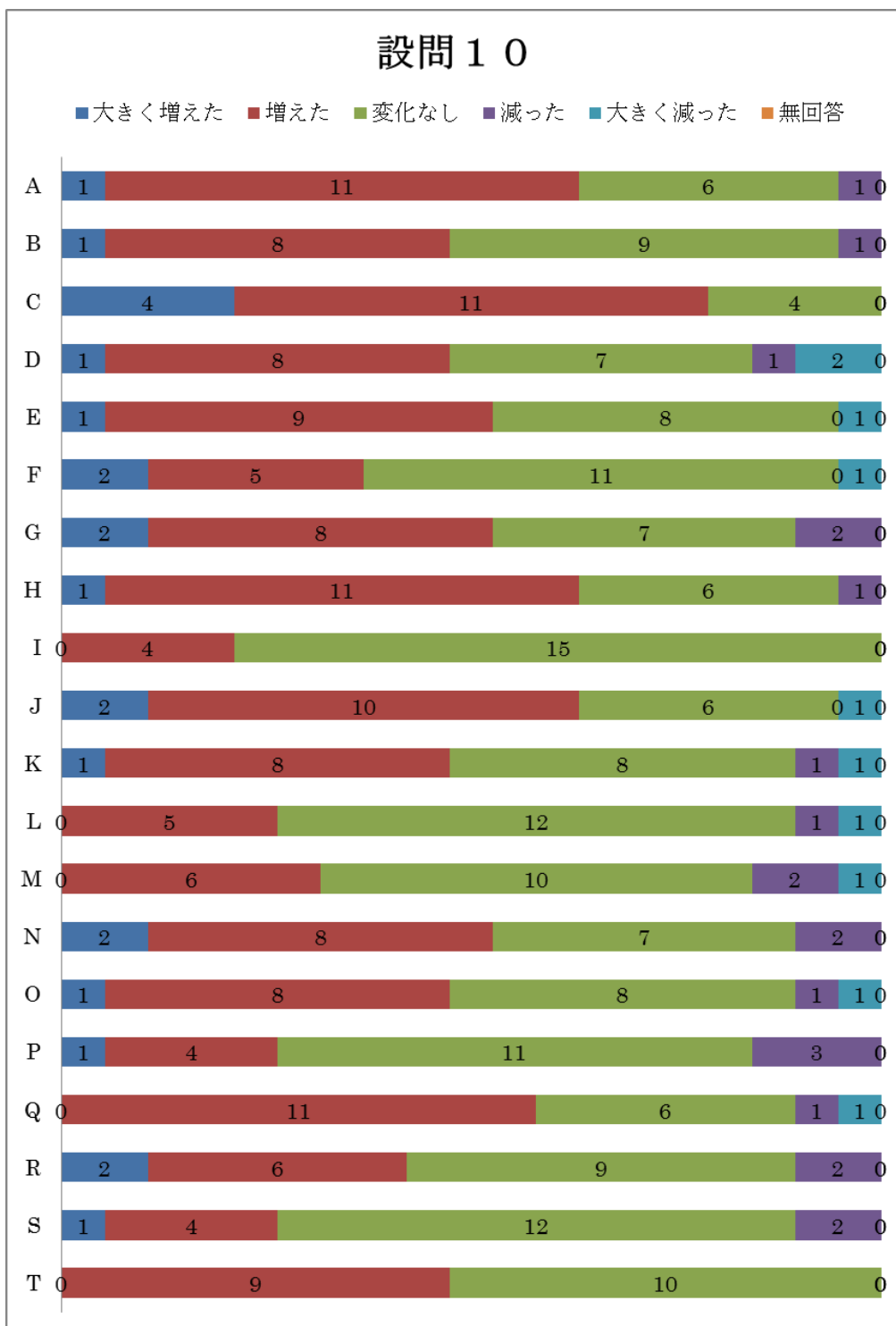
※時間の目安

1日30分×7日=3.5時間 1日60分×7日=7時間
 1日1.5時間×7日=10.5時間 1日2時間×7日=14時間



[10] 入学時点と比べた能力や知識の変化

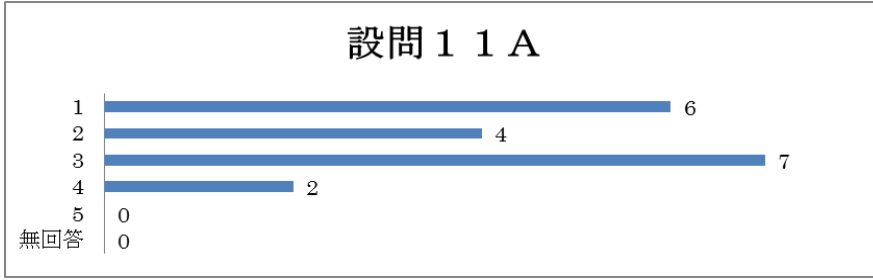
- A. 一般的な教養
- B. 分析力や問題解決能力
- C. 専門分野や学科の知識
- D. 批判的に考える能力
- E. 異文化の人々に関する知識
- F. リーダーシップの能力
- G. 人間関係を構築する能力
- H. 他の人と協力して物事を遂行する能力
- I. 異文化の人々と協力する能力
- J. 地域社会が直面する問題を理解する能力
- K. 国民が直面する問題を理解する能力
- L. 文章表現の能力
- M. 外国語の運用能力
- N. コミュニケーションの能力
- O. プレゼンテーションの能力
- P. 数理的な能力
- Q. コンピュータの操作能力
- R. 時間を効果的に利用する能力
- S. グローバルな問題の理解
- T. 就職に向けての知識・技術力



Ⅲ. 相互実習・学外実習やボランティア活動について

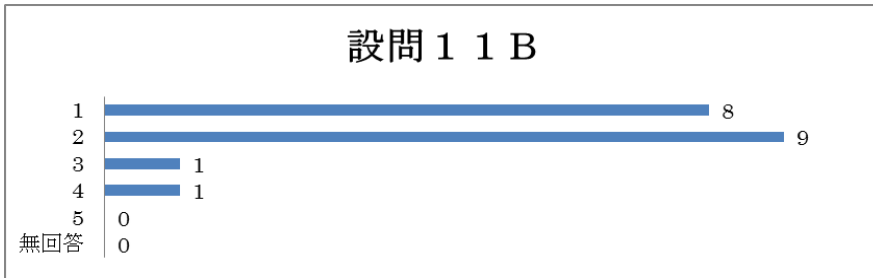
[11A] 学内の実習が好きか

- 1.好き 2.どちらかといえば好き 3.好きでも嫌いでもない
4.どちらかといえば嫌い 5.嫌い



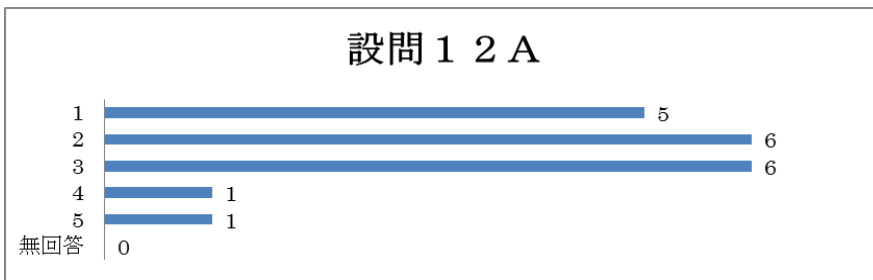
[11B] 学内での実習に意欲的に取り組んでいるか

- 1.意欲的 2.どちらかといえば意欲的 3.どちらでもない
4.どちらかといえば意欲的でない 5.意欲的でない



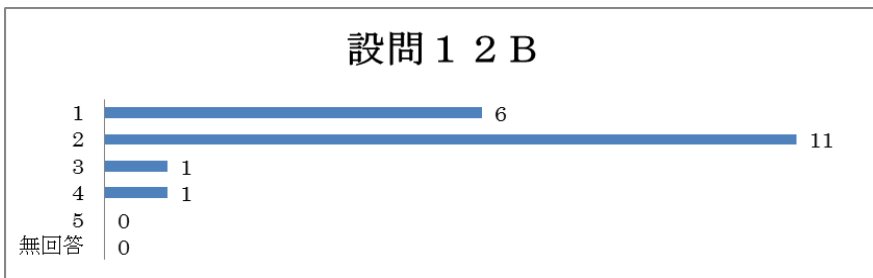
[12A] 学外（臨床・臨地実習・介護実習等）での実習が好きか

- 1.好き 2.どちらかといえば好き 3.好きでも嫌いでもない
4.どちらかといえば嫌い 5.嫌い



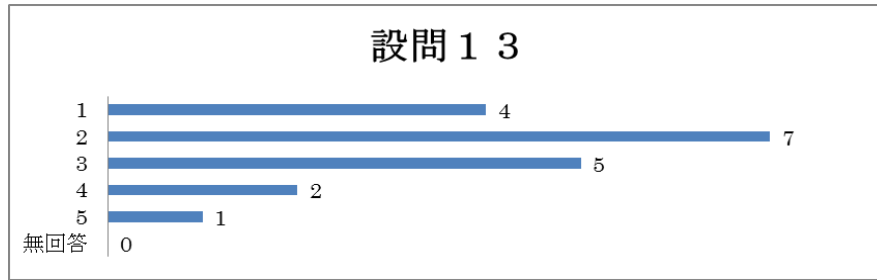
[12B] 学外での実習（臨床・臨地実習・介護実習等）に意欲的に取り組んでいるか

- 1.意欲的 2.どちらかといえば意欲的 3.どちらでもない
4.どちらかといえば意欲的でない 5.意欲的でない



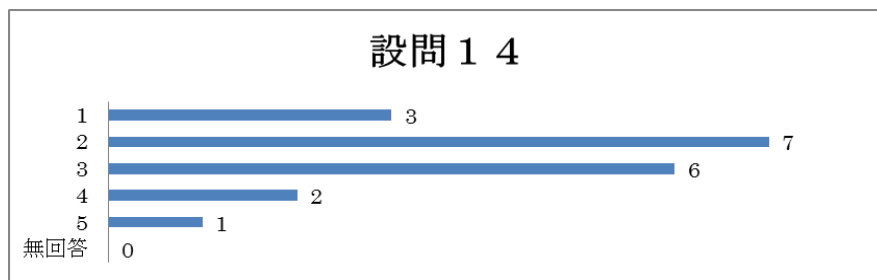
[13] ボランティア活動が好きか

- 1.好き 2.どちらかといえば好き 3.好きでも嫌いでもない
4.どちらかといえば嫌い 5.嫌い



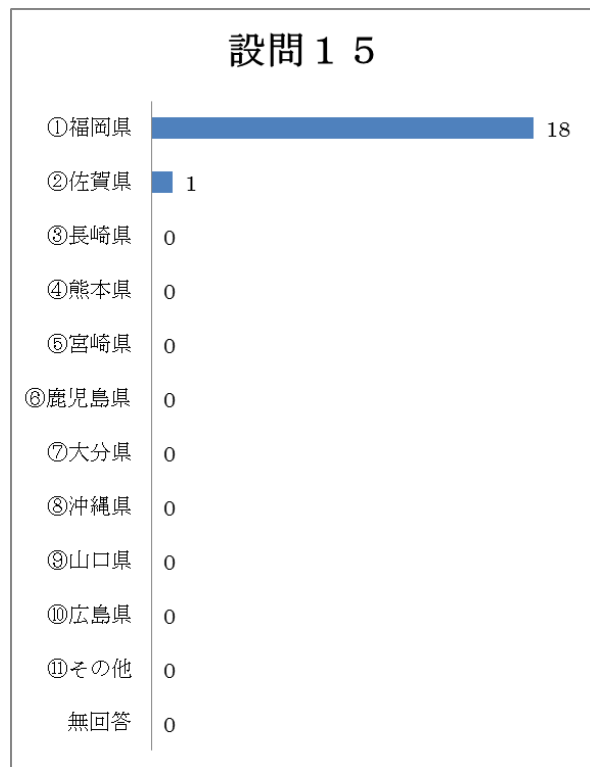
[14] ボランティア活動に意欲的に取り組んでいるか

- 1.意欲的 2.どちらかといえば意欲的 3.どちらでもない
4.どちらかといえば意欲的でない 5.意欲的でない

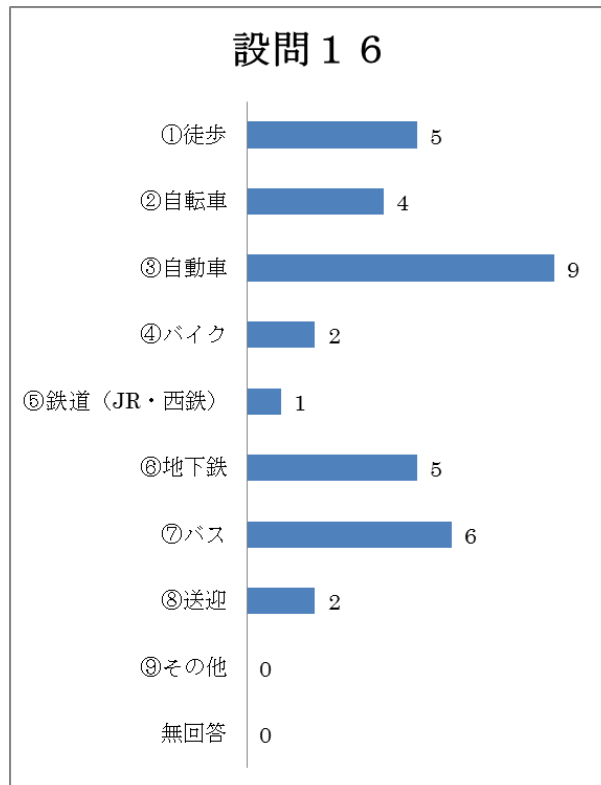


IV. 現在の学生生活について

[15] 出身地

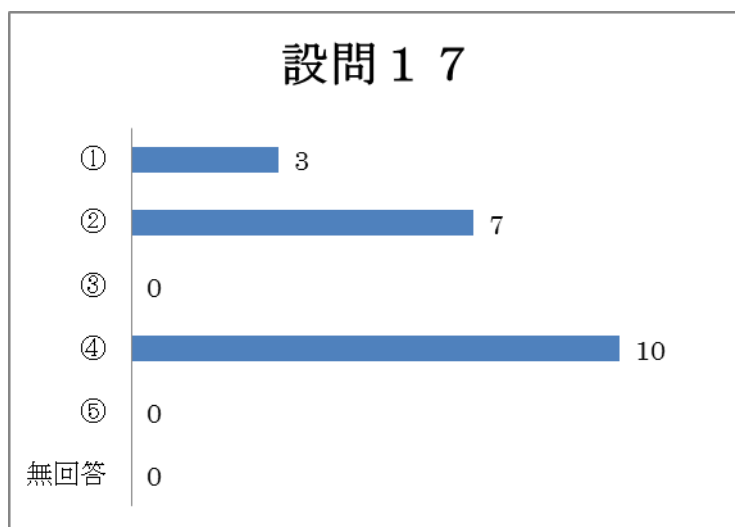


[16] 大学までの交通手段（当てはまるものすべてに○をつける）



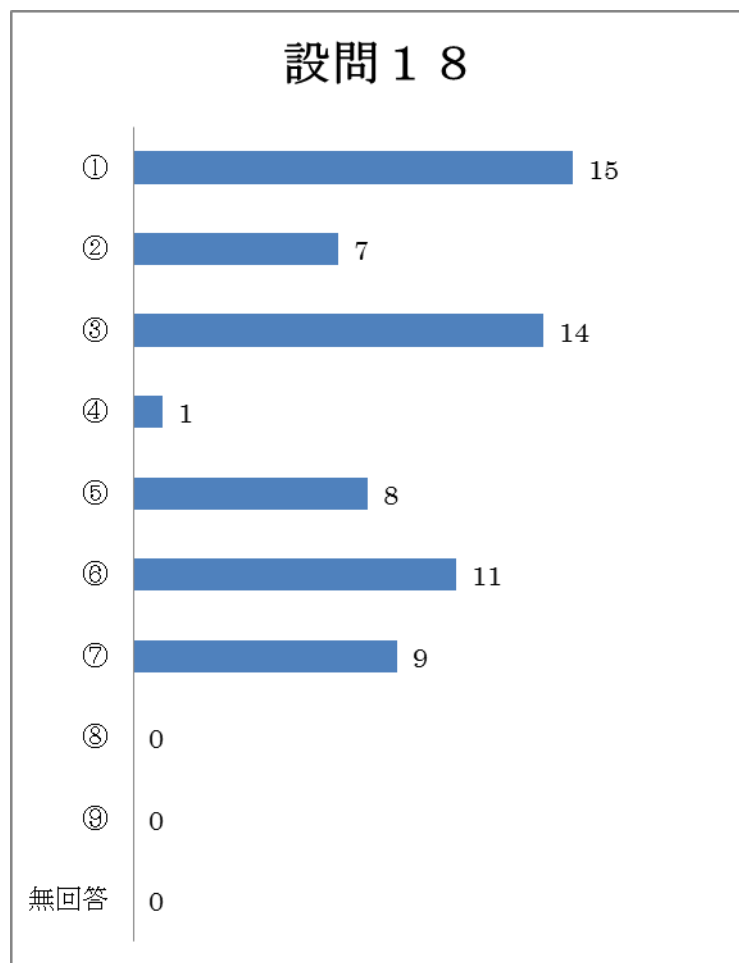
[17] 奨学金の利用

- ①日本学生支援機構の奨学金 ②日本介護福祉士修学資金
 ③以前受けていたが今は受けていない ④受けていない ⑤その他



[18] 大学生生活の目的 (当てはまるすべてのものに○をつける)

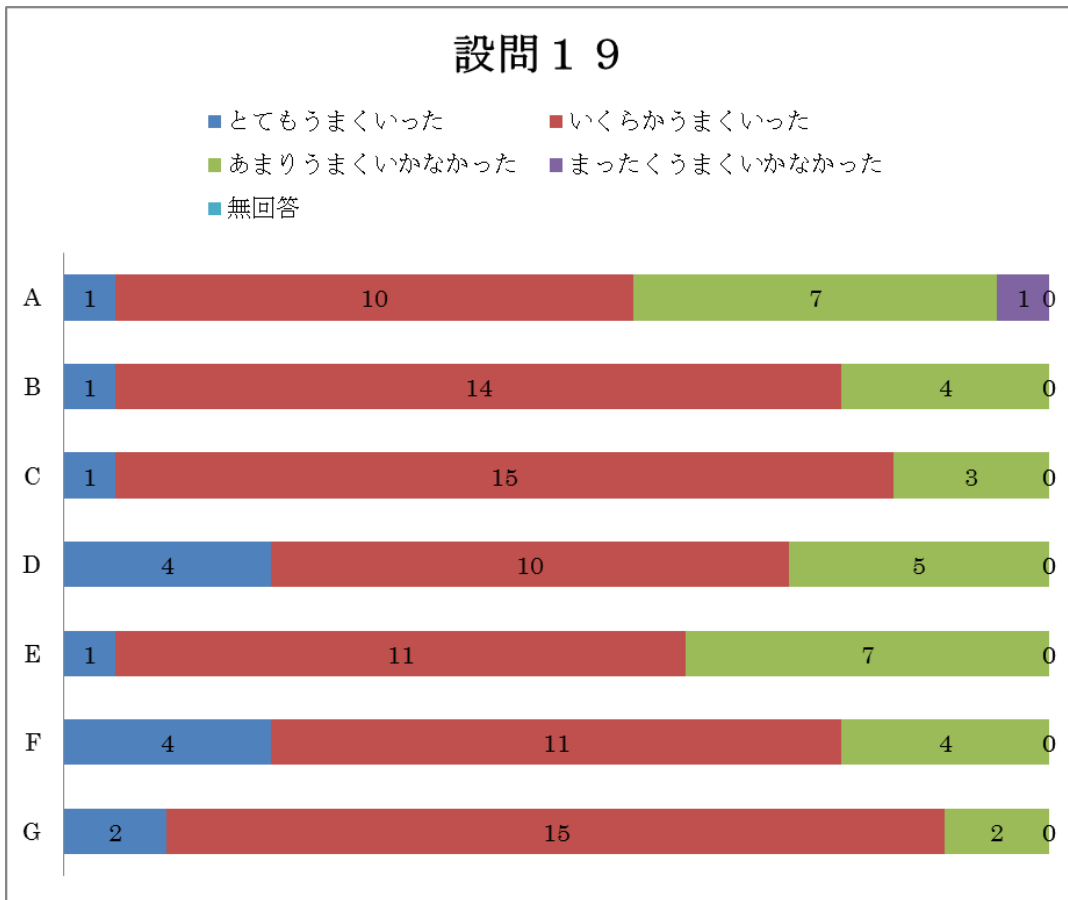
- ①専門的な研究や知識を身につける ②豊かな教養を身につける ③学歴や資格を得る
④クラブやサークルを楽しむ ⑤希望する職業に就く ⑥学生生活を楽しむ
⑦友達とのかかわりを楽しむ ⑧特に目的はない ⑨その他



V. 大学生活に対する考えや満足度について

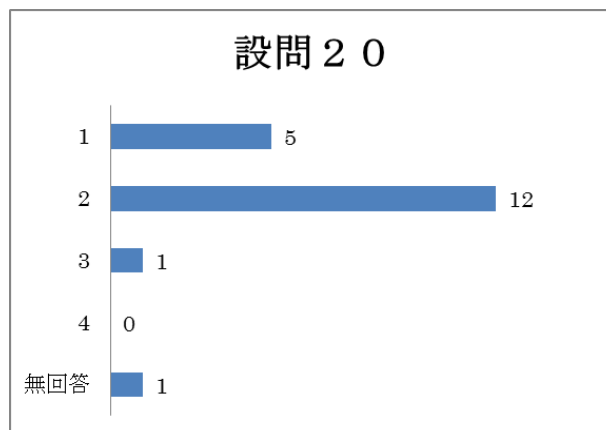
[19] 入学してからの大学生活への円滑な移行

- A. 大学の学生向けサービスを上手に利用する
- B. 大学教員の学問的な期待を理解する
- C. 効果的に学習する技能を修得する
- D. 大学が求める水準に応じて学習する
- E. 時間を効果的に使う
- F. 大学教員と顔見知りになる
- G. 他の学生との友情を深める



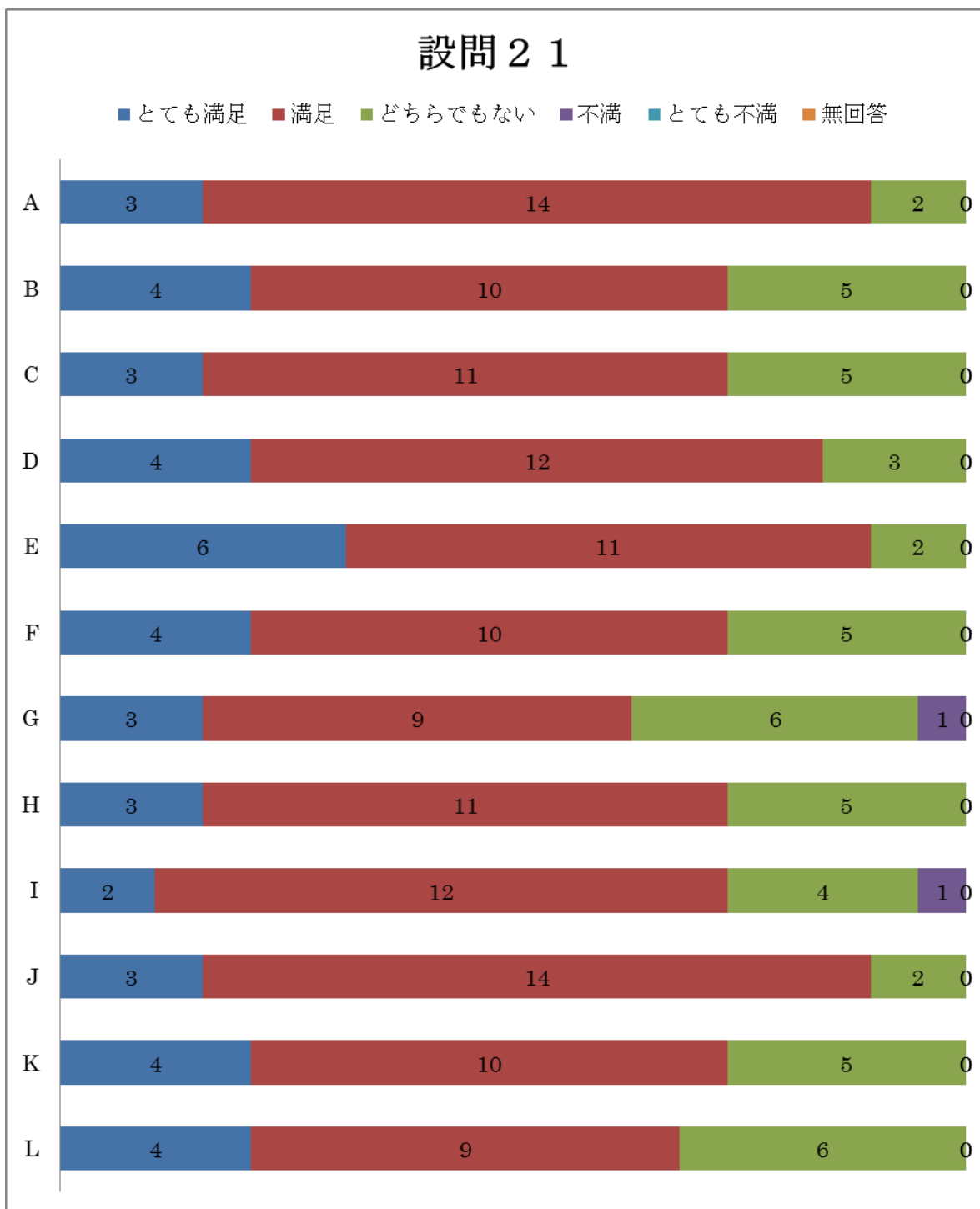
[20] 学生生活の充実

- 1. 充実している
- 2. まあまあ充実している
- 3. あまり充実していない
- 4. 充実していない



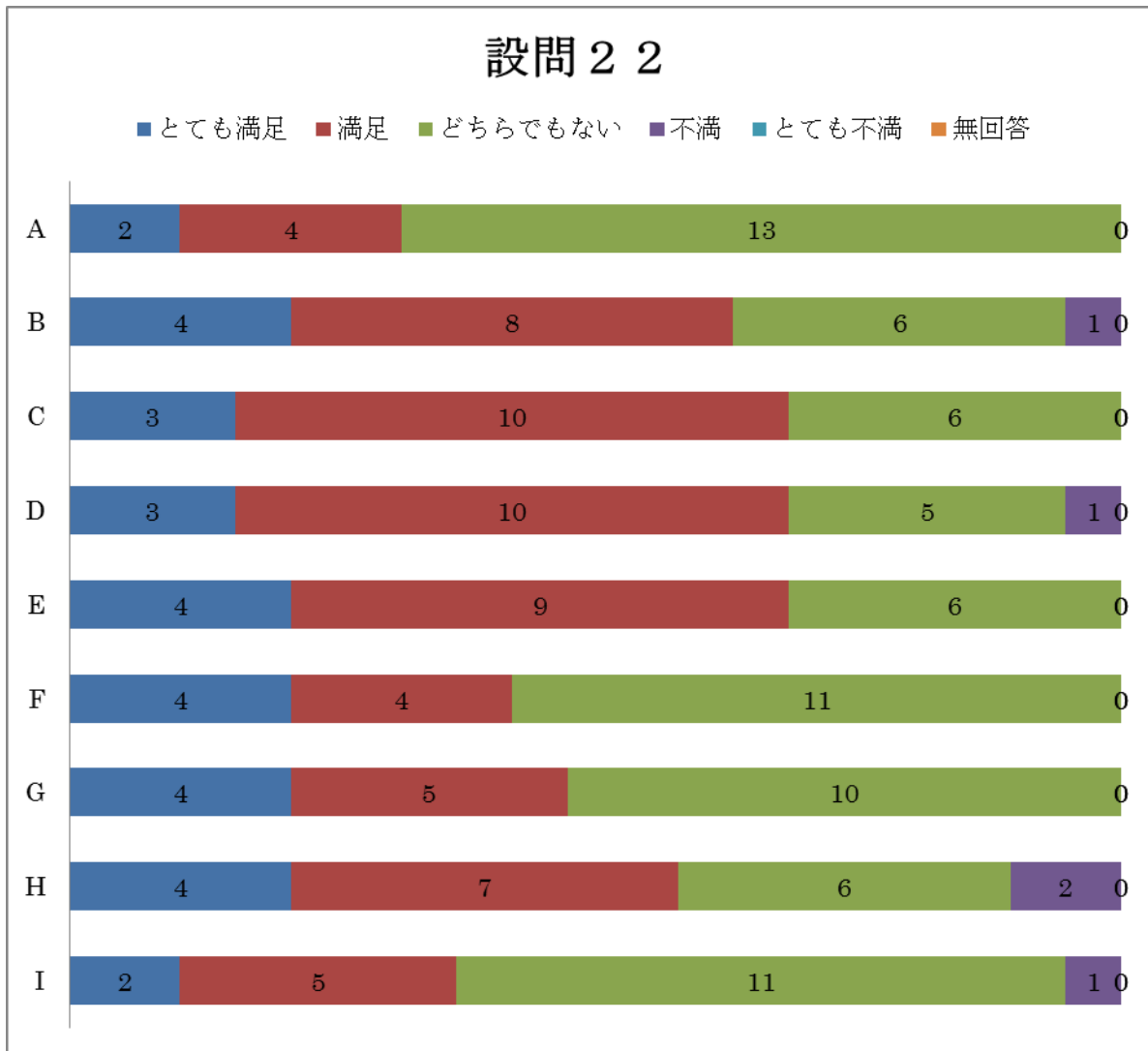
[21] 教育内容の満足度

- A. 専門教育あるいは所属学科の授業
- B. 所属学科の学内実習や学外実習
(臨床・臨地実習・介護実習等)
- C. 授業の全体的な質
- D. 日常生活と授業内容との関連
- E. 将来の仕事と授業内容との結びつき
- F. 教員と話す機会
- G. 個別の学習指導や学習支援 (履修相談など)
- H. 他の学生と話す機会
- I. 大学のなかでの学生同士の一体感
- J. 多様な考え方を認め合う雰囲気
- K. 大学での経験全般について
- L. 1つの授業を履修する学生数



[22] 設備や学生支援制度の満足度

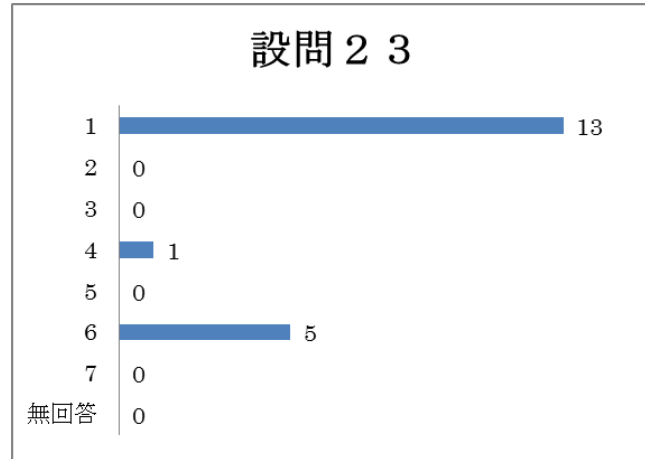
- A. 図書館の設備(蔵書やレファレンスサービス：図書館員による情報提供・資料検索他)
- B. 実習室の設備や器具
- C. コンピュータの施設や設備
- D. コンピュータの訓練や援助
- E. インターネットの使いやすさ
- F. 奨学金など学費援助の制度
- G. 健康・保健サービス（心身の健康に関わる問題についての診療や相談：歯科を含む）
- H. レクリエーション施設（体育館の設備など）
- I. キャリアカウンセリング(就職や進学に関する相談)



VI. 卒業後の進路について

[23] 卒業後の進路予定

1. 就職する
2. 専攻科に就職する
3. 留学する
4. 他大学に（編）入学する
5. 専門学校に入学する
6. まだわからない
7. その他（具体的に）

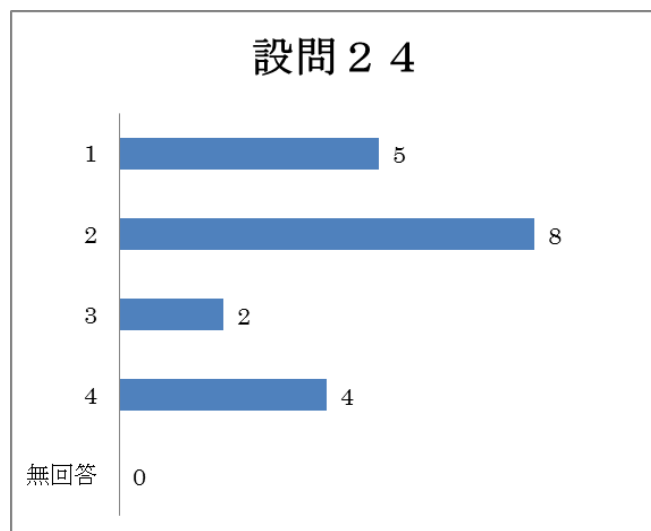


[24] 将来の見通しと現在の状態

以下の2つの文章を読んで、あなたのいまの状態にもっとも近い番号を選んでください。

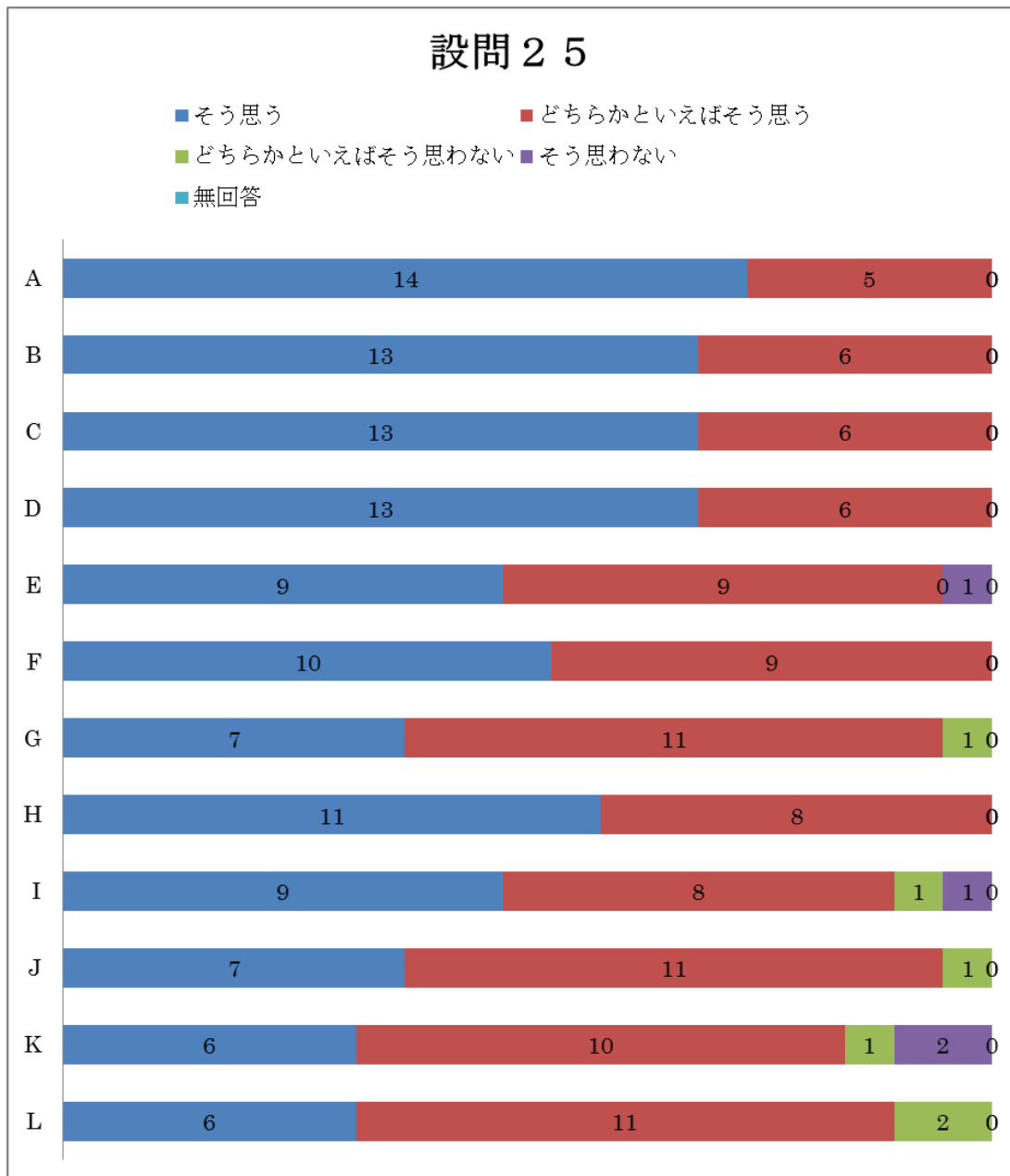
- ・あなたは、将来の見通し（将来こういう風でありたい）を持っていますか。
- ・その見通しのなかでもっとも重要なものを1つ思い浮かべてください。
あなたは、その見通しの実現に向かって、自分が何をすべきなのかわかっていますか。
また、それを実行していますか。

1. 将来の見通しを持っている + 何をすべきかをわかっているし、実行もしている
2. 将来の見通しを持っている + 何をすべきかをわかっているが、実行は出来ていない
3. 将来の見通しを持っている + 何をすべきかをわからない
4. 将来の見通しを持っていない



[25] 卒業後の進路のために、大学在学中に経験したいこと

- A. 専門分野の知識・技術をしっかり身につけ、国家試験に合格出来る教育を受ける
- B. 専門分野だけでなく、幅広い知識を身につけ視野を広げる
- C. 職業意識の形成につながる教育を受ける
- D. 学外実習施設での体験実習等を踏まえた上で、専門知識を学ぶ
- E. 教員が設定した特定の課題に対して、チームで取り組むプロジェクト型の授業を受ける
- F. 自分で課題を見つけ、自分で解決していくような訓練を受ける
- G. ディベート（討論）やプレゼンテーションの訓練を受ける
- H. 実践的で専門性のある資格を取得するためのプログラムを受ける
- I. レポートや論文指導により、文書作成能力を高める
- J. 卒業後の進路について、教職員に対して個別に相談する
- K. 卒業後の進路について、本学の卒業生や先輩と話をする
- L. 本学の教職員以外の人と話をする



以上

福岡医療短期大学 学生 IR 調査 2017 年

[保健福祉学科 2 年次生 12/12 名]



学生のみなさんへ

日ごろの大学での勉強、お疲れ様です。

本調査は、日ごろの大学生活を思い出して、学生のみなさんに大学生活を自己申告してもらい、大学における教育の成果を調査（測定）することを目的として実施します。大学教育の中で、在学中のみなさんから大学生活や教学などに関する情報を収集・分析することは、IR（インスティテューショナル・リサーチ, institutional research）と呼ばれ、学生の視点を重視し、学生に確実に教育成果を身につけてもらうための大切な活動の一つです。調査結果から得られた教育内容の特徴を分析することで、教育の質を客観的に保証するとともに、さらなる教育改善の方策を見出します。

回答してもらった内容は、すべて統計的に処理しますので、みなさんの回答が他の人に知られることはありません。回答は、特にことわりや指示のない限り、もっともよくあてはまるものを1つだけ選んでください。また、回答できない箇所は空白にさせていただいて結構です。

2017 年 10 月 04 日実施

[取組の趣旨]

- 本アンケート調査は、文部科学省選定事業『大学教育再生加速プログラム』の趣旨に基づき、2 年～3 年という短い修業年限の中で実施している専門教育の学修成果の可視化を目的に実施した。
- 専門教育に関する学修成果の可視化を推進する目的で、相互実習・学外実習等を含む本学独自のアンケート調査の設問項目を作成し、単なる「学生満足度」を測定する調査ではなく、本学の教育の質保証に資する汎用的な大学教学調査をめざした。
- その取組の中で、さらに学修成果の可視化の質向上をめざすため、「全般的な学習状況」、「授業時間外の学習状況」、「教育の質保証」の3つの教育観点に関する設問について、先進的な取組である『大学 IR コンソーシアム』の学生調査（「一年生調査 2013 年」）の取組を参考にして検討し選定した。

I. 学生の属性など

[1] 学籍番号（学生 ID） 7桁の番号で記入してください。

学生 ID 回答者：11名 非回答者：01名

*今回の調査では、学籍番号をもとに、みなさんの学習状況と取得単位数等の相互関係を分析します。また、**学年毎**に同様の調査を実施し、大学1年次のときに感じられたことがどのように変化したのかを探り、大学における教育成果を測定することを計画しています。そのために、学籍番号のご記入を任意でお願いしています。分析作業は個人情報に配慮して進めますので、個人を特定できる情報が他の人に知られることはありませんが、記入したくない人は空白にしておいてください。

[2] 所属する学科

1. 歯科衛生学科：00名
2. 保健福祉学科：12名

[3] 性別

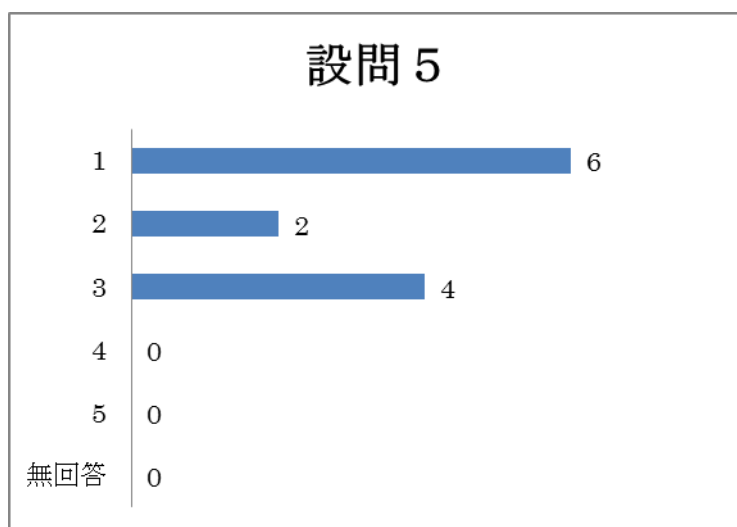
1. 男性：03名
2. 女性：09名

[4] 2017年4月1日の時点の年齢

19歳：08名 22歳：01名 27歳：01名 39歳：01名 58歳：01名

[5] 通学にかかる時間（片道）

1. 30分未満
2. 30分以上～1時間未満
3. 1時間以上～1時間30分未満
4. 1時間30分以上～2時間未満
5. 2時間以上

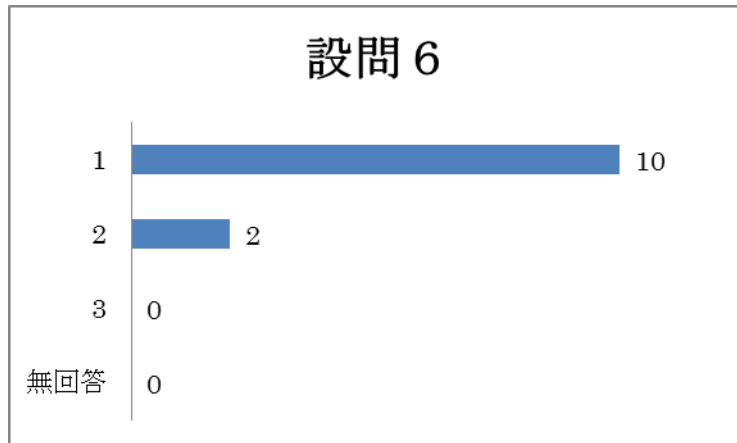


[6] 現在の住まい

1.家族または親戚と暮らしている

2.アパート・学生マンションでひとり暮らし

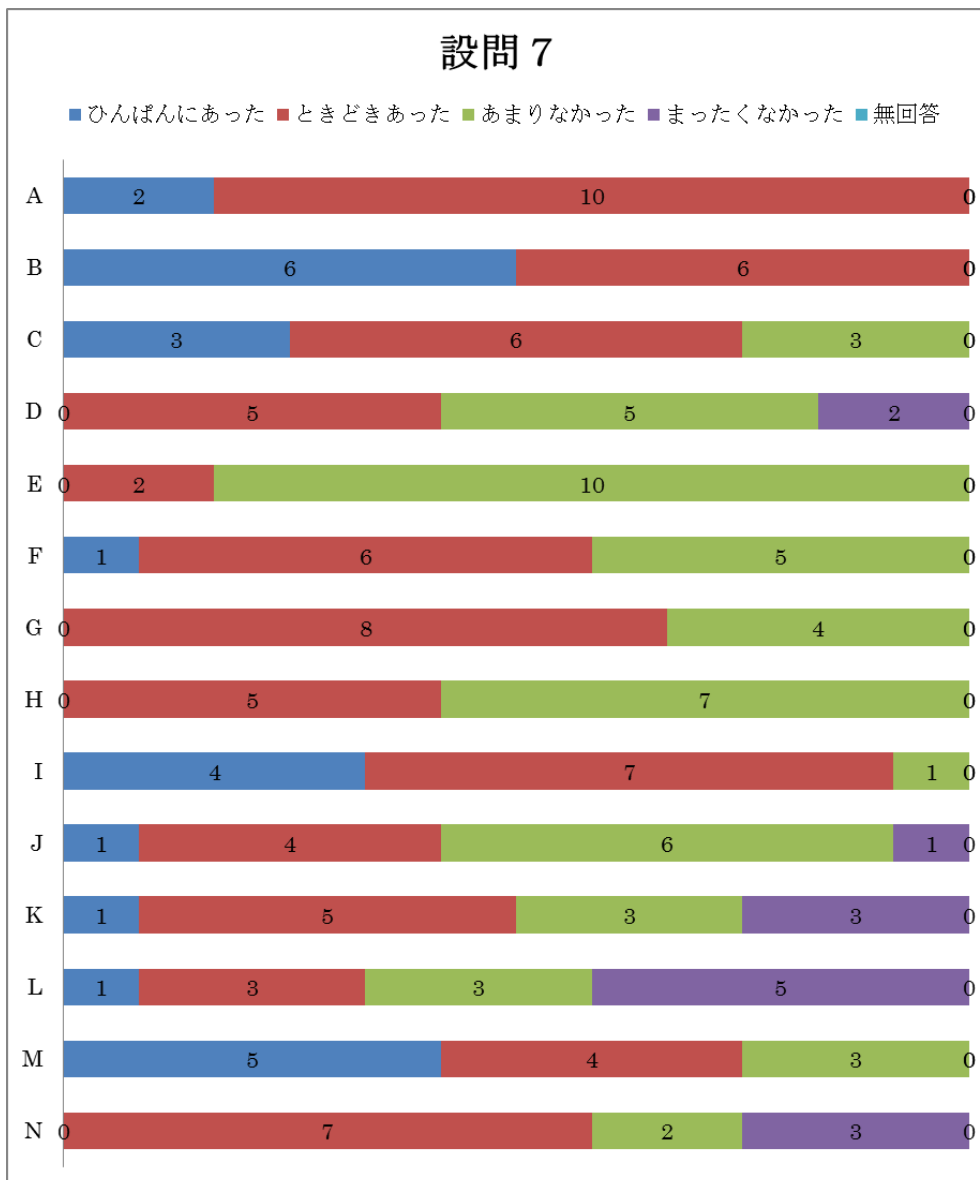
3.大学寮や合宿所



Ⅱ. 大学に入学してからの学習状況について

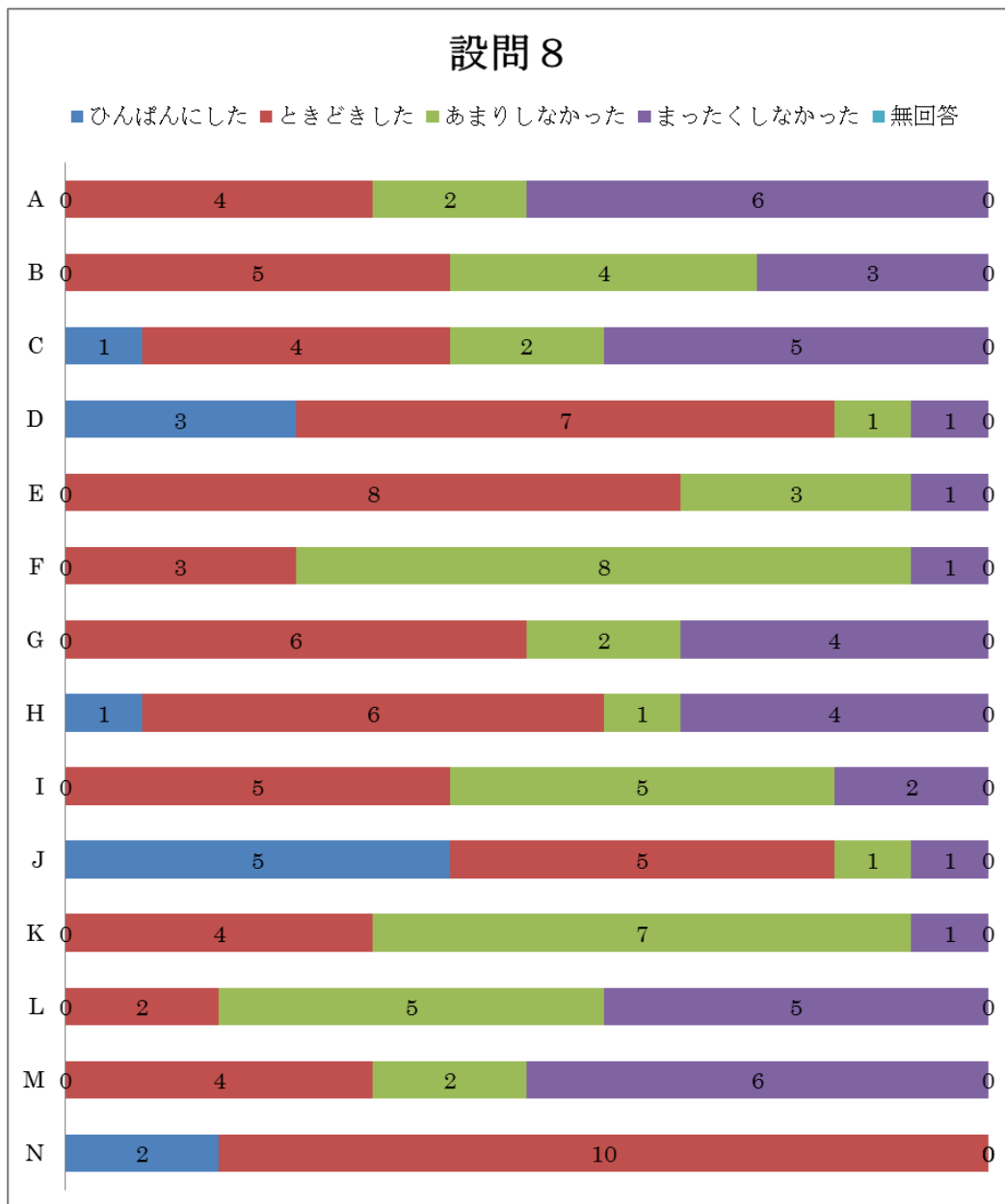
[7] 大学の授業の内容や特徴

- A. 所属学科の学内実習、学外実習などを実施し、学生が体験的に学ぶ
- B. 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ
- C. 授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する
- D. 授業の一環でボランティア活動をする
- E. 学生自身が文献や資料を調べる
- F. 定期的に小テストやレポートが課される
- G. 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する
- H. 学生が自分の考えや研究を発表する
- I. 授業中に学生同士が論議をする
- J. 授業で検討するテーマを学生が設定する
- K. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる
- L. 取りたい授業を履修登録できなかった
- M. 出席することが重視される
- N. TA・SA（上級生や専攻科生）から補助・指導を受ける



[8] 大学の授業や授業以外の学習状況

- A. 授業課題のために図書館の資料を利用した
- B. 授業課題のために Web 上の情報を利用した
- C. インターネットやイントラネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした
- D. 提出期限までに授業課題を完成した
- E. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容について話したりした
- F. 授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた
- G. 授業を欠席した
- H. 授業に遅刻した
- I. 授業をつまらなく感じた
- J. 授業中に居眠りをした
- K. 教職員に学習に関する相談をしたり、学内の学習支援室を利用したりした(オフィサーも含める)
- L. 単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した
- M. 大学の教職員に将来のキャリアの相談をした (卒業後の進路や職業選択など)
- N. 教員に親近感を感じた

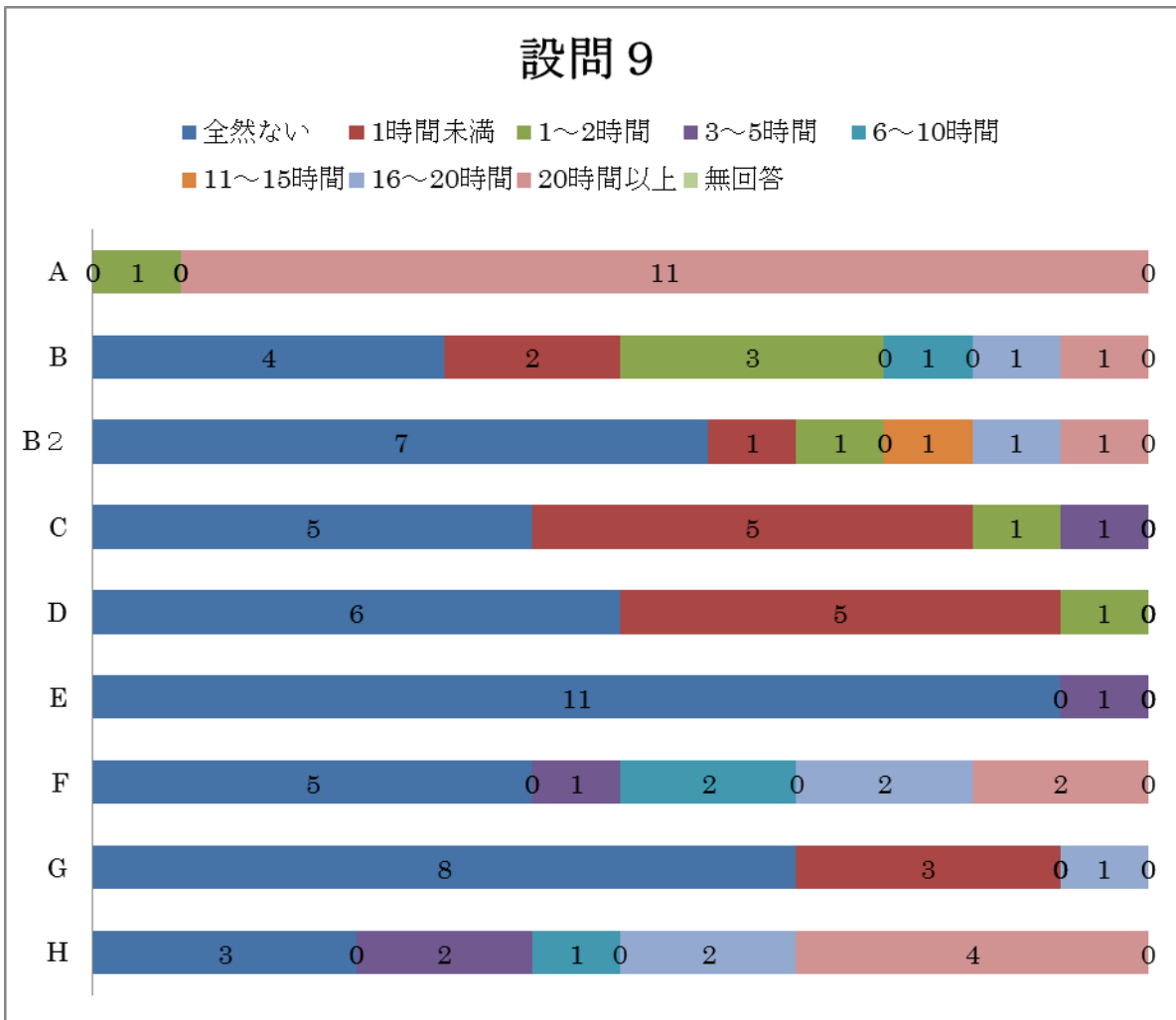


[9] 入学以来、活動に費やしている **1週間あたり**の時間数

- A. 講義や実習に出席する [参考] 90分×4コマ×5日間=30時間
- B. 授業時間以外に授業課題や準備学習、復習をする [参考] 1日2時間×7日=14時間
- B2. アクティブ・ラーニング科目（学内の演習や学外での実習など）に関する授業外学修時間
- C. 授業時間以外に、授業に関連しない勉強をする
- D. オフィスアワーなど、授業時間以外に教員と面談する
- E. 部活動や同好会に参加する
- F. 大学外でアルバイトや仕事をする
- G. 読書をする（マンガ・雑誌を除く）
- H. 個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）

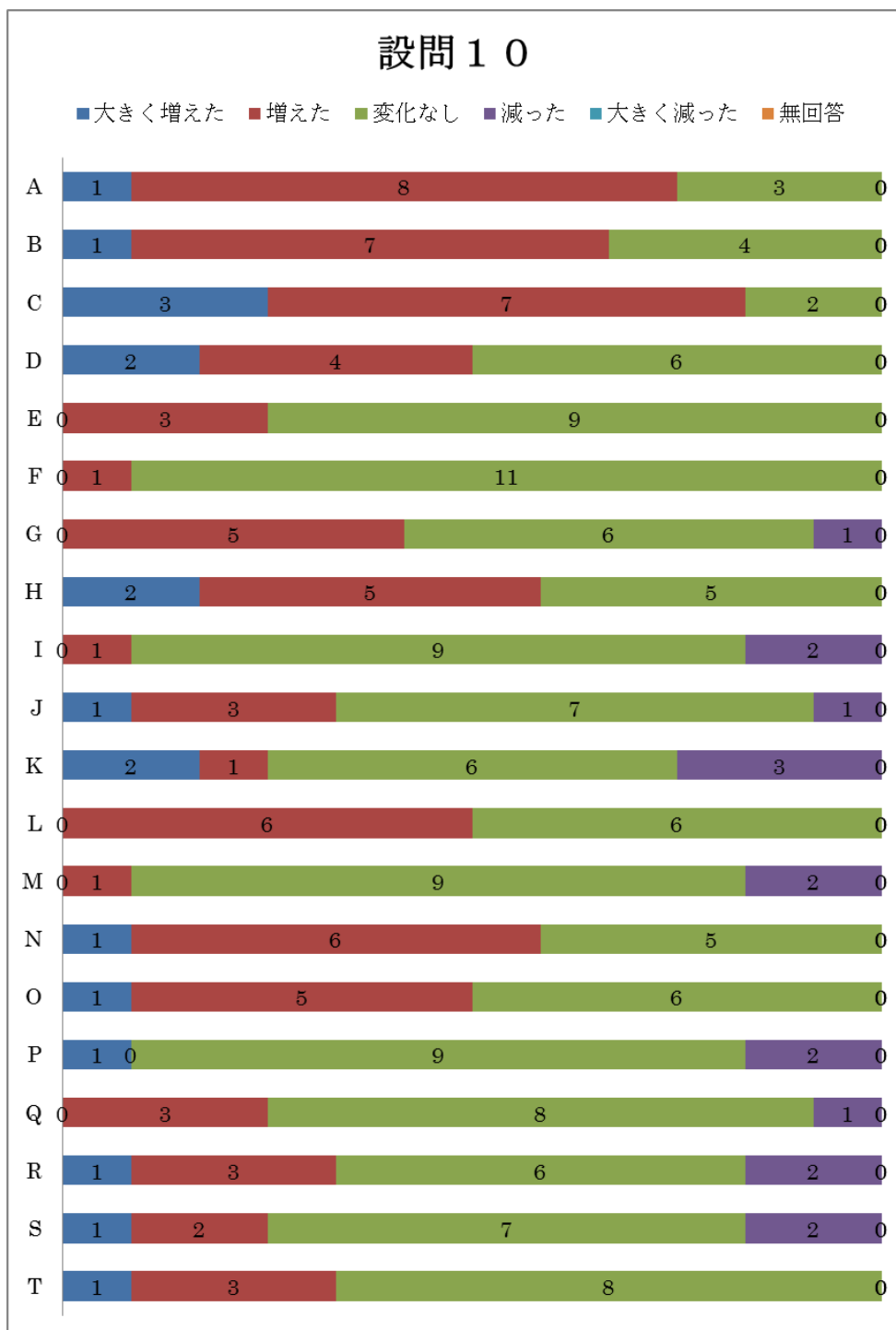
※時間の目安

- 1日30分×7日=3.5時間 1日60分×7日=7時間
- 1日1.5時間×7日=10.5時間 1日2時間×7日=14時間

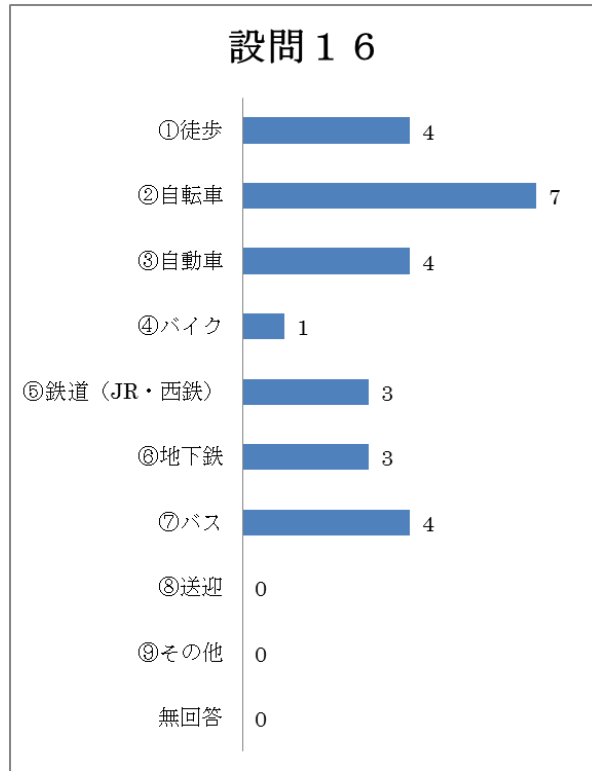


[10] 入学時点と比べた能力や知識の変化

- A. 一般的な教養
- B. 分析力や問題解決能力
- C. 専門分野や学科の知識
- D. 批判的に考える能力
- E. 異文化の人々に関する知識
- F. リーダーシップの能力
- G. 人間関係を構築する能力
- H. 他の人と協力して物事を遂行する能力
- I. 異文化の人々と協力する能力
- J. 地域社会が直面する問題を理解する能力
- K. 国民が直面する問題を理解する能力
- L. 文章表現の能力
- M. 外国語の運用能力
- N. コミュニケーションの能力
- O. プレゼンテーションの能力
- P. 数理的な能力
- Q. コンピュータの操作能力
- R. 時間を効果的に利用する能力
- S. グローバルな問題の理解
- T. 就職に向けての知識・技術力

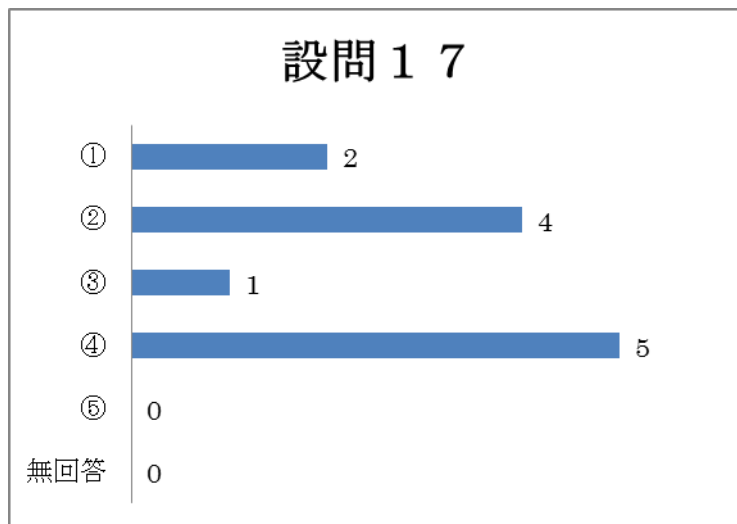


[16] 大学までの交通手段（当てはまるものすべてに○をつける）



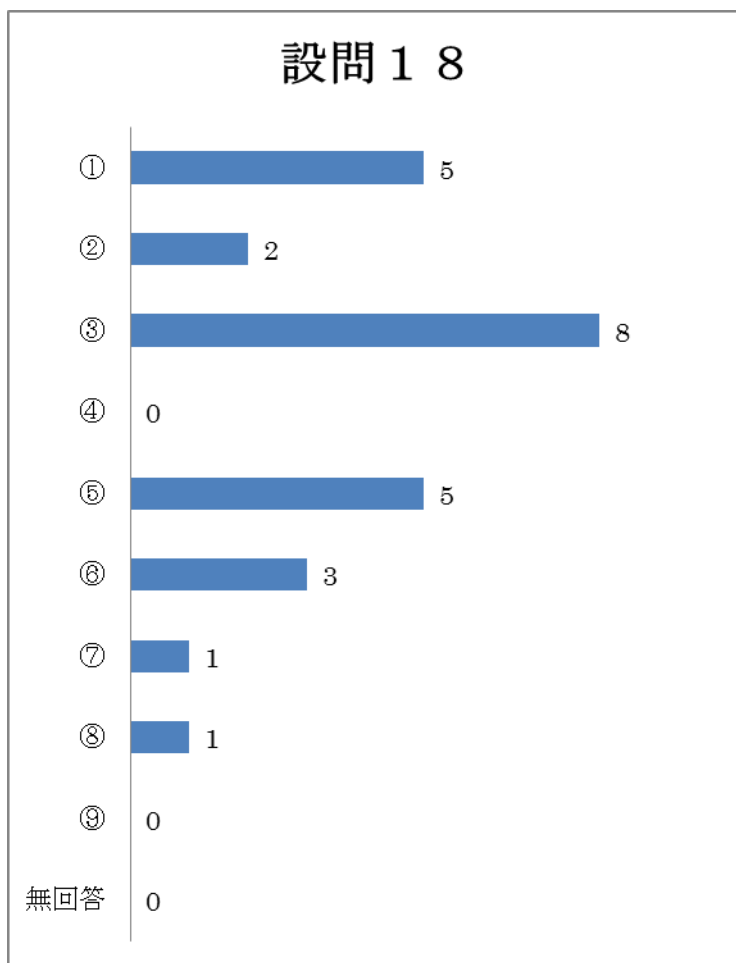
[17] 奨学金の利用

- ①日本学生支援機構の奨学金 ②日本介護福祉士修学資金
 ③以前受けていたが今は受けていない ④受けていない ⑤その他



[18] 大学生生活の目的 (当てはまるすべてのものに○をつける)

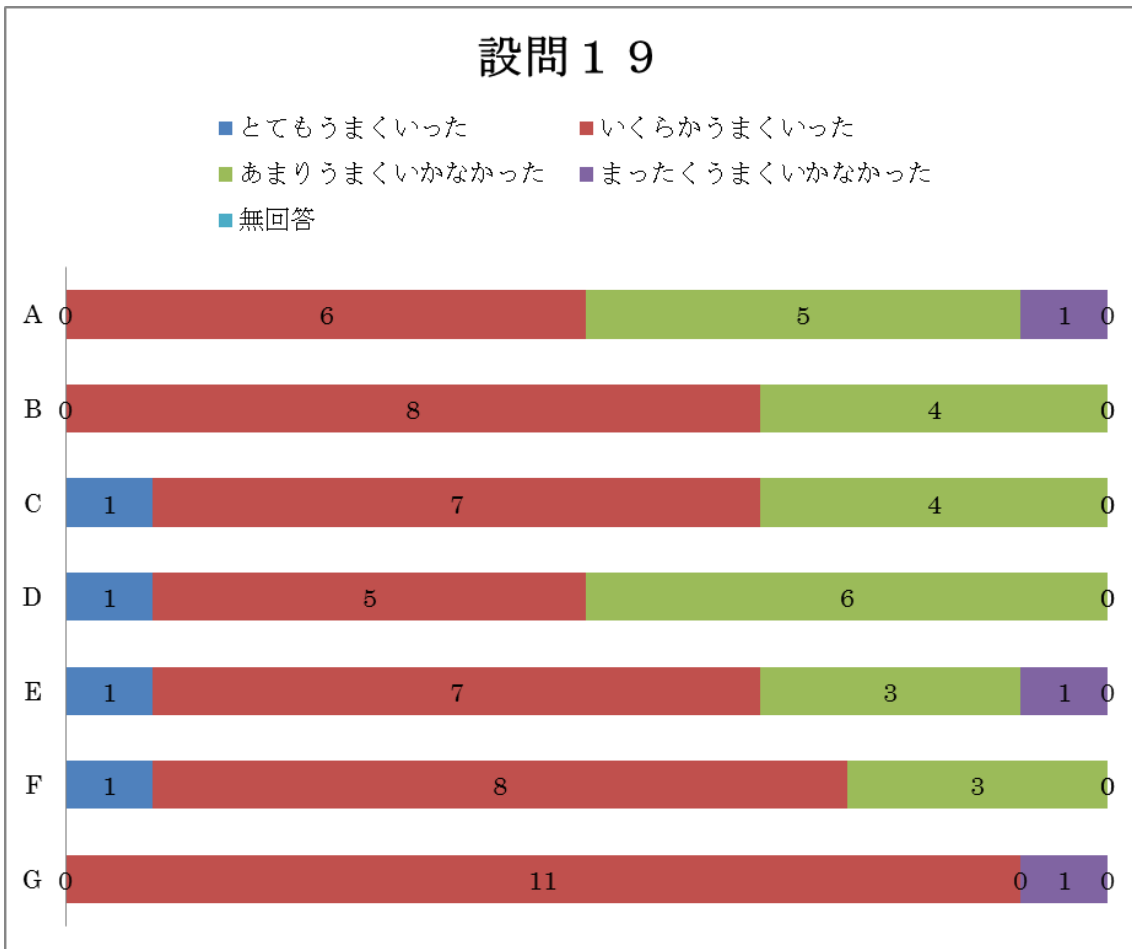
- ①専門的な研究や知識を身につける ②豊かな教養を身につける ③学歴や資格を得る
④クラブやサークルを楽しむ ⑤希望する職業に就く ⑥学生生活を楽しむ
⑦友達とのかかわりを楽しむ ⑧特に目的はない ⑨その他



V. 大学生活に対する考えや満足度について

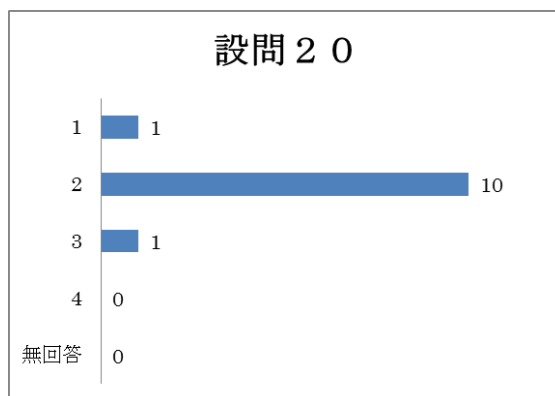
[19] 入学してからの大学生活への円滑な移行

- A. 大学の学生向けサービスを上手に利用する
- B. 大学教員の学問的な期待を理解する
- C. 効果的に学習する技能を修得する
- D. 大学が求める水準に応じて学習する
- E. 時間を効果的に使う
- F. 大学教員と顔見知りになる
- G. 他の学生との友情を深める



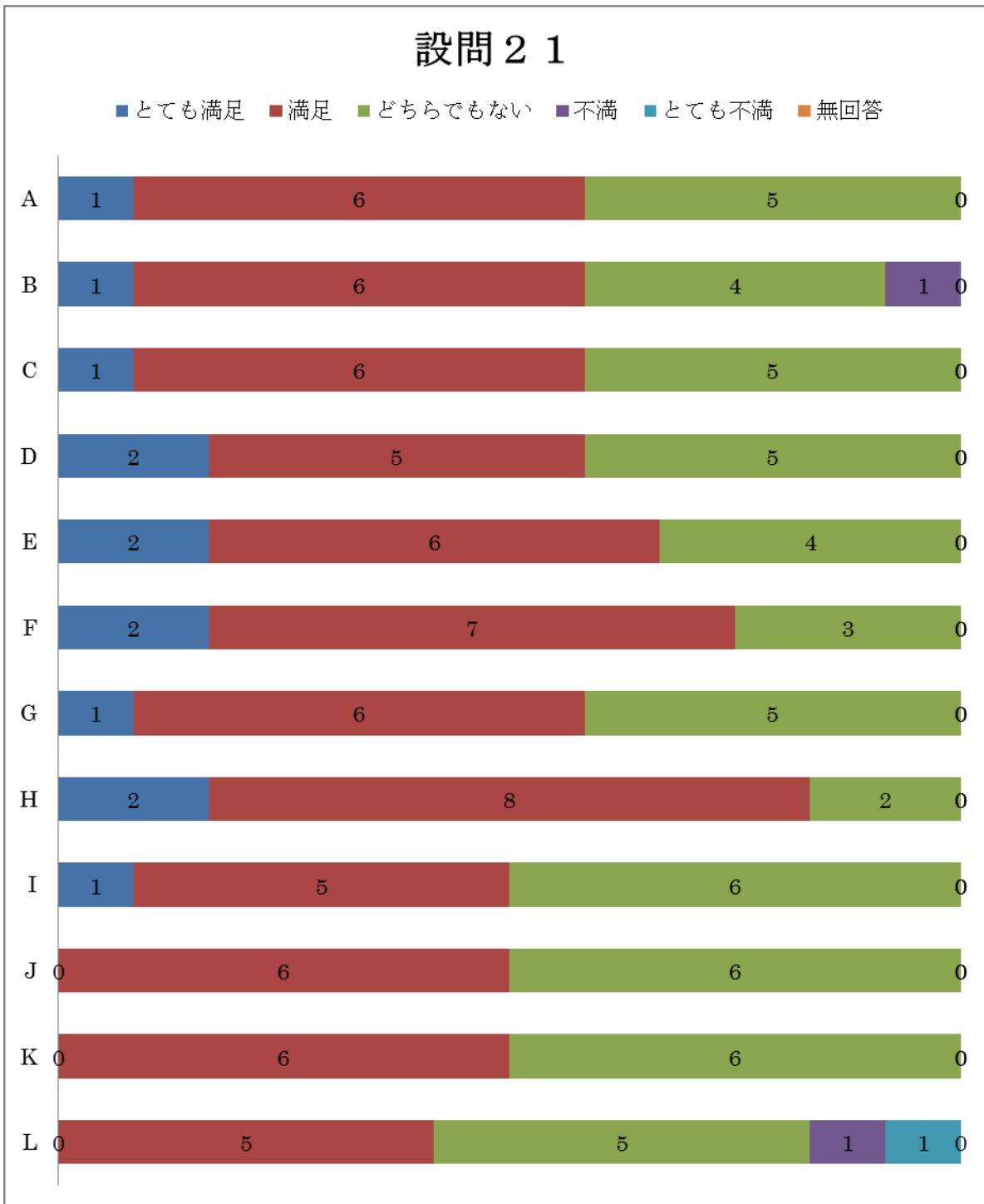
[20] 学生生活の充実

- 1. 充実している
- 2. まあまあ充実している
- 3. あまり充実していない
- 4. 充実していない



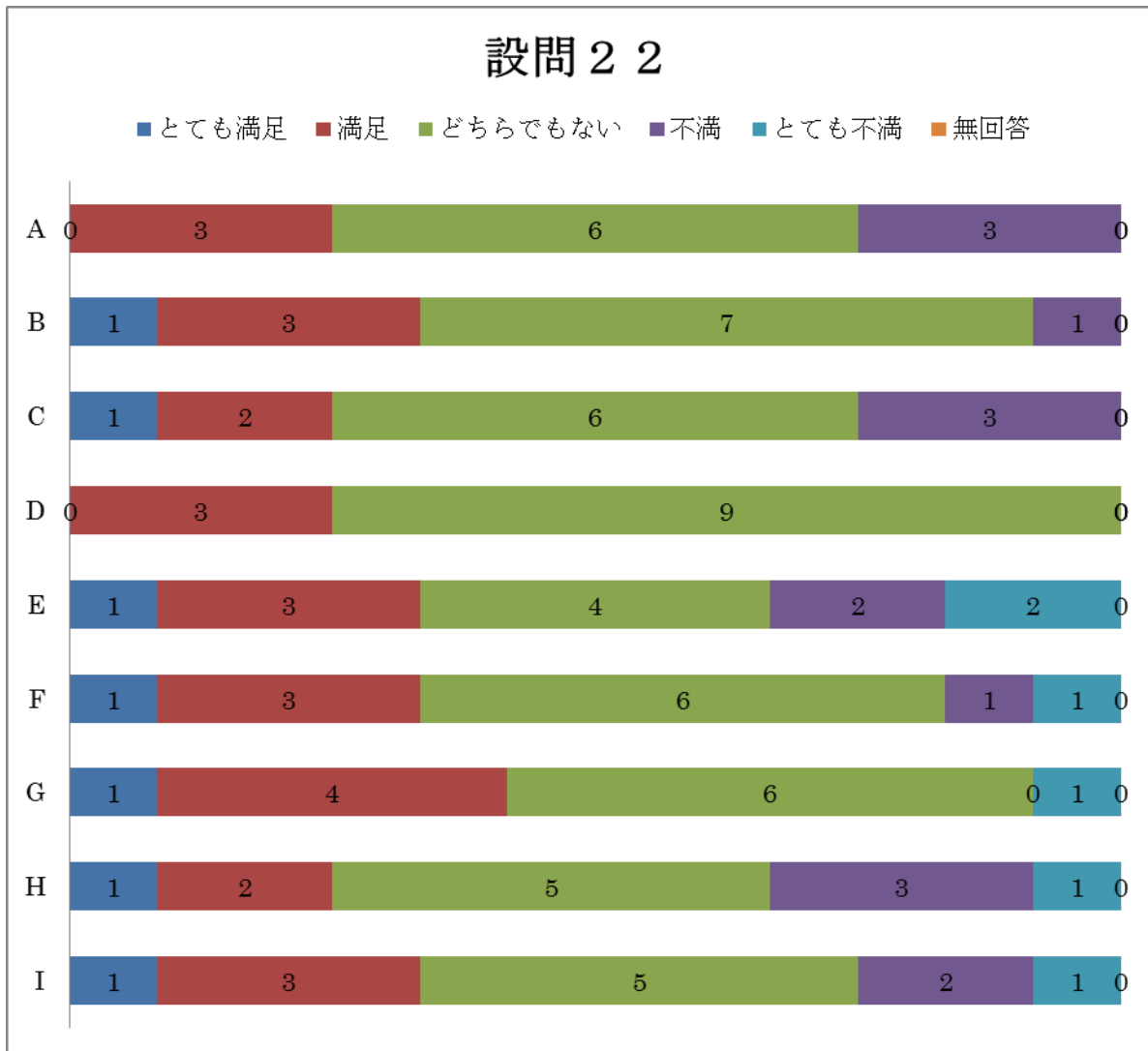
[21] 教育内容の満足度

- A. 専門教育あるいは所属学科の授業
- B. 所属学科の学内実習や学外実習
(臨床・臨地実習・介護実習等)
- C. 授業の全体的な質
- D. 日常生活と授業内容との関連
- E. 将来の仕事と授業内容との結びつき
- F. 教員と話す機会
- G. 個別の学習指導や学習支援 (履修相談など)
- H. 他の学生と話す機会
- I. 大学のなかでの学生同士の一体感
- J. 多様な考え方を認め合う雰囲気
- K. 大学での経験全般について
- L. 1つの授業を履修する学生数



[22] 設備や学生支援制度の満足度

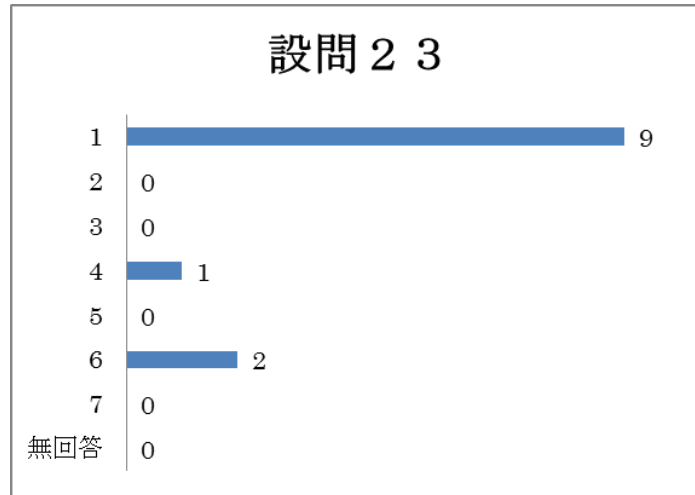
- A. 図書館の設備(蔵書やレファレンスサービス：図書館員による情報提供・資料検索他)
- B. 実習室の設備や器具
- C. コンピュータの施設や設備
- D. コンピュータの訓練や援助
- E. インターネットの使いやすさ
- F. 奨学金など学費援助の制度
- G. 健康・保健サービス（心身の健康に関わる問題についての診療や相談：歯科を含む）
- H. レクリエーション施設（体育館の設備など）
- I. キャリアカウンセリング(就職や進学に関する相談)



VI. 卒業後の進路について

[23] 卒業後の進路予定

1. 就職する
2. 専攻科に就職する
3. 留学する
4. 他大学に（編）入学する
5. 専門学校に入学する
6. まだわからない
7. その他（具体的に）

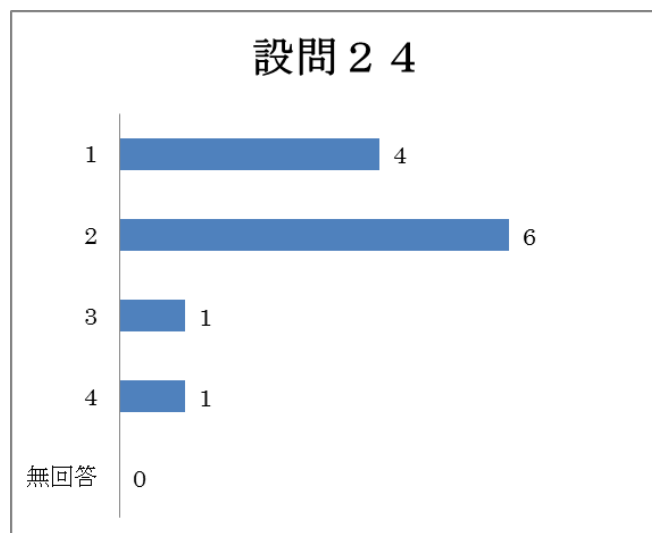


[24] 将来の見通しと現在の状態

以下の2つの文章を読んで、あなたのいまの状態にもっとも近い番号を選んでください。

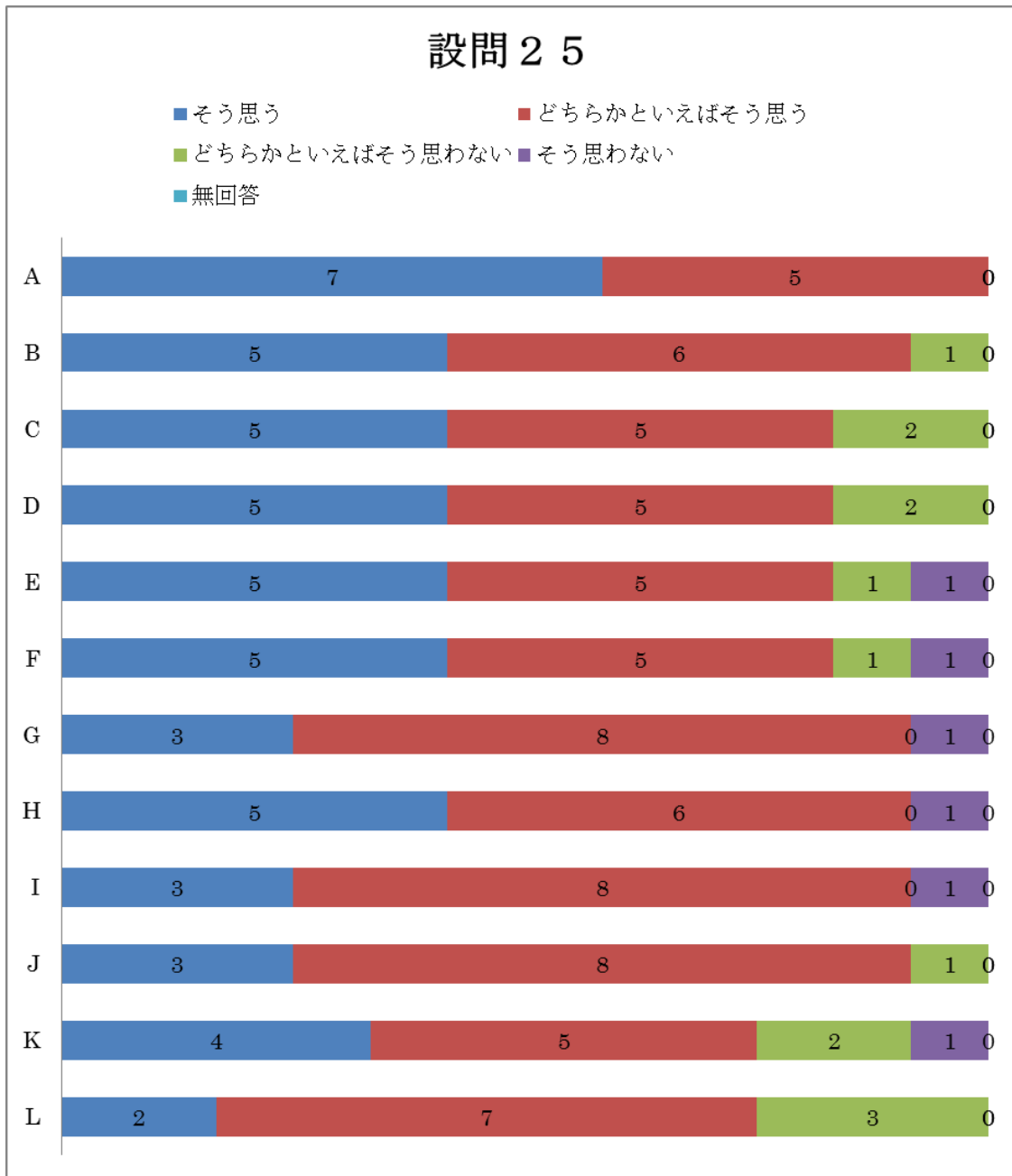
- ・あなたは、将来の見通し（将来こういう風でありたい）を持っていますか。
- ・その見通しのなかでもっとも重要なものを1つ思い浮かべてください。
あなたは、その見通しの実現に向かって、自分が何をすべきなのかわかっていますか。
また、それを実行していますか。

1. 将来の見通しを持っている + 何をすべきかをわかっているし、実行もしている
2. 将来の見通しを持っている + 何をすべきかをわかっているが、実行は出来ていない
3. 将来の見通しを持っている + 何をすべきかをわからない
4. 将来の見通しを持っていない



[25] 卒業後の進路のために、大学在学中に経験したいこと

- A. 専門分野の知識・技術をしっかり身につけ、国家試験に合格出来る教育を受ける
- B. 専門分野だけでなく、幅広い知識を身につけ視野を広げる
- C. 職業意識の形成につながる教育を受ける
- D. 学外実習施設での体験実習等を踏まえた上で、専門知識を学ぶ
- E. 教員が設定した特定の課題に対して、チームで取り組むプロジェクト型の授業を受ける
- F. 自分で課題を見つけ、自分で解決していくような訓練を受ける
- G. ディベート（討論）やプレゼンテーションの訓練を受ける
- H. 実践的で専門性のある資格を取得するためのプログラムを受ける
- I. レポートや論文指導により、文書作成能力を高める
- J. 卒業後の進路について、教職員に対して個別に相談する
- K. 卒業後の進路について、本学の卒業生や先輩と話をする
- L. 本学の教職員以外の人と話をする



以上

福岡医療短期大学 学生 IR 調査 2017 年

[専攻科生 21/21 名]



学生のみなさんへ

日ごろの大学での勉強、お疲れ様です。

本調査は、日ごろの大学生活を思い出して、学生のみなさんに大学生活を自己申告してもらい、大学における教育の成果を調査（測定）することを目的として実施します。大学教育の中で、在学中のみなさんから大学生活や教学などに関する情報を収集・分析することは、IR（インスティテューショナル・リサーチ, institutional research）と呼ばれ、学生の視点を重視し、学生に確実に教育成果を身につけてもらうための大切な活動の一つです。調査結果から得られた教育内容の特徴を分析することで、教育の質を客観的に保証するとともに、さらなる教育改善の方策を見出します。

回答してもらった内容は、すべて統計的に処理しますので、みなさんの回答が他の人に知られることはありません。回答は、特にことわりや指示のない限り、もっともよくあてはまるものを1つだけ選んでください。また、回答できない箇所は空白にさせていただいて結構です。

2017年09月27日実施

[取組の趣旨]

- 本アンケート調査は、文部科学省選定事業『大学教育再生加速プログラム』の趣旨に基づき、2年～3年という短い修業年限の中で実施している専門教育の学修成果の可視化を目的に実施した。
- 専門教育に関する学修成果の可視化を推進する目的で、相互実習・学外実習等を含む本学独自のアンケート調査の設問項目を作成し、単なる「学生満足度」を測定する調査ではなく、本学の教育の質保証に資する汎用的な大学教学調査をめざした。
- その取組の中で、さらに学修成果の可視化の質向上をめざすため、「全般的な学習状況」、「授業時間外の学習状況」、「教育の質保証」の3つの教育観点に関する設問について、先進的な取組である『大学 IR コンソーシアム』の学生調査（「一年生調査 2013 年」）の取組を参考にして検討し選定した。

I. 学生の属性など

[1] 学籍番号（学生 ID） 7桁の番号 で記入してください。

学生 ID 回答者：21 名 非回答者：00 名

*今回の調査では、学籍番号をもとに、みなさんの学習状況と取得単位数等の相互関係を分析します。また、**学年毎**に同様の調査を実施し、大学1年次のときに感じられたことがどのように変化したのかを探り、大学における教育成果を測定することを計画しています。そのために、学籍番号のご記入を **任意**でお願いしています。分析作業は個人情報に配慮して進めますので、個人を特定できる情報が他の人に知られることはありませんが、記入したくない人は空白にしておいてください。

[2] 所属する学科

1. 歯科衛生学科：21 名
2. 保健福祉学科：00 名

[3] 性別

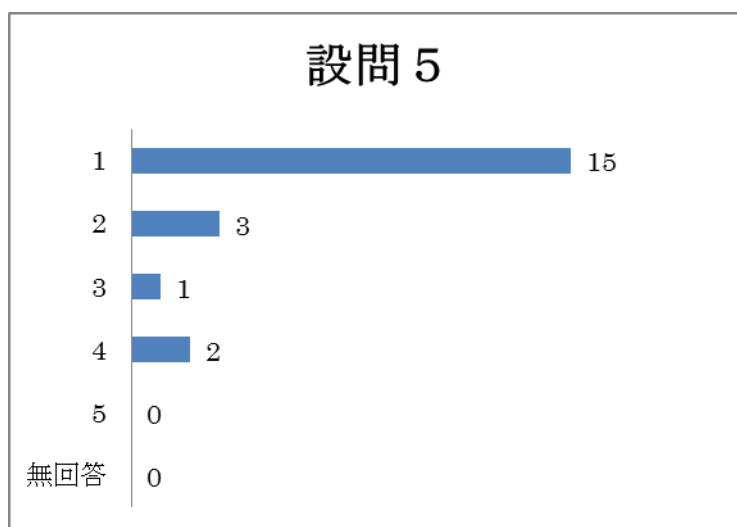
1. 男性：00 名
2. 女性：21 名

[4] 2016年4月1日の時点の年齢

21 歳：17 名 22 歳：01 名 24 歳：02 名 28 歳：01 名

[5] 通学にかかる時間（片道）

1. 30 分未満
2. 30 分以上～1 時間未満
3. 1 時間以上～1 時間 30 分未満
4. 1 時間 30 分以上～2 時間未満
5. 2 時間以上

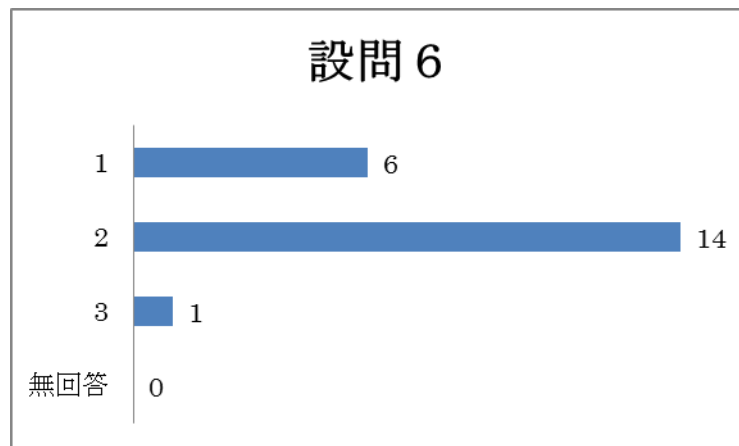


[6] 現在の住まい

1.家族または親戚と暮らしている

2.アパート・学生マンションでひとり暮らし

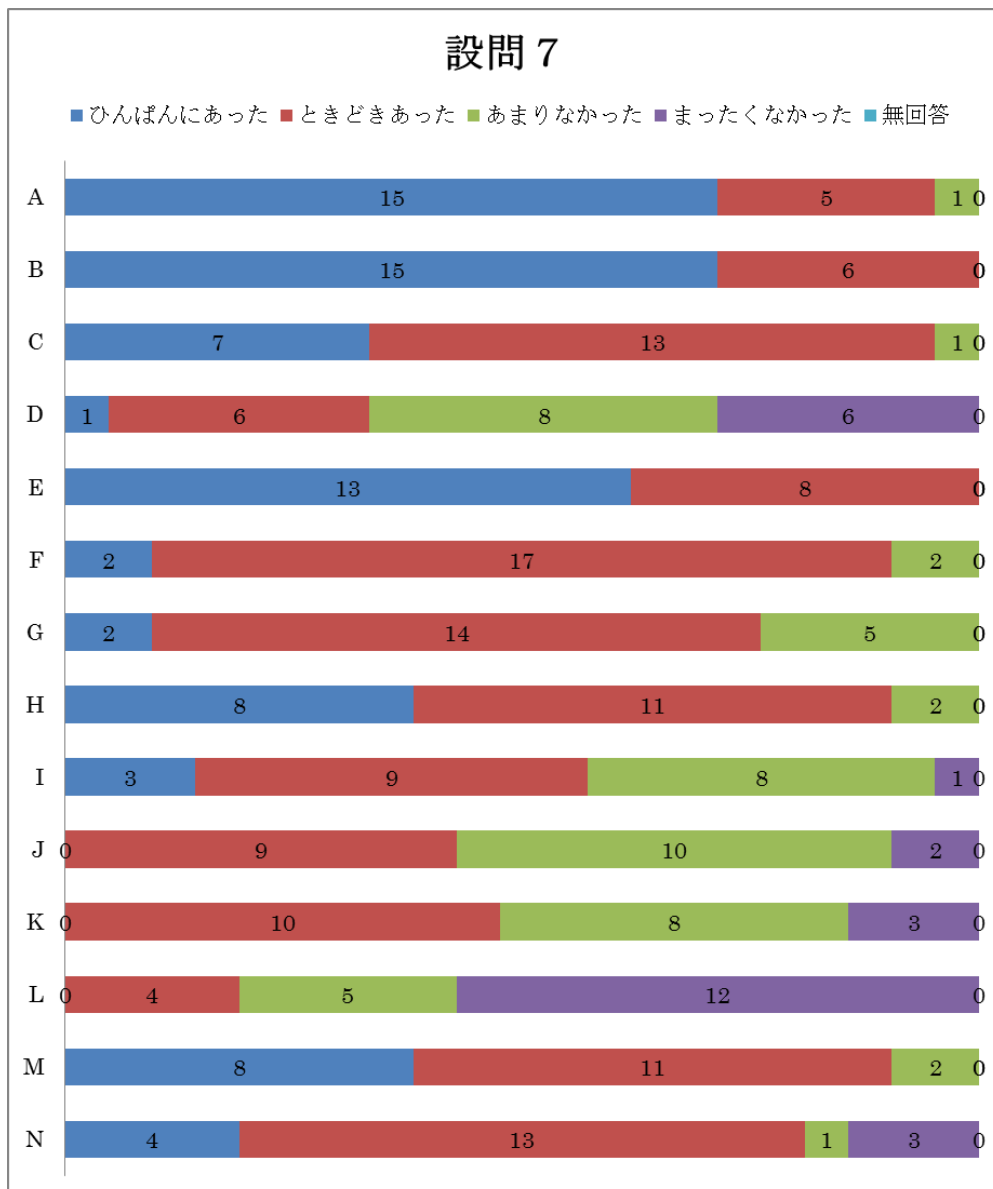
3.大学寮や合宿所



Ⅱ. 大学に入学してからの学習状況について

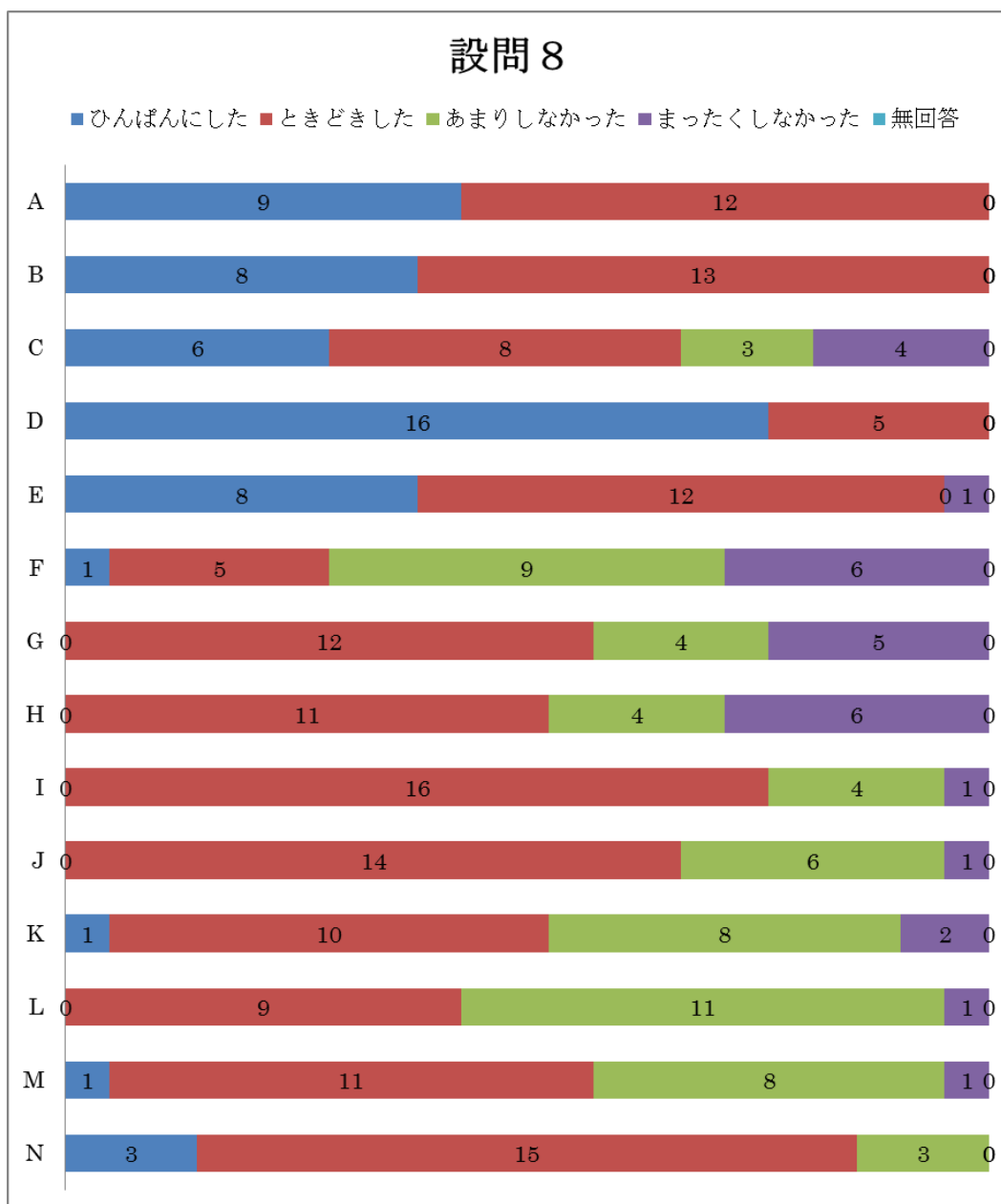
[7] 大学の授業の内容や特徴

- A. 所属学科の学内実習、学外実習などを実施し、学生が体験的に学ぶ
- B. 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ
- C. 授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する
- D. 授業の一環でボランティア活動をする
- E. 学生自身が文献や資料を調べる
- F. 定期的に小テストやレポートが課される
- G. 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する
- H. 学生が自分の考えや研究を発表する
- I. 授業中に学生同士が論議をする
- J. 授業で検討するテーマを学生が設定する
- K. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる
- L. 取りたい授業を履修登録できなかった
- M. 出席することが重視される
- N. TA・SA（上級生や専攻科生）から補助・指導を受ける



[8] 大学の授業や授業以外の学習状況

- A. 授業課題のために図書館の資料を利用した
- B. 授業課題のために Web 上の情報を利用した
- C. インターネットやイントラネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした
- D. 提出期限までに授業課題を完成した
- E. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容について話したりした
- F. 授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた
- G. 授業を欠席した
- H. 授業に遅刻した
- I. 授業をつまらなく感じた
- J. 授業中に居眠りをした
- K. 教職員に学習に関する相談をしたり、学内の学習支援室を利用したりした（オフィスワーカーも含める）
- L. 単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した
- M. 大学の教職員に将来のキャリアの相談をした（卒業後の進路や職業選択など）
- N. 教員に親近感を感じた

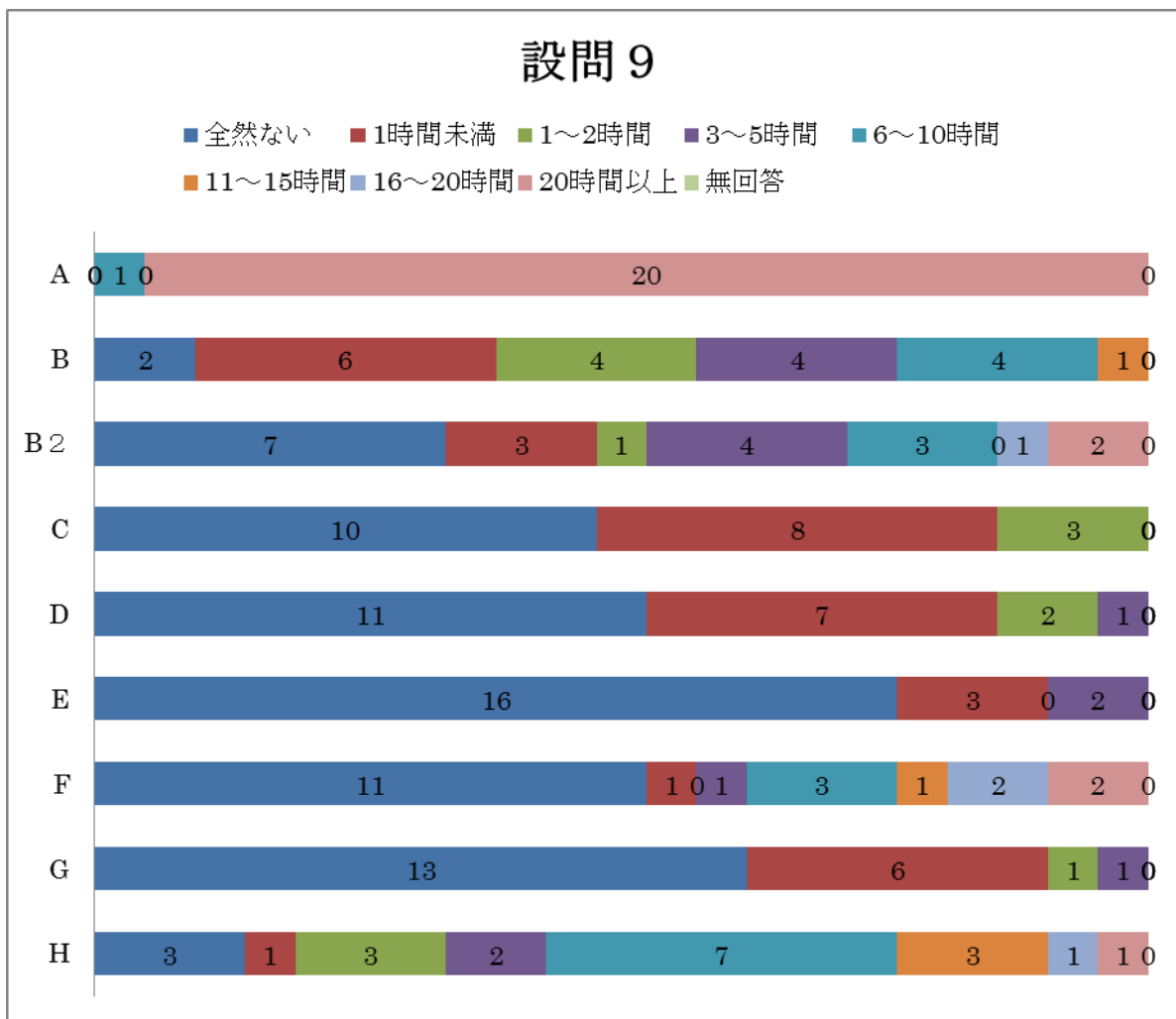


[9] 専攻科に進学してから、活動に費やしている **1週間あたり**の時間数

- A. 講義や実習に出席する [参考] 90分×4コマ×5日間=30時間
- B. 授業時間以外に授業課題や準備学習、復習をする [参考] 1日2時間×7日=14時間
- B2. アクティブ・ラーニング科目（学内の演習や学外での実習など）に関する授業外学修時間
- C. 授業時間以外に、授業に関連しない勉強をする
- D. オフィスアワーなど、授業時間以外に教員と面談する
- E. 部活動や同好会に参加する
- F. 大学外でアルバイトや仕事をする
- G. 読書をする（マンガ・雑誌を除く）
- H. 個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）

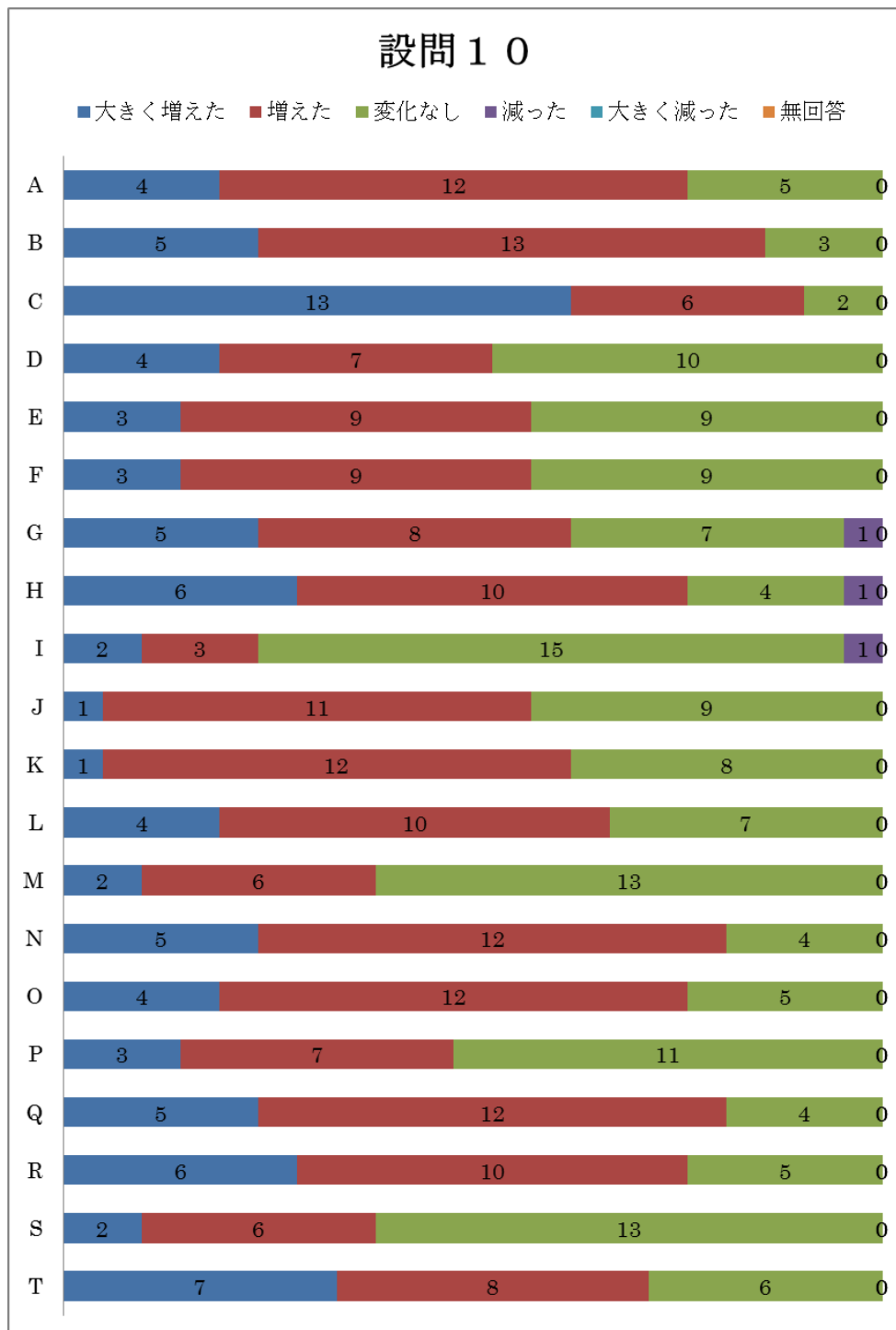
※時間の目安

- 1日30分×7日=3.5時間 1日60分×7日=7時間
- 1日1.5時間×7日=10.5時間 1日2時間×7日=14時間

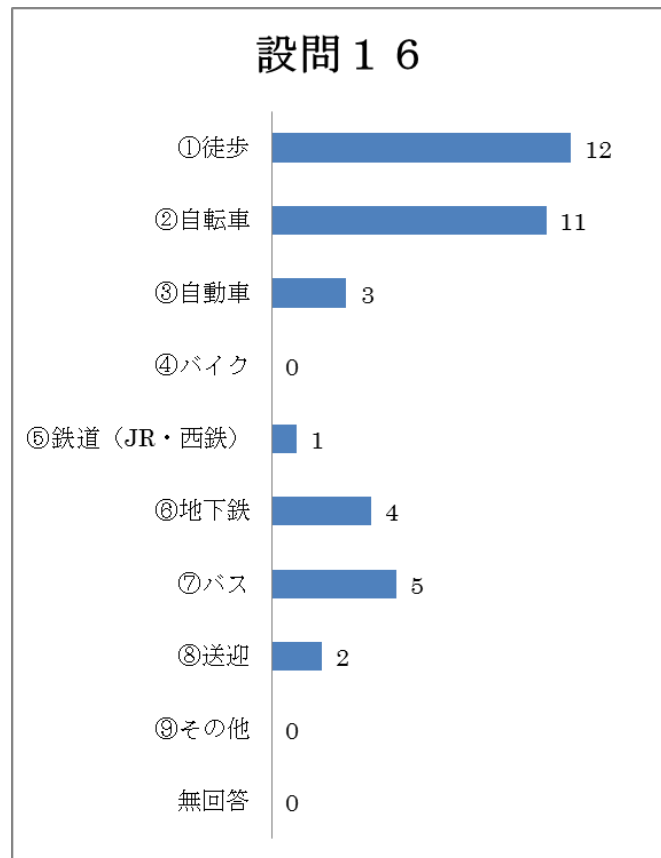


[10] 1年次と比べた能力や知識の変化

- A. 一般的な教養
- B. 分析力や問題解決能力
- C. 専門分野や学科の知識
- D. 批判的に考える能力
- E. 異文化の人々に関する知識
- F. リーダーシップの能力
- G. 人間関係を構築する能力
- H. 他の人と協力して物事を遂行する能力
- I. 異文化の人々と協力する能力
- J. 地域社会が直面する問題を理解する能力
- K. 国民が直面する問題を理解する能力
- L. 文章表現の能力
- M. 外国語の運用能力
- N. コミュニケーションの能力
- O. プレゼンテーションの能力
- P. 数理的な能力
- Q. コンピュータの操作能力
- R. 時間を効果的に利用する能力
- S. グローバルな問題の理解
- T. 就職に向けての知識・技術力

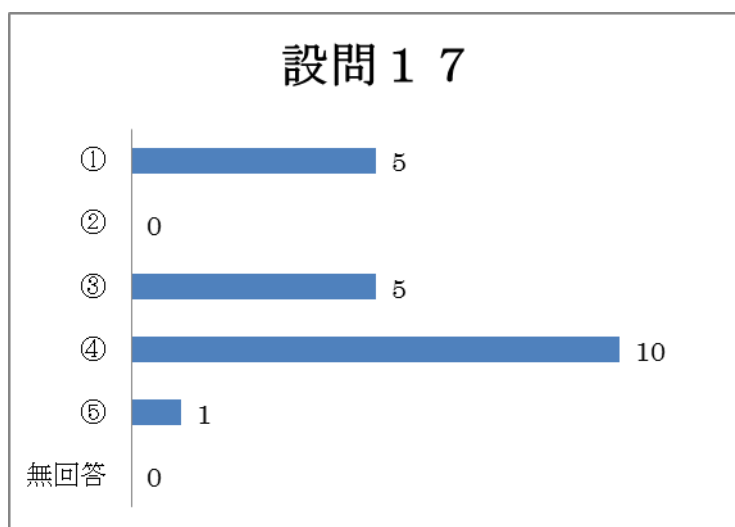


[16] 大学までの交通手段（当てはまるものすべてに○をつける）



[17] 奨学金の利用

- ①日本学生支援機構の奨学金 ②日本介護福祉士修学資金
③以前受けていたが今は受けていない ④受けていない ⑤その他

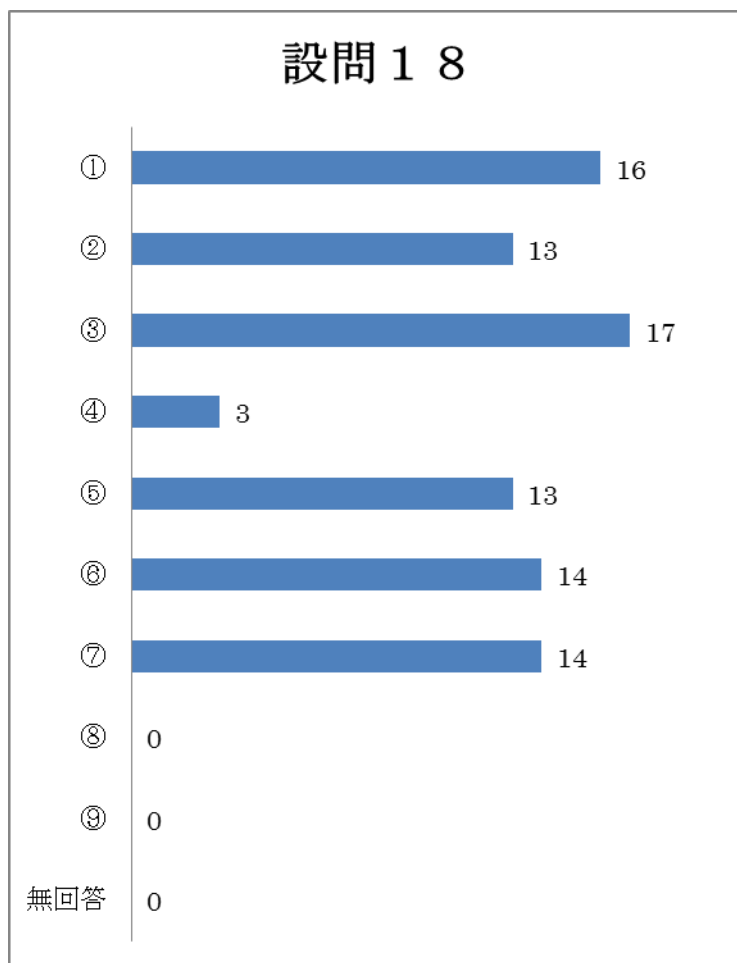


【その他の回答】

なし

[18] 大学生生活の目的

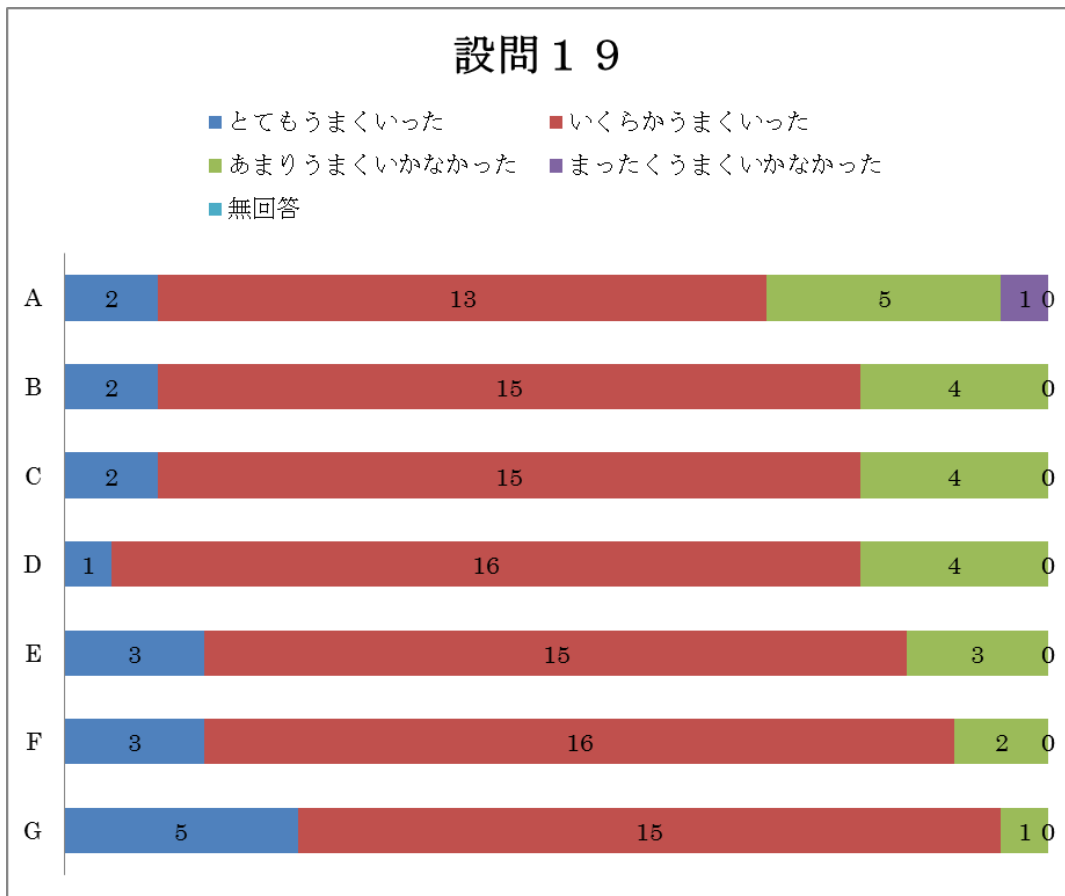
- ①専門的な研究や知識を身につける ②豊かな教養を身につける ③学歴や資格を得る
④クラブやサークルを楽しむ ⑤希望する職業に就く ⑥学生生活を楽しむ
⑦友達とのかかわりを楽しむ ⑧特に目的はない ⑨その他



V. 大学生活に対する考えや満足度について

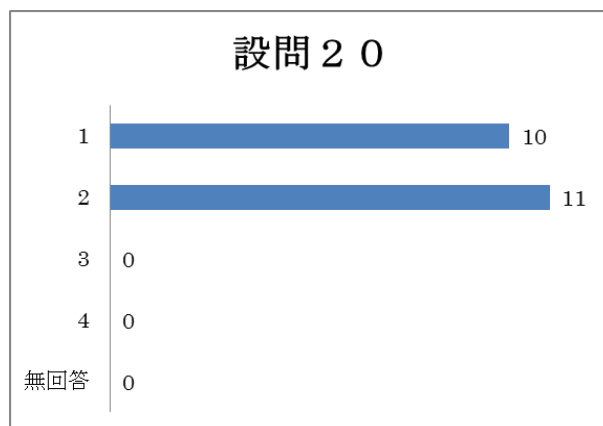
[19] 専攻科に進学してからの大学生活について

- A. 大学の学生向けサービスを上手に利用する
- B. 大学教員の学問的な期待を理解する
- C. 効果的に学習する技能を修得する
- D. 大学が求める水準に応じて学習する
- E. 時間を効果的に使う
- F. 大学教員と顔見知りになる
- G. 他の学生との友情を深める



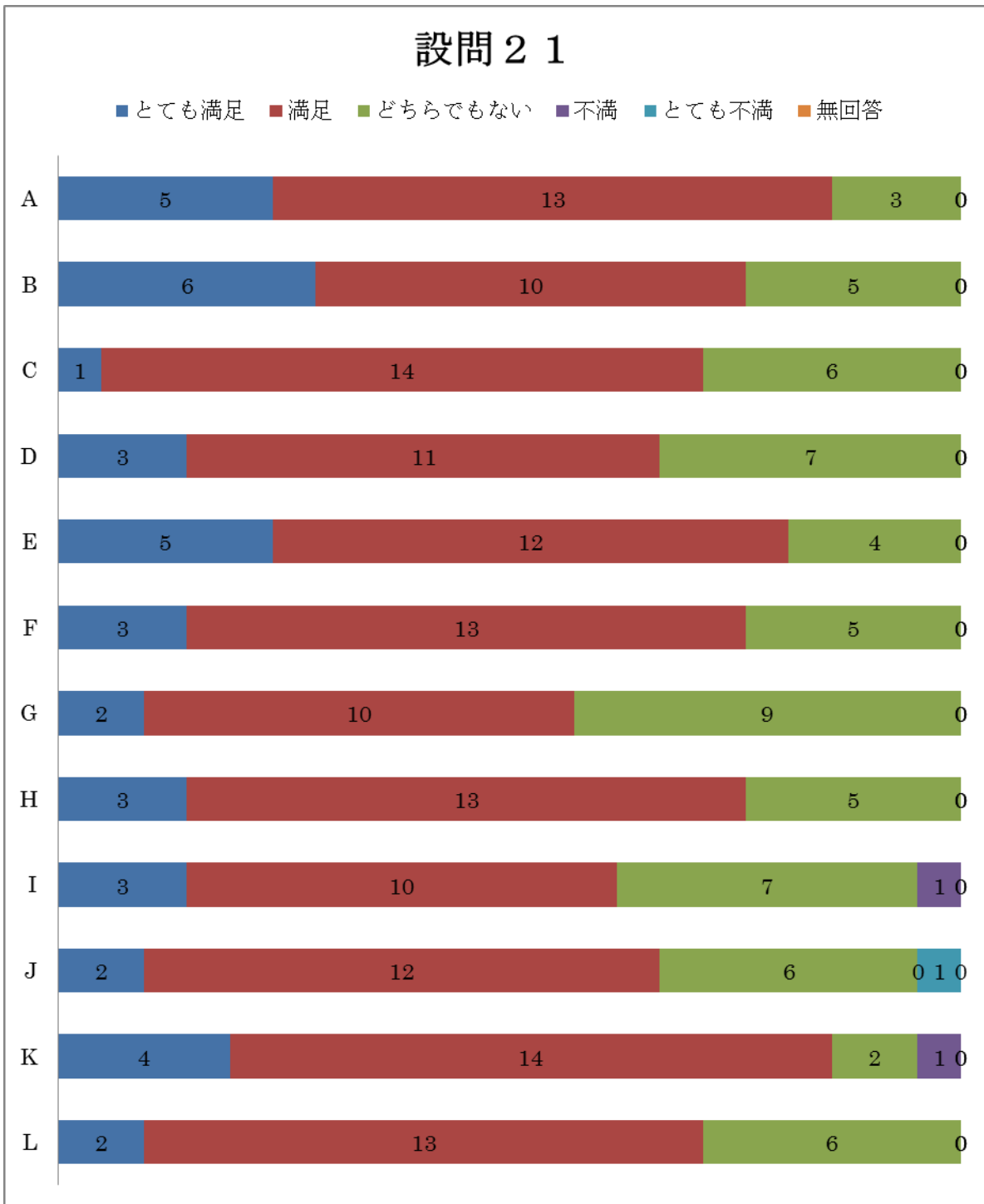
[20] 学生生活の充実

- 1. 充実している
- 2. まあまあ充実している
- 3. あまり充実していない
- 4. 充実していない



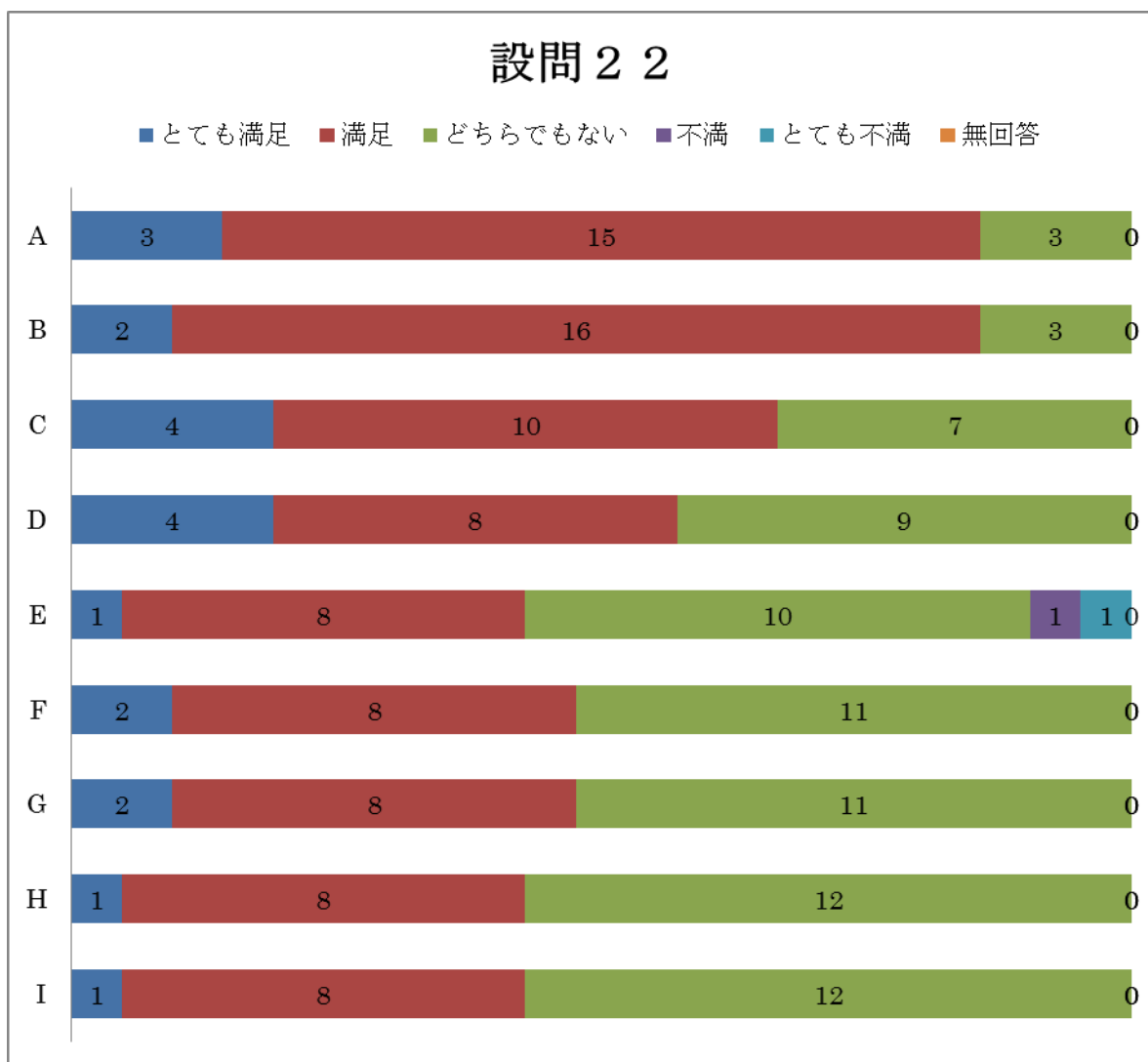
[21] 教育内容の満足度

- A. 専門教育あるいは所属学科の授業
- B. 所属学科の学内実習や学外実習
(臨床・臨地実習、臨床実地等)
- C. 授業の全体的な質
- D. 日常生活と授業内容との関連
- E. 将来の仕事と授業内容との結びつき
- F. 教員と話す機会
- G. 個別の学習指導や学習支援 (履修相談など)
- H. 他の学生と話す機会
- I. 大学のなかでの学生同士の一体感
- J. 多様な考え方を認め合う雰囲気
- K. 大学での経験全般について
- L. 1つの授業を履修する学生数



[22] 設備や学生支援制度の満足度

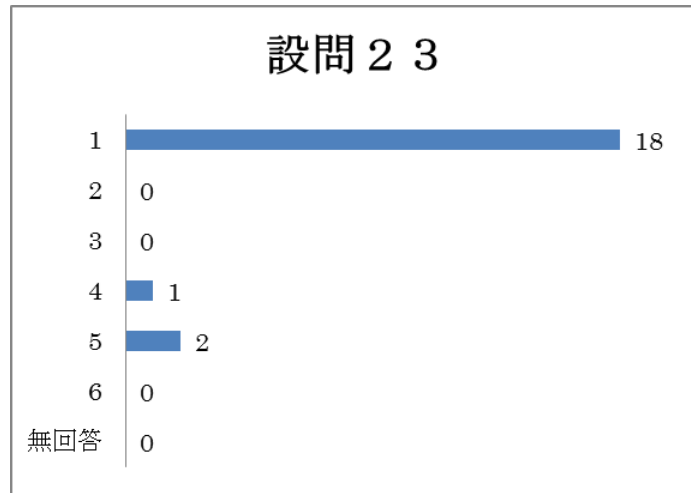
- A. 図書館の設備(蔵書やレファレンスサービス：図書館員による情報提供・資料検索他)
- B. 実習室の設備や器具
- C. コンピュータの施設や設備
- D. コンピュータの訓練や援助
- E. インターネットの使いやすさ
- F. 奨学金など学費援助の制度
- G. 健康・保健サービス（心身の健康に関わる問題についての診療や相談：歯科を含む）
- H. レクリエーション施設（体育館の設備など）
- I. キャリアカウンセリング(就職や進学に関する相談)



VI. 専攻科修了後の進路について

[23] 修了後の進路予定

1. 就職する
2. 留学する
3. 他大学に（編）入学する
4. 他の専門学校に進学する
5. まだわからない
6. その他（具体的に）

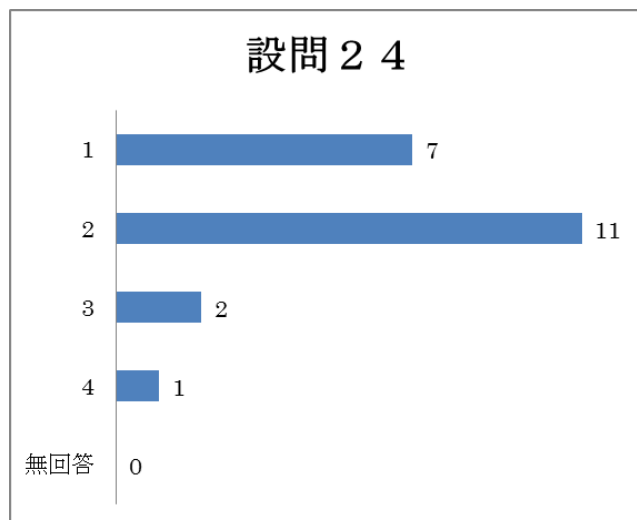


[24] 将来の見通しと現在の状態

以下の2つの文章を読んで、あなたのいまの状態にもっとも近い番号を選んでください。

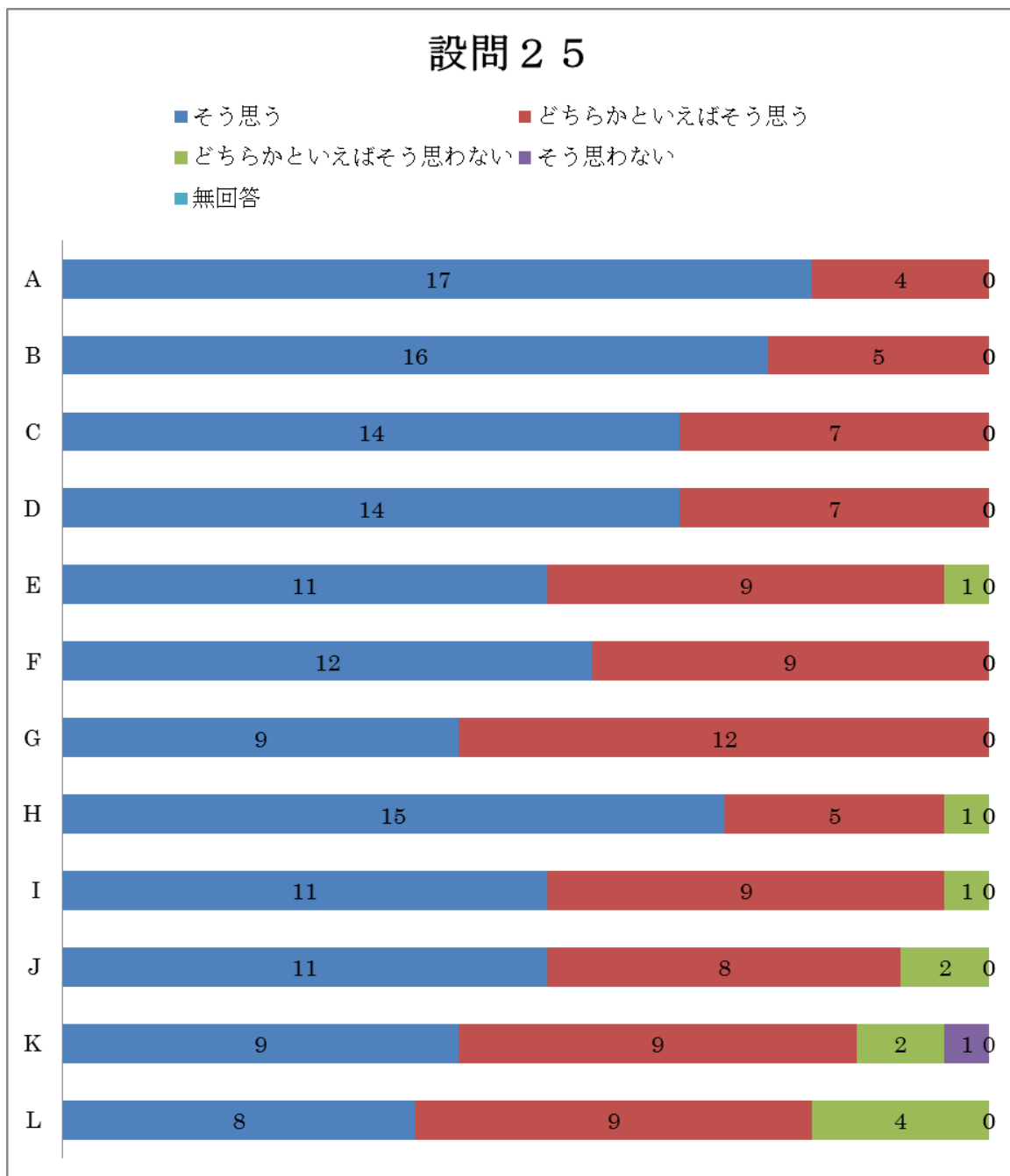
- ・あなたは、将来の見通し（将来こういう風でありたい）を持っていますか。
- ・その見通しのなかでもっとも重要なものを1つ思い浮かべてください。
あなたは、その見通しの実現に向かって、自分が何をすべきなのかわかっていますか。
また、それを実行していますか。

1. 将来の見通しを持っている + 何をすべきかをわかっているし、実行もしている
2. 将来の見通しを持っている + 何をすべきかをわかっているが、実行は出来ていない
3. 将来の見通しを持っている + 何をすべきかをわからない
4. 将来の見通しを持っていない



[25] 専攻科修了後の進路のために、大学在学中に経験したいこと

- A. 専門分野の知識・技術をしっかり身につける
- B. 専門分野だけでなく、幅広い知識を身につけ視野を広げる
- C. 職業意識の形成につながる教育を受ける
- D. 学外実習施設での体験実習等を踏まえた上で、専門知識を学ぶ
- E. 教員が設定した特定の課題に対して、チームで取り組むプロジェクト型の授業を受ける
- F. 自分で課題を見つけ、自分で解決していくような訓練を受ける
- G. ディベート（討論）やプレゼンテーションの訓練を受ける
- H. 実践的で専門性のある資格を取得するためのプログラムを受ける
- I. レポートや論文指導により、文書作成能力を高める
- J. 修了後の進路について、教職員に対して個別に相談する
- K. 修了後の進路について、本学の卒業生や先輩と話をする
- L. 本学の教職員以外の人と話をする



以上